ISSN 0912-8182

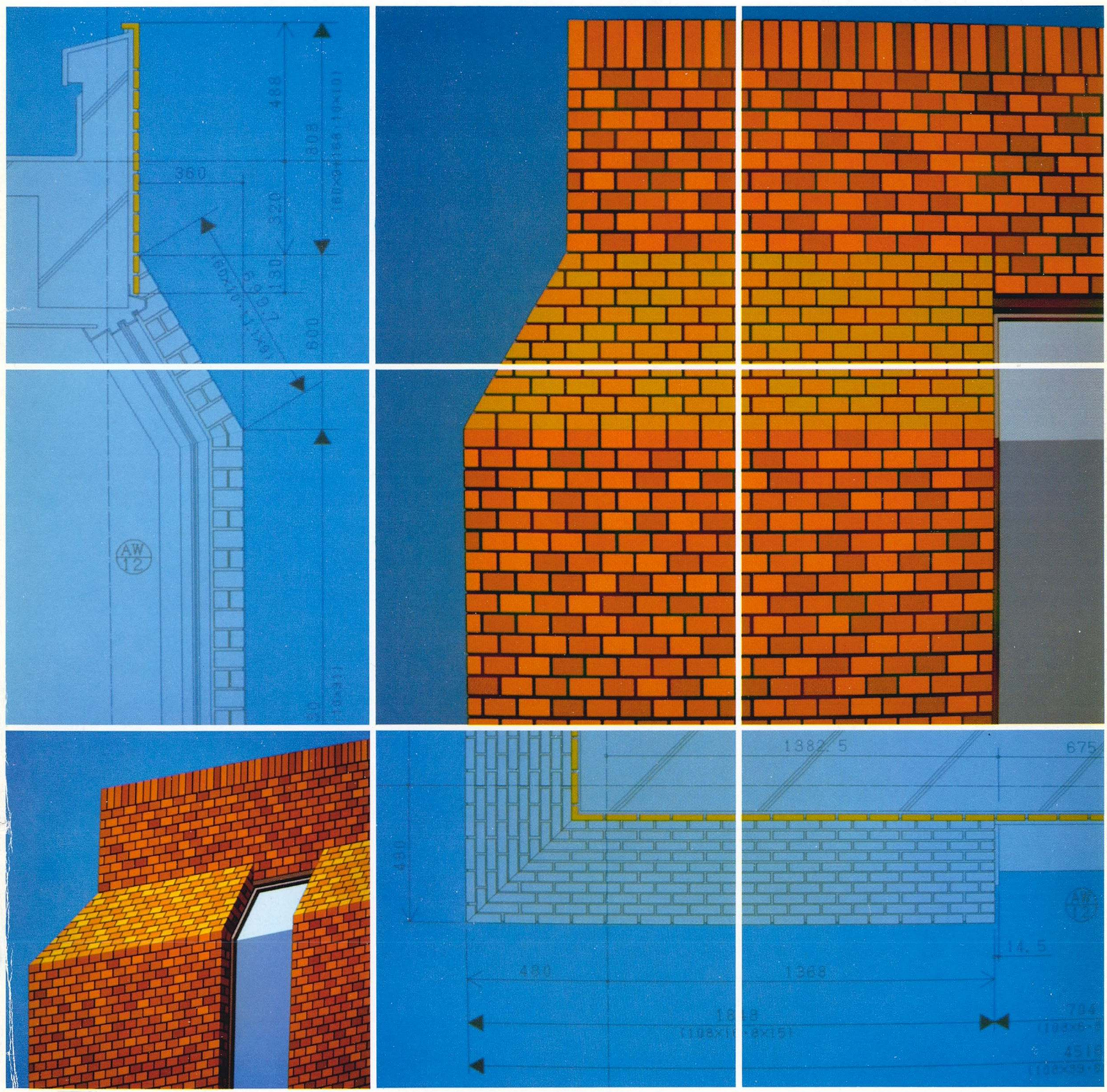
Vol. 69 通巻794号　昭和63年5月25日発行・毎月1回25日発行・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

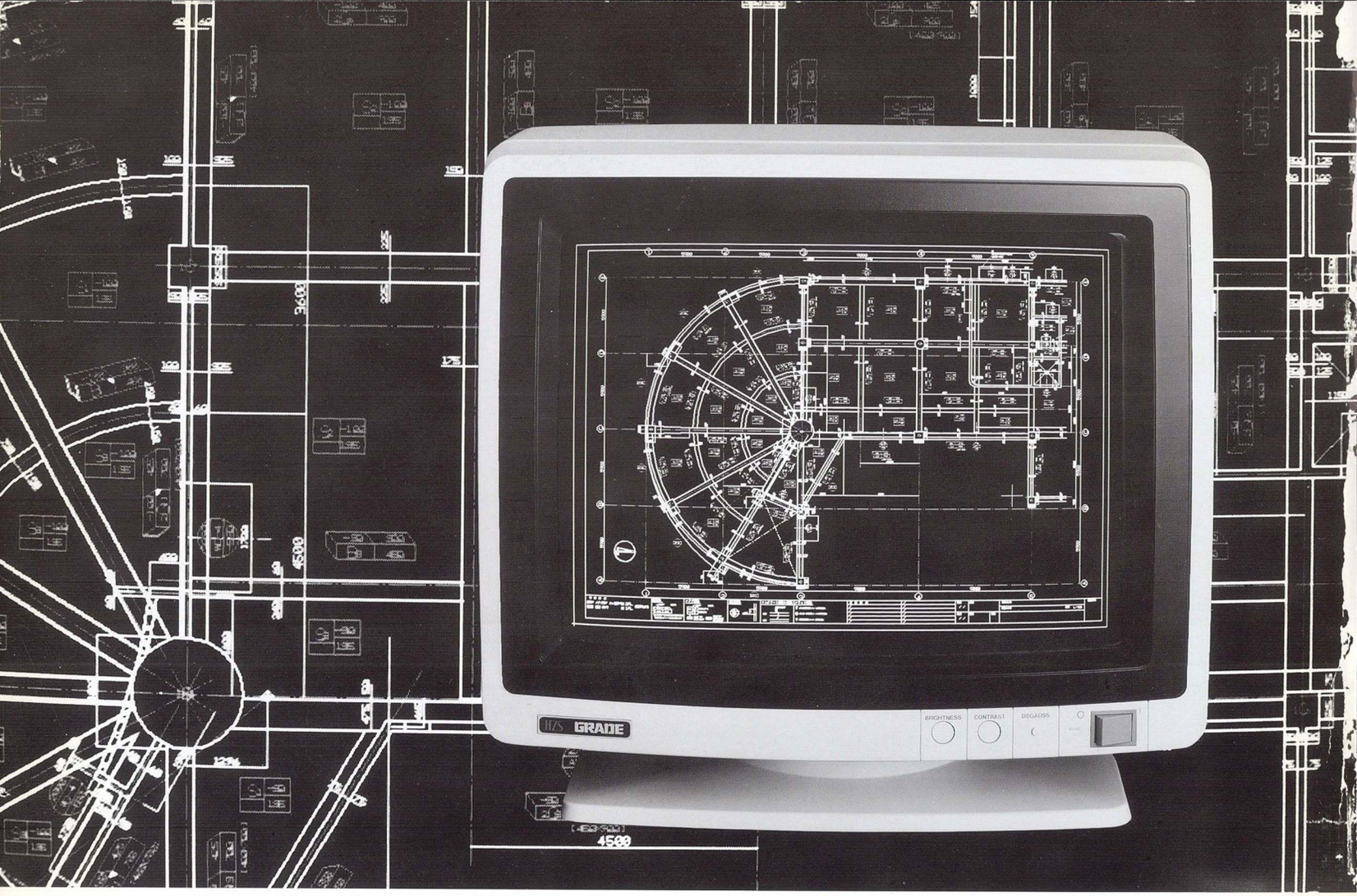
ARCHITECTURE AND SOCIETY

1988 5

特集■都心居住



日本建築協会



GRADE/CASDは、コンクリート施工図を、正確かつスピーディに描く、極めて建設的な専用CADシステムです。

GRADE/CASDの特徴

❶専用の手書入力シートによる、簡単しかも効率的なデータ入力

シートにデータを記入するだけなので、入力作業が同時並行に、かつ設計図の順序にしたがって行なわれます。できあがったシートから自動的にコンピュータにデータが取込まれ、しかもデータの修正・流用も容易。なにからなにまで極めて簡単な操作でお使いいただけます。

❷生産性はなんと、3倍から5倍以上

通常2日から3日かかる施工図面でも、半日でできます。コピー機能を使えばこの時間は更に短縮できます。

❸図面は自動出力されます

入力データをもとに、作図処理が自動的に行われます。したがって、任意の縮尺で、任意の場所を、用紙の任意の位置に何枚でも出図できます。また、XY2方向の任意の断面図も同時に出図します。

❹部材を他の階にコピーできます

部材配置データを他の階に流用し、その階の部材配置データとして使用できます。従って全階入力する必要がなく、たいへん効率的です。

❺白図を出力できます

コンクリート施工図から寸法、記号などを取去った白図が出力できますので、設備図、仮設図などへ図面が流用できます。

GRADE CASD

コンクリート施工図専用CADシステム

HZS 日立造船情報システム(株)

東京本社/〒108 東京都港区高輪1-4-10 J.W.トンプソンビル ☎(03) 447-5300
大阪本社/〒550 大阪市西区江戸堀1-22-17 西船場辰巳ビル ☎(06) 448-5081
名古屋営業所/〒460 名古屋市中区丸の内3-18-28 KSビル ☎(052)961-0241
広島営業所/〒732 広島市東区光町1-23-1 第1寺岡ビル ☎(082)262-9050
九州営業所/〒810 福岡市中央区天神2-14-8 福岡天神センタービル ☎(092)761-7643

CAD/CAM教育・CAD/CAM実用化に関するご相談を承っております。

◀通常総会開催通知

昭和63年度第１回通常総会を下記のとおり開催いたしますので、何卒ご出席下さいますようお願い申し上げます。

社団法人　日本建築協会
会　長　佐　野　正　一

記

と　き　昭和63年 **6** 月**29**日(水)　午後５時30分～６時

ところ　社団法人　日本建築協会
大阪市北区梅田１丁目１番３－2100
大阪駅前第３ビル21階

ぎだい
(1)　昭和62年度一般勘定事業報告並びに決算報告承認の件
(2)　昭和63年度一般勘定事業計画並びに収支予算承認の件
(3)　創立70周年記念事業
昭和62年度事業報告並びに決算報告承認の件
(4)　創立70周年記念事業
昭和63年度事業計画並びに収支予算承認の件

◀会員の受賞

このたび、下記会員の諸氏は、建設界における多年の功績によって、表彰を受けられました。

ここに誌して、その栄誉をお慶び申し上げます。

記

勲三等瑞宝章
安藝　元清氏（元・日建設計社長）
杉江　傅六氏（元・錢高組副社長）
川島　春雄氏（川島織物会長）
花村　茂彦氏（日刊建設産業新聞社会長）

藍綬褒章
大岡　　昇氏（大林組副社長）
古賀　義根氏（東陶機器社長）

黄綬褒章
伴　　一郎氏（西原衛生工業所大阪店社長）

大阪府知事表彰
東　　輝夫氏（三国タイル店社長）
江藤　正昭氏（万年スレート社長）
児玉　康雄氏（澁谷金属産業社長）
蜷川　守男氏（大阪装飾社長）

お願い：「建築と社会」作品欄の充実をはかるため、例年、新しい建築作品の情報の提供を願ってます「新建築調査表」の締切日が迫ってます。
ご依頼申しあげた関係各位（設計・建設部門の団体会員）は６月10日までに本会編集部までご返送下さるようご協力をお願い申し上げます。

「建築工芸と空間」展

作野旦平の創意によるステンドグラス／モザイック／アフレスコ

毎年、建築協会ラウンジで開催しています展覧会も、今年で4回目となりました。今回の展覧会は、フレスコ画をはじめとして、日本の風土に生まれた独自の新しい手法で、ステンドグラス・モザイックを使い、みごとに建築の中に息づく空間を生み出してこられた作野氏に、ご登場いただきます。

作野氏は長年、村野藤吾・浦辺鎮太郎両氏など建築家との協同作業を通して、素材に対するきびしさを意識しながら伝統的な領域に現代の感性を取り入れて製作に取り組まれ、その作品からは「自然」と「ある趣の幻想的響き」に満ちたものを得ることができます。

今回は原画・写真・試作品などの展示とともに、ビデオ（予定）にても作品を紹介するもので、氏の手法による豊かな空間へご案内できるものと思います。

展覧会初日には、作野氏を迎え、さらに建築家菅家克子氏をインタヴュアとしてお招きし、スライドを交えての講演を予定しております。氏自身の作品についての方法論（イメージの創造）と、今後さらに建築家と建築工芸家との空間を通じての新たなかかわりあいについて語られます。

また、講演後、音楽とワインをかたむけながらのひとときも予定しておりますので、奮ってご参加下さい。

■展 覧 会　「建築工芸と空間」展
作野旦平の創意によるステンドグラス／モザイック／アフレスコ

開催期間　1988年 6 月23日(木)→ 6 月25日(土)
午前10時～午後7時（入場無料）
ただし、初日（23日）は午後5時まで。

会　　場　日本建築協会・ラウンジ（大阪駅前第3ビル・21階）

■講 演 会　「建築工芸と空間」―スライド併用―

日　　時　1988年 6 月23日(木)　開会18：30→閉会21：00

会　　場　日本建築協会・ラウンジ

講　　師　作野旦平氏

インタヴュア　菅家克子氏

定　　員　40名

参加会費　会員 1,000円、会員外 1,200円

申　　込　ハガキまたは電話にて、氏名・勤務先名(学校名)・連絡電話番号・参加証送付先及び所在地・郵便番号・催し名称・会員、会員外の種別をご連絡下さい。申込締切6月16日(木)午後5時まで。申込者多数の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。

（日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100大阪駅前第3ビル21階 TEL 06-348-0633）



滋賀県琵琶湖研究所
会議場のステンドグラス
（琵琶湖の四季・冬の比良山）



■作野旦平氏ご紹介

＊1931年生まれ。
＊武蔵野美術学校にて長谷川路可氏に、ヴェネチュアアカデミー美術学校にてブルーノ・サエッティ氏に師事しフレスコ画を研修する。
＊1964年より、フレスコ画と共に新しい発想によるステンドグラス・モザイック表現を試みつつ、建築の中にその独特な技法を用いながら、種々の建築に新たな工芸空間を意図し制作を続けている。
初期の千代田生命本社のモザイック、トラピスチヌ修道院西宮聖堂等の作品は村野・森建築事務所の協同によるもので、この作家のその後の作風を決定づけている。
作風は自然感にあふれ、明るく、時には宗教的なおもかげさえ見せている。

■主な作品

1966年　千代田生命本社／モザイック
68年　西鉄グランドホテル／モザイック、アフレスコ
69年　トラピスチヌ修道院（西宮）／ステンドグラス
70年　ルーテル神学大学／ステンドグラス
71年　世界救世教神殿／モザイック
72年　玉野市文化センター／モザイック、アフレスコ
〃年　倉敷市民会館／モザイック、ステンドグラス、アフレスコ
73年　日本興業銀行本店／モザイック
1973年　玉野市民病院／ステンドグラス
74年　倉敷アイビースクエア／アフレスコ
76年　千里阪急ホテル（第一期～第三期）／ステンドグラス、アフレスコ
77年　宝塚カトリック教会／ステンドグラス
80年　倉敷市市庁舎／ステンドグラス、アフレスコ
〃年　旧第六高等学校記念館／ステンドグラス
81年　津田塾大学（学生ホール）／モザイック
〃年　京都児童福祉センター／アフレスコ
82年　滋賀県琵琶湖研究所／モザイック、ステンドグラス、アフレスコ
〃年　玉野市レクレセンター／モザイック
84年　神奈川県立近代文学館／ステンドグラス
〃年　日本女子大学成瀬記念館／ステンドグラス、アフレスコ
〃年　田口邸／アフレスコ
86年　滋賀県立近江八幡商業高等学校／ステンドグラス、アフレスコ
〃年　山陽学園上代記念館／ステンドグラス
87年　栗東町立図書館／モザイック、ステンドグラス
〃年　倉敷中央病院管理センター／ステンドグラス、アフレスコ
88年　滋賀県農業情報センター／ステンドグラス
〃年　志賀町町民センター／ステンドグラス

◀讀賣テレビ新社屋の見学

讀賣テレビ放送新社屋が、ＯＢＰ（大阪ビジネスパーク）に誕生しました。

報道・制作部門と各種スタジオのある低層棟（Ｂ２、５Ｆ）と事務部門のある高層棟（Ｂ２、14Ｆ）の２棟で構成されています。高層オフィス棟は、２本の半円シリンダーコアのみで支持するユニークな大架構構造で25ｍスパンの無柱空間が実現し、テレビ局のシンボル鉄塔とパラボラアンテナを建物内部にビルトインしたスマートな外観が目を引くことでしょう。またエントランスロビーは三層吹抜の大きなアトリウム空間で、正面広場の野外ステージや北側リバーサイドの緑のプロムナードと一体になり、全体が広々としたサテライトスタジオとして各種イベント中継が可能となっています。

日　　時　6月18日㈯　集合14:00→解散16:30
集合場所　現地讀賣テレビ新社屋入口（北側）付近
＊ＪＲ・京阪「京橋駅」よりＯＢＰへの歩行者専用道を利用
定　　員　60名
参 加 費　会員 500円、一般 1,000円
当日受付にていただきます。
申込方法　ハガキかＦＡＸまたは電話で６月10日㈫までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田１－１　大阪駅前第３ビル21階　ＦＡＸ06－348－0634　☎06－348－0633）へお申込ください。催し名（讀賣テレビ放送新社屋の見学）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

※追って参加証をお送りします。なお、申込者多数の場合は抽選にて決定します。

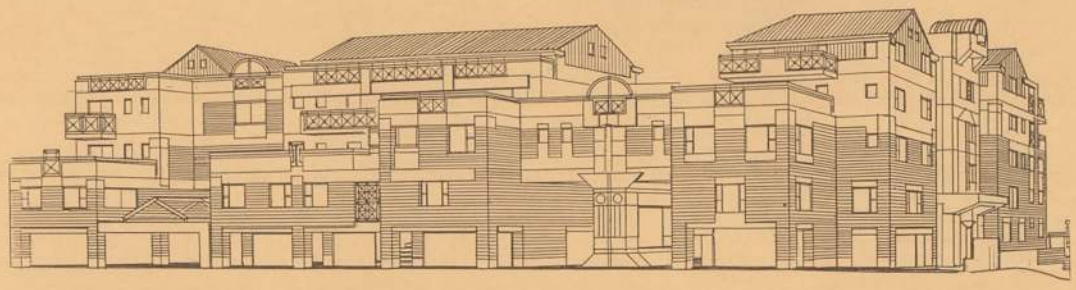
●建築概要
所 在 地　大阪市東区城見2−2（ＯＢＰ内北東角）
建 築 主　讀賣テレビ放送株式会社
設　　計　日建設計・鹿島建設
監　　理　日建設計
施　　工　鹿島建設
敷地面積　8,264.50㎡
建築面積　4,893.79㎡
延床面積　29,702.79㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ２、14Ｆ、Ｐ２
工　　期　昭和61年４月～昭和63年４月



話題建築を聞く　第２回

◀りりぱっとはうす　遠藤剛生氏に聞く





●建築概要
所 在 地　神戸市東灘区住吉東町４－31・32
建 築 主　株式会社プラネットワーク
設計監理　遠藤剛生建築設計事務所
施　　工　大林組
敷地面積　1,778.54㎡
建築面積　1,242.66㎡
延床面積　4,383.50㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、５Ｆ
工　　期　昭和61年８月～昭和62年８月

人口の都市集中により市街地は高密度利用を余儀なくされている。街中は店舗や住宅を積層した複合型の建築物が林立する状況にあるが、その居住性能が問われている。そのような中にあって複合型都市住宅の新しいあり方を次々に提案されている遠藤剛生氏を囲んで、最近の事例のスライドを見ながら設計手法をお聞きし、また質疑を交えて参加者全員で語り合いたいと思います。

日　　時　7月16日㈯　14:00～16:00
場　　所　㈳日本建築協会会議室（大阪駅前第３ビル21階）
定　　員　30名（予定）
参 加 費　会員 1,500円、一般 2,500円
（学生：会員 1,000円、一般 1,500円）
申込方法　ハガキかＦＡＸまたは電話で７月８日㈮までに日本建築協会事業課（〒530 大阪市北区梅田１－１　大阪駅前第３ビル21階　ＦＡＸ 06－348－0634　☎06－348－0633）へお申込ください。催し名（話題建築を聞く―「りりぱっとはうす」遠藤剛生氏に聞く）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

※追って参加証をお送りします。なお、申込者多数の場合は抽選にて決定します。

このプロジェクトは、大阪ガスの系列会社が神戸市東灘区にあった社有地を活用して進められたものである。周辺地域の環境は、東と西と南は静かな住宅地であり、北は路線型商業施設が連なっている。これら二つの地域が重ね合わされたゾーンの中に、この敷地はある。計画の条件は地階と１階に駐車場、１階と２階の½に子供中心の衣料や遊具とおもちゃのデザイン事務所など、それ以外は１ＬＤＫから５ＬＤＫまでの賃貸住宅である。

この計画のポイントは、子供の遊びと、生活中心の、商業空間と都市型賃貸住宅が有機的に共存できる空間を見つけ出すことだったと考えている。子供のための広場と住宅のための中庭を重ね、どちらにとっても意味のあるオープンスペースとして機能してくれればと考えている。

この計画で用いたデザイン的方法は、種々雑多な建物が混在する地域の様子や、周辺住宅の規模とこの建築の関係や、この建物自身の用途や、住戸の広さや型のバラエティー、法的規制等々を考慮し、屋根の型や棟の方向、外壁の素材の表情、くり返しの数・素材の質感や色など建築を構成する各要素を分節し、ハイスタイルなものよりもむしろバナキュラーなものへと計画の方向を定め、強さや硬さより、軟らかさや優しさを優先した。　（遠藤剛生）

1917創刊
1988
69集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

「建築と社会」5月号表紙
■作品名「タイル」■作者 株式会社松村組■使用ハードウェア NDGMV15000、D－SCAN GR2415(グラフィック・ディスプレイ)■使用ソフトウェア 日立造船情報システム㈱ GRADE/CASD、GRADE/D■施工図CADシステム(GRADE/CASD)で作ったタイル割付図(二次元)より、三次元モデルを作成し、着色してみた。タイルの焼きムラは乱数を使って5段階の色をばらまいた。影をつければ、もう少しリアルに表現できたと思う。

■特集予告
6月号／ひろしまの町なみと中国地方の展望
7月号／21世紀への照明
8月号／構造特集(予定)
9月号／超高層住宅(予定)
10月号／共同住宅のリフレッシュ(仮称)

5 通巻794

会告

作品作風

Gallery
スケッチブック
東海ルネサンス
東海の建築マップ
ブックステーション

私が読んだ本
新建材紹介コーナー
法令コーナー
バックナンバー目次
GBRCニュース
建築の眼

特集

イントロダクション
エッセイ

都市のシーン

モノグラフ
スポット

構造の頁158
設備の頁160
施工材料の頁159
Information

会員の声
月報

会長 佐野正一
副会長 足立 孝・市川 宏
松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和63年度）
■編集理事
金井 弘次
金多 潔
小島 雄
須賀 好富
高木 登
竹中 練一
武田 恭一
長谷部朝郎
松村 慶三
渡辺 恵
■編集委員長
長谷部朝郎
上田 信也
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
角島 健二
河端 秀直
小浦 久子
鈴木 克彦
高田 佳子
田中 直人
平岡 博
吉村 英祐
☆建築計画系
江副 敏史
加藤 晃規
北村 潤
鳴田 聖二
庄野 利博
西川 純一
前川 治彦
牧野由美子
三宅 淳
森田 晴美
山中 恵子
山本 匡
☆インテリア・住宅系
石倉 健彦
加藤 力
神谷 剛
北山 喜与
駒田 哲男
★構造分科会
和泉 一義
清 孝好
辻岡 静男
福山 國夫
外園 隆
和田 勉
★設備分科会
安倍 浩一
石河 信治
石野 幸義
遠藤 進
梶井 宏修
河津 隆之
佐藤 秀彦
別所 清
村上幸三郎
★施工材料分科会
大木 利文
志水 史典
田添 寿昭
山下 仁志
山田 敏雄
横井 征夫
★法令分科会
大前 博司
笠井 精二
広瀬 丈洋
南出 和延
■作品作風小委員会
荒川 朱美
遠藤 公介
岡本 隆
北澤 修一
玉崎 良和
塘 伸夫
林 浩二
福地 一彦
松田 善弘
宮下 幹雄
水川 尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
伊藤 郁郎
今井 邦夫
北村 恭一
柴田 厚
高田 光雄
塚口 明洋
堀畑 裕一
溝口 正人
■広告企画小委員会
池渕 俊男
佐野 寛志
下村 甫
中川源治朗
原田 常介
藤田 孝吉
山下 修司
渡辺 恵

印刷 昭和63年5月20日
発行 昭和63年5月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 日本写植印刷株式会社
電 06—606—1111㈹
大信印刷株式会社
電 06—451—7631
青葉印刷株式会社
電 06—351—5428㈹
定価 950円（送料共）

特集●建物の外装リフレッシュ

SPECIAL FEATURE ON LIVING IN THE INNER CITY

通常総会開催通知．会員の受賞．「建築工芸と空間」展—作野丹平の創意によるステンドグラス/モザイク/アフレスコ．讀賣テレビ新社屋の見学．話題建築を聞く—第2回・りりばっとはうす—遠藤剛生氏に聞く — 1
京都府立山城総合運動公園体育館 — 設計監理：新日本技術コンサルタント — 4
主体工事：飛島・横田・朝日共同企業体
小松市庁舎 — 設計：奥野建築設計事務所 監理：小松市建設部建築課・奥野建築設計事務所 — 8
施工：熊谷組北陸支店
小浜市庁舎 — 設計：石本建築事務所 監理：小浜市役所・石本建築事務所 — 10
施工：熊谷組・若狭建設・日登建設・鳴田工務店建設共同企業体
CITY SCREEN I—松下聡（設計：池上俊郎建築事務所） — 12
最近竣工した新建築18点（No.2107～2124） — 14
住みたくなる街づくり…／佐々波秀彦vs中島一 — 16
景観としての建築—藤枝市立図書館．常滑市民文化会館・中央公民館 — 19
新刊書8点—「梅田センタービル物語」「荒野と開拓者」「女、家を産む」「極4」「装飾と罪悪」「アドルフ・ロース」「シティダスト・コレクション」「西澤文隆の仕事・全3巻」 — 22
タウトからロースへ／土肥美夫 — 23
「パワーシリコン#220・#300」／末木俊昭 — 25
「大阪市総合設計許可取扱要綱」の改正(その1)／増田靖生 — 26
「建築と社会」大正6年9月～大正8年1月まで — 27
昭和63年度事業計画 — 29
図と地の逆転／川崎清．サインデザイン／原田明治 — 30
風呂と間合い／出江寛．億ションとMansion、そして兎小屋と兎穴／松谷輝雄

都心居住

都心居住とは何か —— 東 孝光 — 32
都心に住む—都心の魅力、魔性—
ネットワーキングを楽しむ／大村皓一 — 34
自由自在に都市を使い楽しむために／高田昇 — 34
コルティッソに住むロザリーナの20年／Caterina Nagamine — 35
市場たる都心／安在洛 — 36
たくあんのはなし／芝静代 — 36
〈都市一世〉は都市に自己実現の場を求めた／岡田信幸 — 37
変貌する過密都市・香港／牛尾好孝 — 38
A MATTER OF COICE／Elizabeth Oliver — 38
天津の住宅環境／楠本利夫 — 39
下町長屋コート／谷口康彦 — 40
日本的なものを一心に、まちに…／Prashant Pardeshi — 40
Heart Ware を都市居住に生かしたい／徐礼信 — 42
都市と図書館と私／劉京華 — 42
やっぱり人間が好きだ／井口勝文 — 43
ニューヨークから／林和久 — 44
記憶にない都市／Daiane Durston — 45
ランドマークとしての都市、パフォーマンスする都市 — 46
写真と文とまとめ：高田佳子＋小浦久子＋田中直人
施設分布からみた都市居住論 —— 柏原 士郎 — 50
大阪の街と人 —— まとめ：岡田信幸＋小浦久子 — 55

木構造シェルーなら・シルクロード博から—／久徳敏治 — 57
新しいガス給湯機／西川辰也 — 59
屋上駐車場用防水工法／池田定 — 61
大阪市の中心部、中之島に"先進型住宅のショーケース"誕生．建築士事務所登録申請のお知らせ．建築家内井昭蔵講演会．新住宅普及会創立40周年記念シリーズシンポジウム．天童木工展1988．大阪府の催し．「ニュータウン世界フォーラム報告書」発刊のお知らせ — 66
会員アンケートの意見より(2) — 68
日本建築協会月間の動き（昭和63年3月分） — 69

全景

昭和54年度より建設を進めてきた府立山城総合運動公園“太陽が丘”もこの体育館でスポーツ施設の一応の完成をみた。“太陽が丘”は京都府南部地域の都市公園と運動施設の充足を計るため、宇治市東部丘陵の折居国有林100haに設けられた総合運動公園である。

公園のほぼ中央に人々の集散の拠点となる中央広場があり、体育館は広場をはさんで公園全体の管理運営のコントロールを行なう公園センターと相対している。

公園の各施設は豊かな自然を周囲に残し、スポーツ施設はすべて掘込み式で芝生園地と一体化し、広々とした景観を形づくっている。

体育館もこれにならって、アリーナ面をメインアプローチの中央広場より一段下げて設置し、正面からの外観を低くして、建物の圧迫感を和らげている。

外観は大和棟をデザインモチーフとし、メインアリーナに大屋根を架け、ギャラリー上部を一段下げた切妻屋根とし、公園センターとの調和を計った。



中央広場よりのアプローチは2階にあり、ゆったりとした2層吹抜のホワイエを設け、1階競技スペースと3階ギャラリーへの動線の分岐点とした。

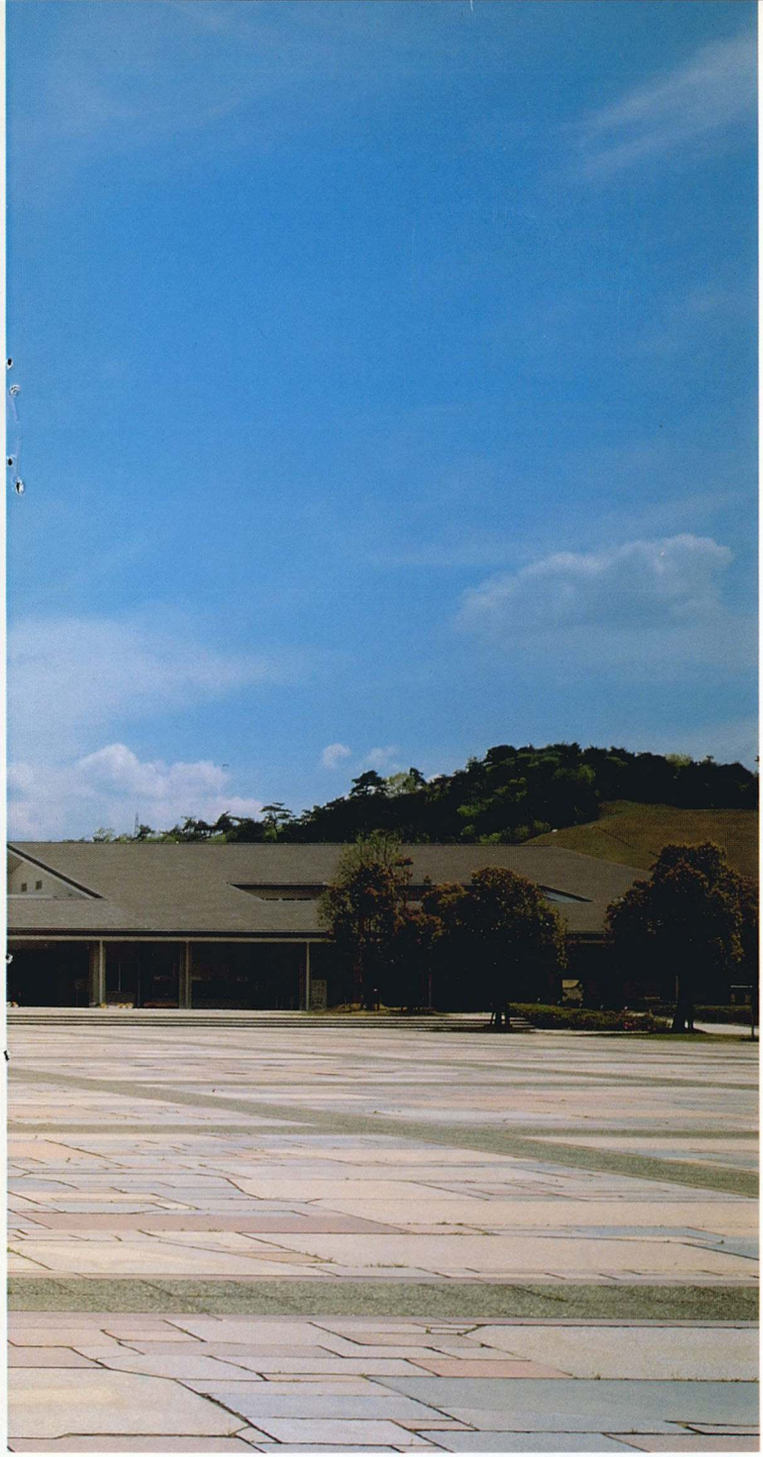
メインアリーナは42m×62mあり、天井の高さは20m～14mあり関西でも有数の大きさで、ハンドボール2面が並行して行なえる規模である。

アリーナの照明は全灯時1,500Lxあり、パターン点灯方式をとり、かつトップライトからの昼光利用による点灯制御を導入している。

又、隣接するゴミ焼却場から蒸気の供給を受け、シャワー等への給湯、アリーナを含めた諸室の冷暖房に利用する等、省エネルギーを計っている。

この体育館が“太陽が丘”の建設理念である地域社会に根ざした府民の運動施設として誰もがスポーツをやってみたくなるような「見る」スポーツから「する」スポーツへの誘発を計るような体育館として、府民のスポーツ振興の一助となれば幸いである。

（中川　清／新日本技術コンサルタント）



京都府立山城総合運動公園体育館

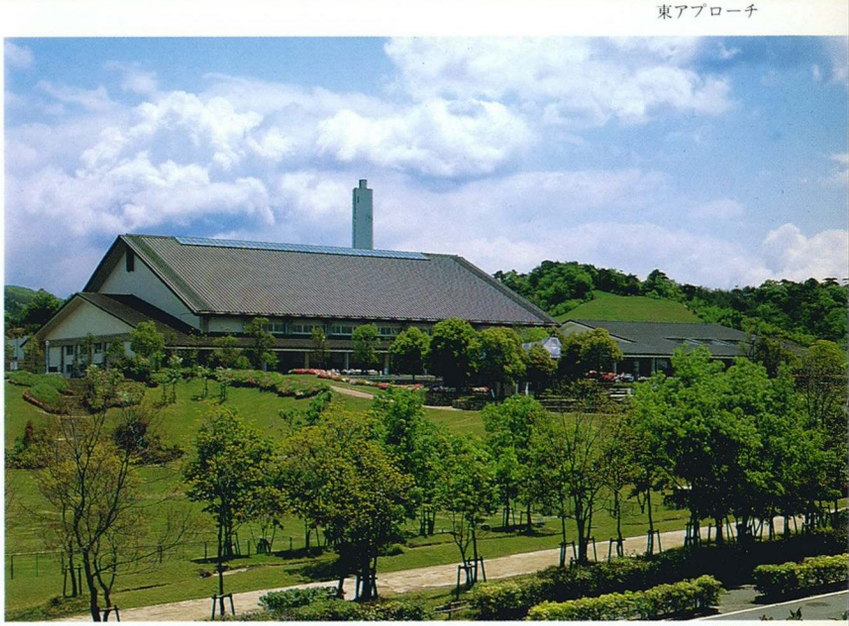
設計監理　新日本技術コンサルタント
主体工事　飛島・横田・朝日共同企業体
電気設備　近畿・二谷・伊藤共同企業体
給排水衛生設備　ユニチカ・森共同企業体
空調設備　扶桑・京都共同企業体



東アプローチ



南面



西北より見る



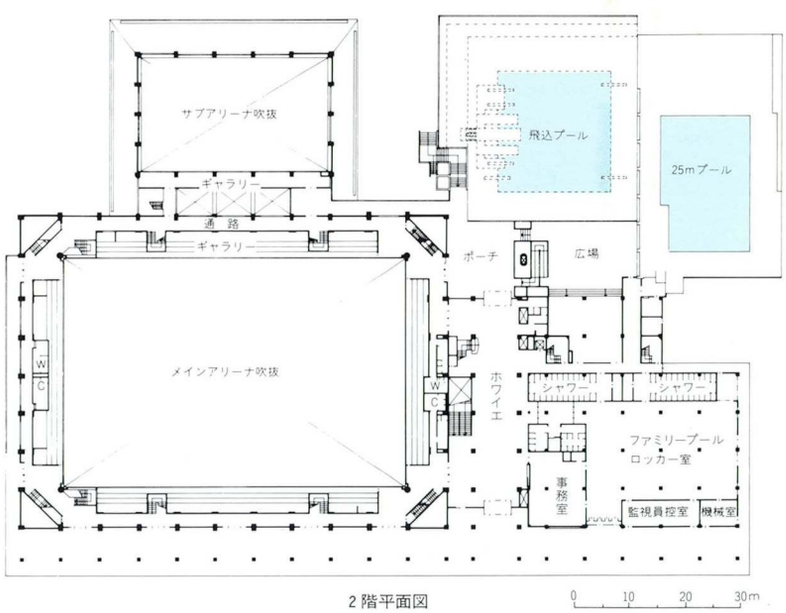
メインアリーナ



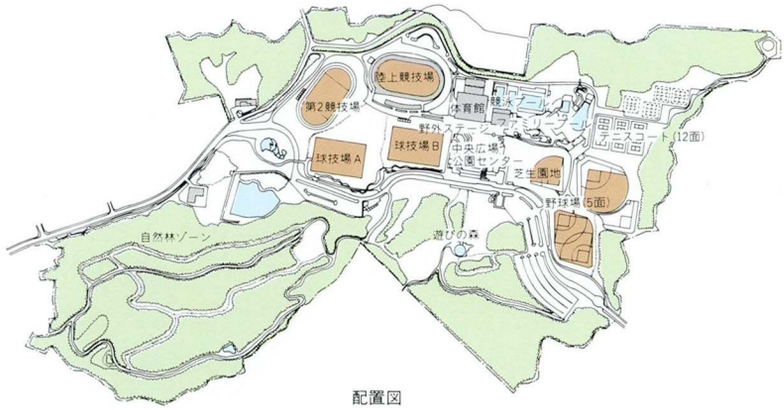


ホワイエ

所 在 地　宇治市宇治折居1
敷地面積　884,065.58㎡
建築面積　9,344.30㎡（既設1,677.52㎡＋今回7,666.78㎡）
延床面積　11,098.00㎡（更衣棟2,123.00㎡＋体育館8,975.00㎡）
構造規模　RC、一部S、3F
工　　期　昭和60年10月～昭和62年9月
最 寄 駅　JR西日本奈良線宇治駅
撮　　影　玉城俊男、SS大阪



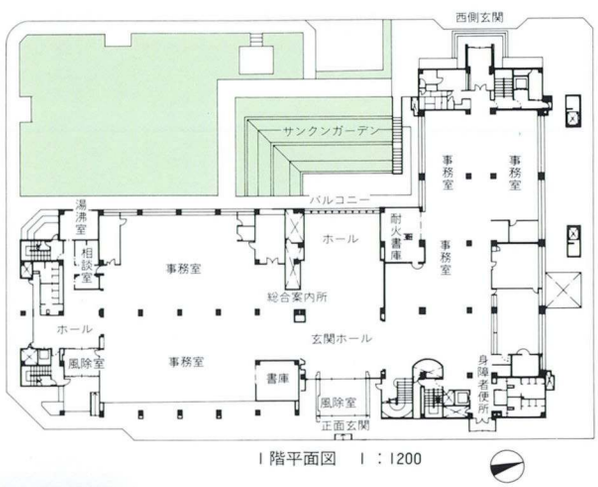
2階平面図



配置図

小松市庁舎

設　　計　奥野建築設計事務所
監　　理　小松市建設部建築課・奥野建築設計事務所
施　　工　熊谷組北陸支店



1階平面図　1：1200


南側事務室

所 在 地　小松市小馬出町91
敷地面積　24,290.25㎡
建築面積　 4,105.33㎡
延床面積　17,243.87㎡
構造規模　SRC、B1、7F
工　　期　昭和60年10月～昭和62年11月
最 寄 駅　JR北陸本線小松駅

撮　　影　島　修一



西面ディテール(夕景)



正面エントランス

小松市の中心に位置する敷地は、既存庁舎、市民の憩の場ともなっている芦城公園に隣接し、市街地でありながら24,290㎡という広大な空間が確保され庁舎の環境として申し分のないものであった。私共は計画するにあたり、(1)芦城公園との調和に配慮し公園の中にある庁舎として位置づける。(2)市民広場を創出し、四季おりおりの祭りや行事など市民交流の活性化に役立つものとする。(3)庁舎を構成する議会部門（独立性）、窓口部門（わかりやすさ）、執行部門（機能性）を市民の利便性をメインテーマとして計画する。(4)親しみやすさの中に市民の象徴となるよう表現する。このような基本方針によって進めた。外観の構想としては、低層棟と高層棟によって構成される外かくに、安全性や採光調節と省エネルギー、維持管理を配慮したバルコニーを設け、外装は小松表をイメージし、芦城公園の松に映える落ち着いたベージュ色の打込みタイルを帯状模様のスクラッチタイルとともに採用し、親しみやすさ、象徴性を表現している。室内の事務空間は、将来の多様な変化に対応するべく、意匠、構造、設備計画のシステム化を計り、3.6m×8.0mの内部空間ユニットを考え、間仕切の設置や移動など事務空間の自由性に対応している。議会部門は、低層棟の３階４階とし、市中枢部門との連絡を保ちながら独立性を高め、市民のシンボルを考慮した高層棟は、両端コアーを採用し、機能性に重点が置かれている。低層棟と高層棟は、１階及び２階で接続され、生み出された大きな内部空間は、市民の利便性を配慮した窓口部門とし、吹抜けのある市勢資料展示ホールを中心にわかりやすい空間構成とした。歴史的あるいは文化的な面を内部空間にとりいれたものとして、九谷焼による陶壁、小松綸子の壁面使用、美術品を展示する展示棚など各所に計画し、内部空間の充実を計っている。おわりに、小松市関係各位の御指導と施工各社の御協力に感謝するとともに、この庁舎が市民に役立ち、末永く愛されますよう切に願うものです。

（徳山長英／奥野建築設計事務所）



ホール

小浜市庁舎

設　　計　石本建築事務所
監　　理　小浜市役所・石本建築事務所
施　　工　熊谷組・若狭建設・日登建設・嶋田工務店建設共同企業体

若狭は古来都と大陸を結ぶ要路であり早くから大陸文化の影響を受け、すぐれた文化産業が栄えたところである。

若狭の中心地小浜市にこのほど21世紀を目指す「シンプルでモダンな庁舎を」の考えをもとにデザインされた新市庁舎が竣工を迎えた。

この新庁舎は現市庁舎の裏側に接して建設され完成後既存旧庁舎は撤去し庁舎前庭として環境整備が行なわれた。周辺は公共施設ゾーンとして形成されている関係からこの前庭は市民の憩いの場、ミニ公園またイベント広場として多目的な利用が考えられている。

交通網としては、国道162号線と都市計画街路小浜縦貫線（将来は北陸新幹線駅への幹線道路）に接した最適地である。

新庁舎のメーンアプローチは多目的広場からとして計画した。

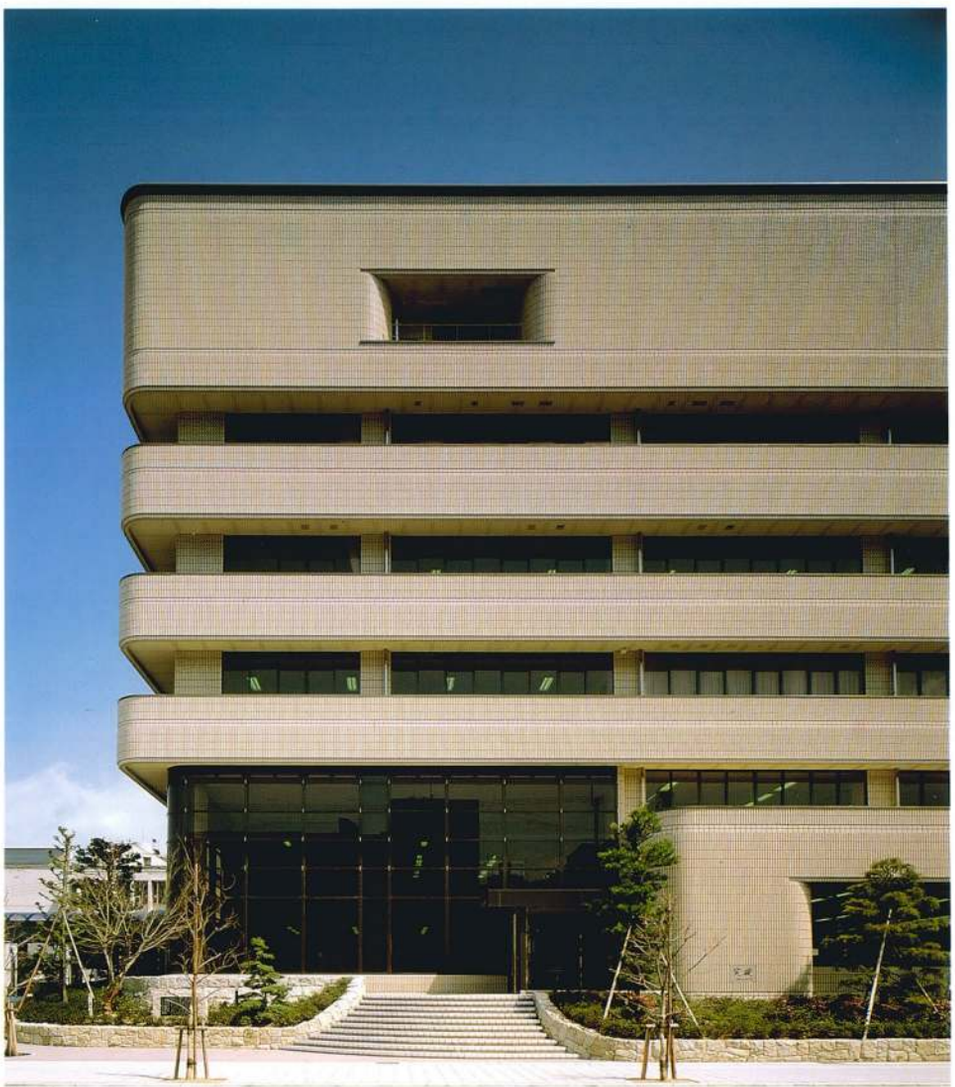
外壁は耐久性と建物の表情を考慮して特殊タイル貼とした。

内部は機能の重視はもちろん将来の変化への対応を配慮しゆとりのある空間づくりにつとめた。

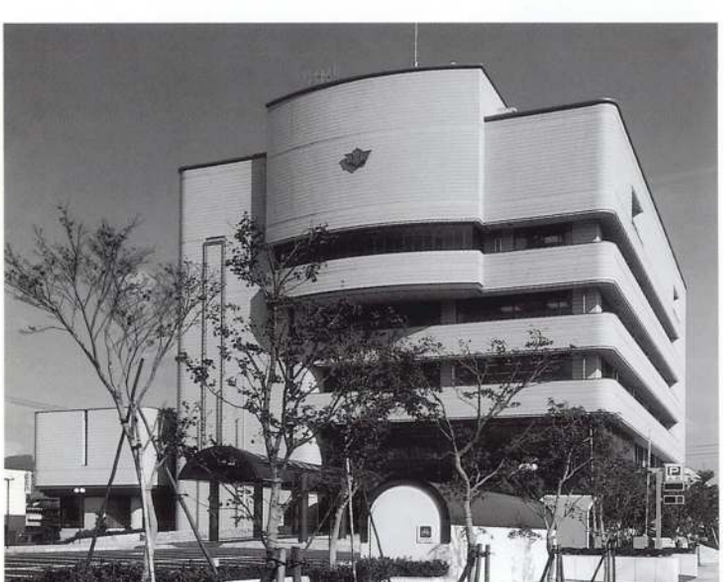
特に安全性については、建築・設備の全ての面に留意するとともに将来のＯＡ化・インテリジェント化に対応できるよう、配慮がなされています。

この新市庁舎が市民の皆様に親しまれ愛されるとともに長く将来に亘って時代の要求にこたえていけることを期待します。

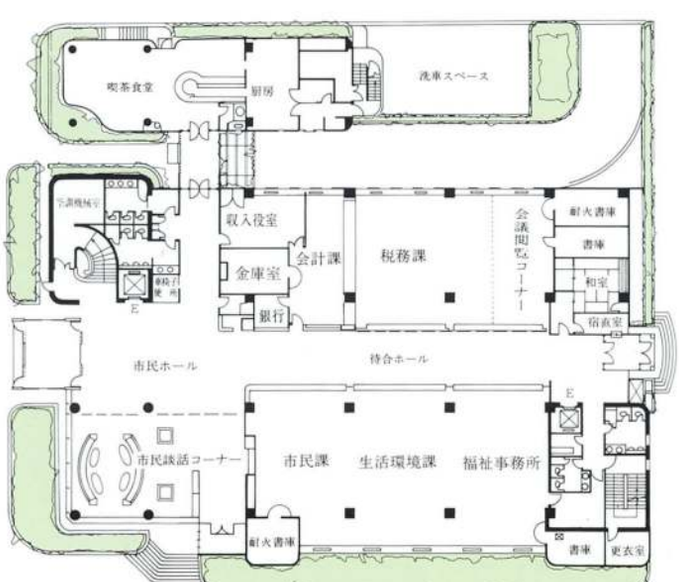
（勢力諭美／石本建築事務所）



南面ディテール



全　景



所 在 地　小浜市大手町6-3
敷地面積　6,291㎡
建築面積　1,780㎡
延床面積　9,050㎡
構造規模　SRC、B1、6F、PHIF
工　　期　昭和60年11月～昭和62年10月
最 寄 駅　JR小浜線小浜駅

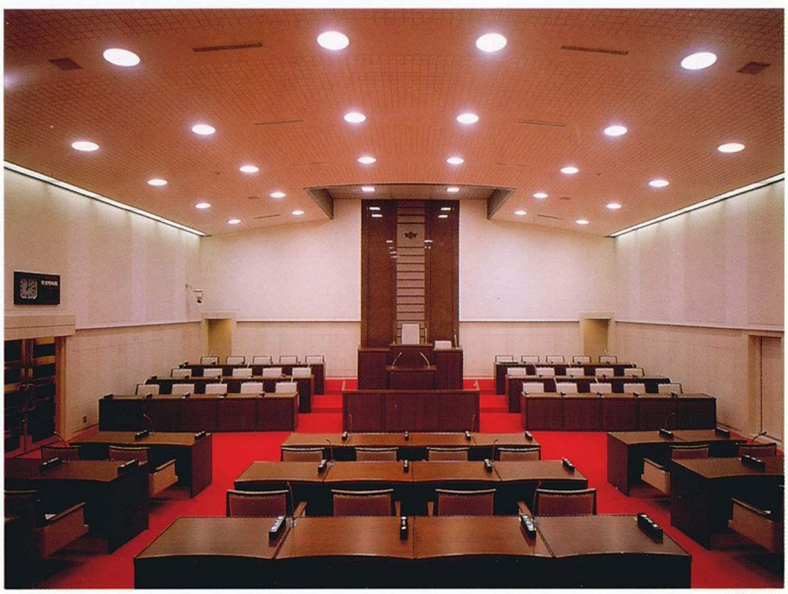
撮　　影　島　修一



市民談話コーナー



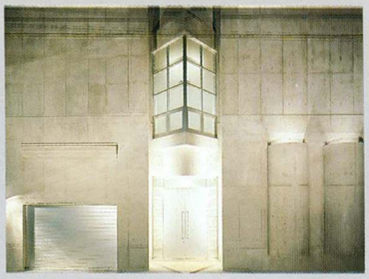
事務室

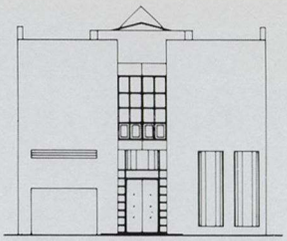


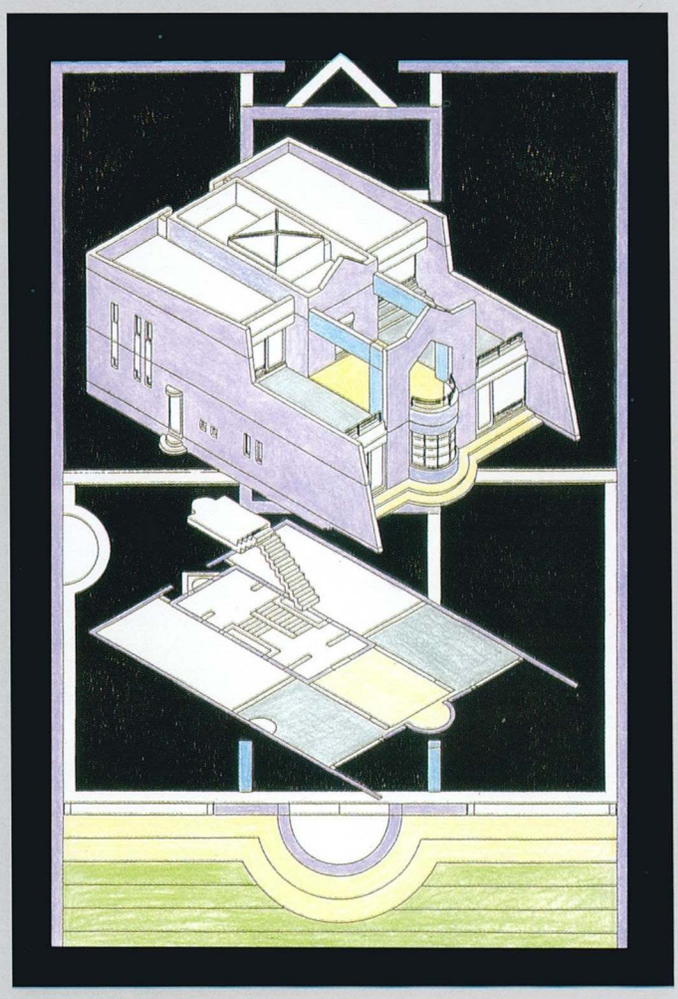
議　場

Gallery

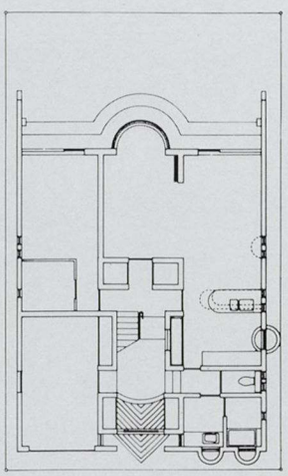
まち・建築・ひと





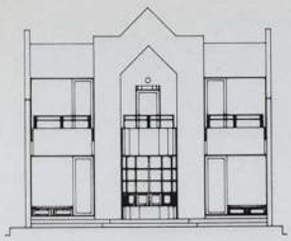






CITY SCREEN I 松下邸
設計監理 池上俊郎建築事務所
(アーバンガウス研究所)
池上俊郎 池上 明
施 工 谷安組(担当·斉藤俊吉)
所 在 地 大阪市旭区清水2-8-7
敷地面積 195.05㎡
建築面積 113.61㎡
延床面積 176.59㎡
構造規模 壁式鉄筋コンクリート造·2階建
工 期 昭和59年6月～昭和59年11月

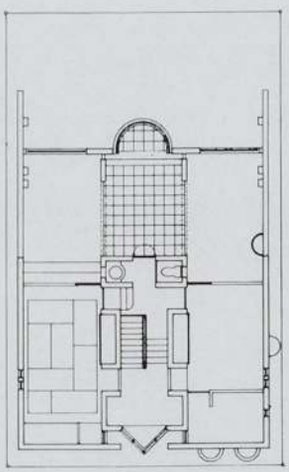
CITY SCREEN I





- 解剖台上の私性群
- UARBAN GAUSS＝都市の磁場の電磁単位
- SCREEN＝結界
- AXIS＝軸線
- SYMBOL＝象徴
- 不定形 or 不整形＝乱
- 角度を持った壁
- MULTI FOCUS＝多焦点
- MULTI VECTOR＝多元ベクトル





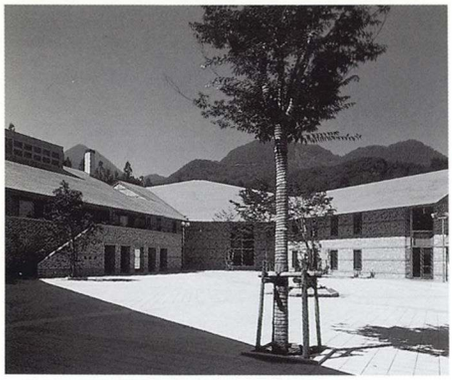
CITY SCREEN-Ⅰは大阪市旭区に立地する。周辺は区画整理された街並みである。建物はRC造2階建、壁式構造で形成される。1階を主寝室と食事・くつろぎのスペースとし、2階を和室・予備室としている。都市内居住であるが、都市から自立した内部風景の形成と、開放感の産み出しを図った。1階の庭、2階のテラスは、それぞれ敷地の約1/3の面積をもち、戸外のくつろぎのスペースを形成する。玄関を入ると階段室である。踊り場を利用した書斎がある。トップライトとサイドライトによって得られた光が、各室に分配される。
外的形態としては、北部、道路側を垂直の壁により閉鎖系とする、スリットに設けた3角柱の出窓が街と応答する。東西の斜壁は7.5°の角度をもち、シリンダーの出窓とともに、南部を開放系として終えている。

（池上俊郎）

池上俊郎
1948年　大阪に生まれる
1974年　大阪大学建築工学科卒業
1981年　池上俊郎建築事務所を設立
1986年　アーバンガウス研究所を設立
現在に至る

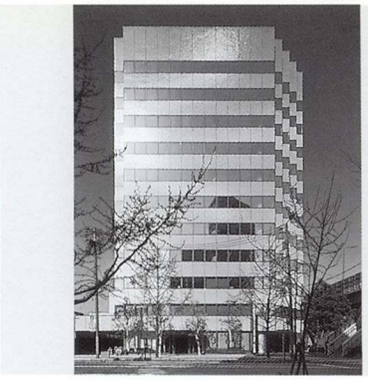
企画編集　作品作風小委員会　林　浩二
撮　影　畑　義温

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



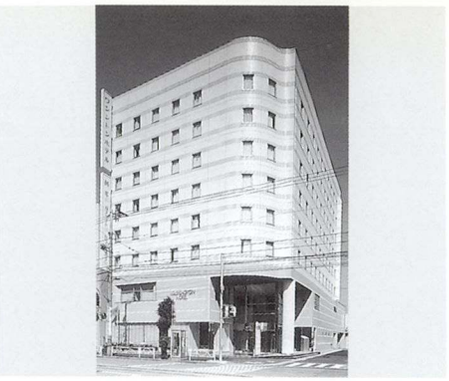
2107 横須賀市民休養村はまゆう山荘

設　計：岡設計
施　工：西武・馬淵・倉渕村建設業協同組合JV
a．群馬県群馬郡倉渕村大字川浦字高芝27
b．48,949㎡
c．　4,299㎡
d．　4,954㎡
e．RC、一部S
f．昭和60年７月～昭和62年３月
g．JR高崎駅



2108 大阪本町西第一生命ビル

設　計：日建設計
施　工：熊谷組
a．大阪市西区阿波座2-1-1
b．　1,348.57㎡
c．　1,168.94㎡
d．11,867.90㎡
e．地上SRC、地下RC
f．昭和61年２月～昭和62年４月
g．地下鉄御堂筋線本町駅



2109 高岡ワシントンホテル

設　計：竹中工務店
施　工：竹中工務店
a．富山県高岡市丸の内64-1
b．　924.82㎡
c．　812.75㎡
d．4,203.33㎡
e．RC、SRC、8F、P1
f．昭和61年６月～昭和62年６月
g．JR北陸本線高岡駅



2110 熊本市教育センター

設　計：熊本市建設局管理部建築課
施　工：豊工務店、長門工務店JV
a．熊本市千葉城町2-35
b．1,500㎡
c．　645.4㎡
d．2,028.7㎡
e．RC、B1、5F
f．昭和61年７月～昭和62年７月
g．JR鹿児島本線上熊本駅



2111 沖縄県民会館（大展示棟）

設　計：大谷研究室、国建JV
施　工：竹中工務店、国場組、なか工務店、前田建設JV
a．沖縄県宜野湾市字真志喜809
b．55,553㎡
c．　6,936㎡
d．　7,464㎡
e．S、RC、B1、2F
f．昭和60年３月～昭和62年８月
g．各社、各護又は石川線、真志喜バス停



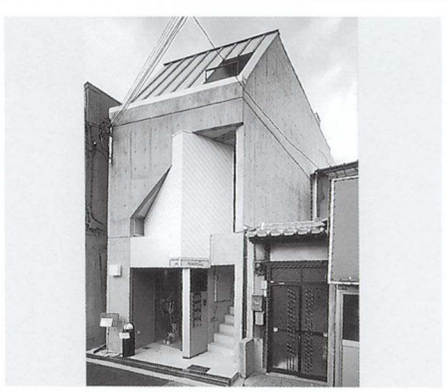
2112 医療法人八誠会守山荘病院体育館

設　計：佐藤工業一級建築士事務所名古屋支所
施　工：佐藤工業名古屋支店
a．名古屋市守山区大字守山字北山3～6他
b．18,681.00㎡
c．　1,305.74㎡
d．　3,954.33㎡
e．RC、B2、2F
f．昭和61年６月～昭和62年８月
g．名鉄瀬戸線守山自衛隊前



2113 灘神戸生活協同組合六甲アイランド食品工場

設　計：昭和設計
施　工：熊谷組・森本組JV
a．神戸市東灘区向洋町西2
b．29,998.655㎡
c．　9,703.508㎡
d．31,354.698㎡
e．SRC、8F
f．昭和61年６月～昭和62年11月
g．阪神御影駅



2114 西田辺の家

設　計：エヌ建築設計事務所
施　工：まこと建設
a．大阪市阿部野区阪南町5-23-6（住居）
b．　85.23㎡
c．　63.41㎡
d．180.54㎡
e．RC、3F
f．昭和62年４月～昭和62年12月
g．地下鉄御堂筋線西田辺駅



2115 瀬戸大橋記念館

設　計：香川県土木部建築課、山本忠司建築綜合研究室
施　工：宍吹・坂出土建JV
a．坂出市番の州緑町6-1
b．72,000㎡
c．　2,777.525㎡
d．　3,422.245㎡
e．RC、4F
f．昭和61年12月～昭和63年１月
g．JR瀬戸大橋線坂出駅



2116 宗教法人念法真教大分念法寺

設　計：鹿島建設大阪支店
施　工：鹿島建設九州支店
a．大分市新川町1-1199-1
b．6,847.71㎡
c．2,113.72㎡
d．3,017.13㎡
e．SRC、2F
f．昭和61年２月～昭和62年５月
g．JR日豊本線大分駅



2117 グランドパレス諫早

設　計：鹿島建設九州支店
施　工：鹿島建設九州支店
a．長崎県諫早市宇都町254-1
b．2,811.99㎡
c．1,637.46㎡
d．5,390.99㎡
e．RC、B1、4F
f．昭和61年３月～昭和62年５月
g．JR長崎本線諫早駅



2118 朝日プラザ六甲町

設　計：AAA総合設計
施　工：多田建設大阪支店
a．神戸市灘区六甲町2-1-15
b．1,031.58㎡
c．　535.49㎡
d．3,027.51㎡
e．SRC、一部RC、9F、P1
f．昭和61年５月～昭和62年５月
g．阪急神戸線六甲駅



2119 朝日プラザ新神戸

設　計：AAA総合設計
施　工：不二建設
a．兵庫県神戸市生田町1-27
b．　620.71㎡
c．　407.01㎡
d．2,433.13㎡
e．SRC、9F
f．昭和60年12月～昭和62年６月
g．市営地下鉄新神戸駅



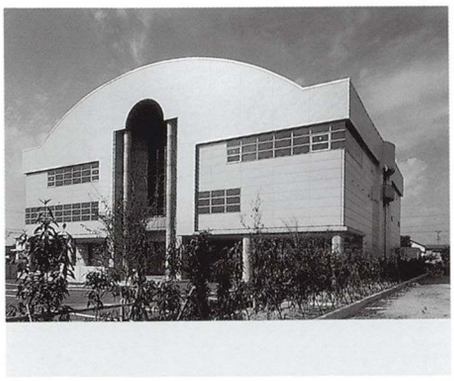
2120 菊屋本店

設　計：泉沢建築設計事務所
施　工：佐藤工業
a．大阪市東区高麗橋2-61
b．　89,797㎡
c．　76,770㎡
d．685,967㎡
e．S、RC、B2、8F、P1
f．昭和61年４月～昭和62年６月
g．地下鉄堺筋線北浜駅



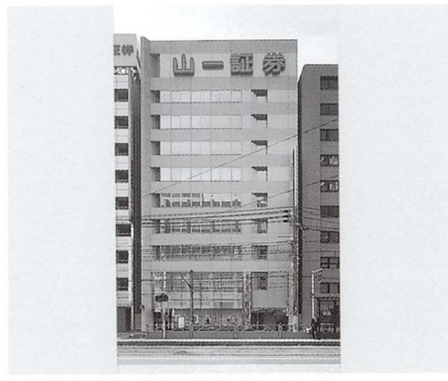
2121 秋田ワシントンホテルアネックス

設　計：泉沢建築設計事務所
施　工：清水建設、北野建設、同和工営
a．秋田市大町2-2-12
b．　644.000㎡
c．　473.000㎡
d．3,217.465㎡
e．RC、8F、P1
f．昭和61年７月～昭和62年９月
g．JR秋田駅



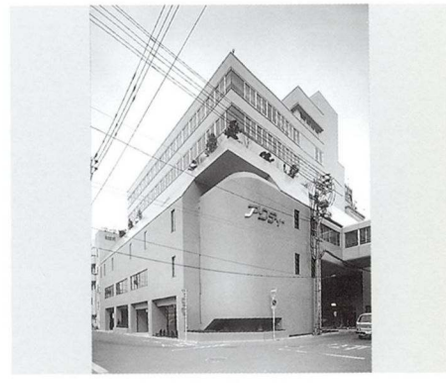
2122 愛知県埋蔵文化財調査センター

設　計：愛知県営繕課・東畑建築事務所
施　工：清水・大栄建設JV
a．愛知県海部郡弥富町大字前ケ須新田及び中山地内
b．3,300㎡
c．1,438㎡
d．3,930㎡
e．RC、3F
f．昭和61年７月～昭和62年９月
g．近鉄弥富駅



2123 山一證券広島支店

設　計：三菱地所
施　工：大成建設広島支店
a．広島市中区立町2-24
b．　564.9㎡
c．　454.4㎡
d．4,103.1㎡
e．SRC、B1、9F、P1
f．昭和61年10月～昭和63年２月
g．JR山陽本線広島駅



2124 日ノ丸総本社ビル

設　計：白兎設計事務所
施　工：大成建設広島支店
a．鳥取市今町2-1-12
b．1,485.8㎡
c．1,309.2㎡
d．7,775.4㎡
e．SRC、B1、8F、P1
f．昭和62年３月～昭和63年２月
g．JR山陰本線鳥取駅

住みたくなる街づくり…

佐々波秀彦 vs 中島 一
国際連合地域開発センター所長　本会東海支部長・愛知工大教授


中島 一


佐々波秀彦

（とき：1988年3月31日　ところ：国際連合地域開発センター応接室）

中島　国連地域開発センターが名古屋に出来たのは何時頃でしょうか。

佐々波　1971年ですから、もう17年になります。気がついてみると相当の年月が経っていたということです。

中島　相当活躍しておられるようですし、名古屋にあるということは、色んな意味で、特に街づくりについては我々も色んな刺激を受けていますが、幸い所長の佐々波さんが建築系の方ですから、より近親感をもっています。しかし、そういったことでなく、広い意味で国連の地域開発センターが名古屋に出来たことと、今までに活躍されたことなどお聞かせ頂きたいと思います。

国連地域開発センターとその役割について

佐々波　17年経ちましたが、ふり返ってみますと、当初の10年は基礎固めの時代であったと思います。本センターは国連機関ですから対象は主に開発途上国の地域開発に関しての人づくり、人材養成が大きな課題となっております。名古屋にありますので、当初10年ぐらいの間はアジアの開発途上諸国が対象でありましたが、ここ3～4年の間に本センターも相当足腰が強くなったこととニューヨークの国連本部からも単にアジア諸国だけでなくアフリカ及びラテンアメリカの諸国も対象として活動してもらいたいとの要請を受けまして、今、徐々にアフリカ諸国ラテンアメリカ諸国にも色々な技師協力の手をさしのべている状況です。

中島　確かにそういった意義は深いと思いますが、今いわれた人づくりに寄与しようということですが、やはり人というのは大切です。我々はどちらかというと物をつくる方からスタートしたわけで、物をつくる、街をつくる、施設をつくることで良しとしたんですが、実際ふり返ってみますと、いわゆる、それらの使い手、市民というものについて考え方を新らたにして、人と物との関わりを今こそ（以前から…）真剣に考えないことには良い環境は出来ないと感じるんですね。そういう点、日本人とアジア地域の方々とは考え方も違うでしょうし、地域制度とか、気候風土も違いますから大変困難なことがあるでしょうね。

佐々波　人づくりというのは、広い意味での一般大衆に対するアプローチもありますが、もう少し狭い意味で、地域開発を担当している中央政府、地方政府の役人の能力向上を考えています。役人の能力向上といいましても行政能力もあるし、エンジニアとして働いている人もいますので、そういう人達の技術能力も高めるという話も出てくるわけですが、いわゆる個々の建築にまで入って建築技師というところまでは、ちょっと我々のセンターでは専門的すぎるので、そこまではいっていません。しかし、地域計画、都市計画、地区計画、コミュニティー計画ぐらいまでは取り上げて、関係諸国の政府職員の人材養成に努力しています。

中島　行政担当の方々が中心ですか。

佐々波　国連のそもそもの組織自体がメンバー・カントリーから成立っているということから、国連の色々な機関は、これら政府機関を主な対象としています。

中島　行政の人がここでトレーニングを受けて、出身国に帰っても、行政と国民との関わりが密接でなければならないのは当然ですが、最近の日本の風潮では行政主導型から場合によっては市民が主導的になって行政が支援するという形のものが、例えば街づくりでは良いのはではないかという声も強くなってきています。ここのセンターでもそういった方法も良いんではないかという考え方でトレーニングの中にも入っているんでしょうか。

佐々波　はい、つい最近完成したレポートに、ローカル・ソーシャル・デベロプメント・プランニング、日本語では地方社会開発計画というレポートをまとめましたが、このレポートでは社会開発計画と地方開発計画とがドッキングしているという内容がもられていまして、いわゆる地方計画の立場からいいますと官制というか。トップダウンというか、お役所が作った計画が基になっていますが、社会開発計画というのは住民参加を重視して、住民参加型のコミュニティー開発計画を目指しています。日本では住民主体の計画というのは相当根づいてきていると思いますが、途上諸国ではまだそこまではいっていない国が多いようです。それでも街づくりは住民の意向を重視し、うまく取り入れて作らなくては駄目だというのは先進国に限らず途上国でも認識はされてきています。生活水準が上って行政機構もしっかりしていないと、住民参加を求めても駄目だというようなことでなく、住民参加は開発のあらゆるレベルにおいて、展開されるべきで、途上国に対しての開発計画に関して住民参加をどのようにうまく取り入れて、役に立つようなものにしていくかを私どもも非常に重視しています。

中島　なるほどね、ところでアジア地区の国々の中には独立して40年程経ちましたね。それまでは残念ですがオランダ、イギリス、アメリカ、フランスなどの支配下にあったわけですが、40年の間に独特の文化がもう一度蘇生したんでしょうか。その辺の所は他の地域と違って変っていますか。

佐々波　アジア地域は最近特に注目されまして、日本の新聞などでも21世紀は太平洋の時代になるのではないかという論文や報道をよく目にしますが、実際、経済活動をみましてもヨーロッパ地域に比較してアジアの経済活動はますます活発化してきており、特にNICS（新興工業国）といわれる韓国、香港、シンガポールは特に非常な経済成長を遂げております。そういった面と、アジアはやはり色々と古い伝統と文化をもっている国が多い。日本では衣服等が欧米化されてしまって、着物はお祭りとか冠婚葬祭でないと着なくなってきていますが、向うの人達は日常、タイにしろ、マレーシア、インドネシア等みなそうですが、依然として在来の衣服を着用している。このような衣服を着ているというのは、やはり生活の仕方に在来の影響というかやり方を依然として保っているわけです。ただ、今後経済成長が高まり生活水準が向上すると、どのような変化が家庭内に起るか、或はコミュニティーにどう変化が起こるか、そういうことを私どもも非常に注目はしております。

全般的な傾向として今までは一家族でも子供が5人とか7人居るとか非常に子供が多かったんですが、だんだん生活水準が向上し、教育が普及していくと家族計画等が浸透してきまして、一家族の構成が夫婦中心に子供が3人とかになりつつありますし、おそらくそういうことになると今までの家族内での変化、コミュニティー内での変化は当然――大家族から小家族に移るということだけみても――出てくるんではないかと思いますね。

中島　赤道に近い国々は非常に暑いですし、また、水も川をみてもどちらかというと余り清らかさがないですね。日本人はとかく清浄とか清らかさとかすがすがしさとかいって日本人の心を育ててきたわけですし、そういった環境が日本人を育ててきましたが、アジア地区をみてみますと風土も習慣も違います。コミュニティーづくりの原点は人だと思うんですが、手法が違うんでしょうね。

佐々波　いわゆる手法が違うというよりも、コミュニティーをみていますと大体はずっと受け継いできたものであって、コミュニティーを作るのにこういう手法で、なんていうのは学者が研究調査すると、各国色々なコミュニティーの形成の仕方、発展の仕方で差異が出てきていると――例えば在来型のコミュニティーは夫々の宗教の行事と関連して色々な活動がなされるわけで、もう一つはアジアでも農村型の社会が大勢を占めているが、農業の行事と関連して色々なコミュニティー活動が行なわれる。宗教でもイスラム教、儒教、ヒンズー教等があり、フィリピンではキリスト教も強い。色々宗教の行事と関連してコミュニティーも動いていますし、また、新らしく物質文明ということでアメリカの文化が多く入ってきている。音楽とか映画とかいった面で入ってきており、そういう物質的な豊かさを若い人達は強く求めますから、そういう点では宗教より強くアピールしている面があります。こういう国々でも生活水準が向上しますと自動車、オートバイ、テレビ、冷蔵庫など色々と物が売れてくるわけで、このようなものを使っての家族生活が行なわれるわけです。また、今までの在来型の農業社会から結構都市に人口が

移りつつありますし、家庭内の構成だけでなくて生活の仕方もポスト・インダストリアル・ソサィエティーというか、機械文明の産物を利用し、生活を豊かにしようとしているといえます。

お尋ねの水の関係につきましてもやはり簡易水道にしろ、水道を普及させて、一方では今まで色々とあった疫病—コレラとかチフトとかありましたが—これらに対して相当迅速に処理できるようになってきました。そういった面も含めて、アジアの諸国は、ラテンアメリカ、アフリカに比べて、経済成長にしろ、生活水準にしろ向上してきているのではないかと実感しています。一方において社会文化面等において、かっては非常に健全にして強力であった家族内の関係或はコミュニティーの関係が弱くなり崩壊しつつあるということは、私どもも危機感をもっておりますし、どのように21世紀を目指して、どういう都市、コミュニティをつくるべきか、特に今までの伝統だけでは立ち行かないものですから、そういう点ではコミュニティーづくりをどうするか大きな課題だと考えています。

中島　先日文献を調べていましたら、明治4年に太政官布告というのがあって、それには公園づくりのことが書いてあって、ヨーロッパ的な公園を作るべしとあるんですね。更に読んでいきますと愛知県では初めて明治6年に、特に名古屋では大須公園を作った記録があります。それは名所旧蹟を元とすべしとあります。明治というとご一新で欧米の文化がどんどん入ってきて、街づくりも、今までの日本のコミュニティーというと集落、農村へ行きますと鎮守さまを中心にして日本的なコミュニティーがそれとなく出来ておりましたが、明治になると途端に公園が入ってきて、鎮守の森という神聖な広場という聖域でなくて、人々が沢山集まってそこで楽しむようなコミュニティーの核となる公園を作るということで、明治の当初には何かコミュニティーづくりに戸惑いがあったように思います。それが現在も感じられるのですが、やはりコミュニティーというのは順次、自然発生的にそちらへ向くべきものであるし、市民の合意によってそういうものは作られるべきだと思います。そういう意味でも地域開発センターの役割は非常に重要だと思います。今おっしゃったように難しいというお話の中に多分そういったことが含まれているのではないかと思うんですが。

佐々波　これは少し突飛な発想なんですが、結局コミュニティーにしろ。色々な活動にしろ、人がそこに集まってくることによって始められる。全てのことは先づ始めに人ありきだと思います。そういうことからいうと、名古屋に国連地域開発センターができて、結構開発途上国の地域開発担当の政府の職員が来たり、そういう分野の調査研究をしている先進国や途上国の大学の教授が来たり、もっと若い講師が来たり、グラデュエート・スチューデントが来たりして、結局、ここのセンターがあるためにそういう人的交流が先に始まる。それに勿論そういう連中が帰国して色々なコミュニケーションがそこで発生する。としますと、今、情報化社会というような格好になっていますが、情報化社会の非常な特徴は、そういうコミュニケーションによるネットワークで世の中が動いていること。もう一つは、マスコミュニケーションだけでなく、フェイス・トー・フェイスで、より質の高いコミュニケーションが行なわれる。フェイス・トー・フェイスのコミュニケーションをやる際に核になる国際的機関の存在は、ますます重視されてきつつある。そういう点で、私どもも単に国連機関だから、ただここに在って途上国と対応していれば良いじゃなくて、日本との一種の連携点、仲介点であるということです。もっと日本の方々にもこのセンターを利用して頂かないといかんのではないかということを特に最近感じています。今までの資料は外国語、特に英語が多かったんですが、最近は重要な出版物は、サマリーだけでも日本語で出そうとしております。こうして日本の方々にもできるだけUNCRDの存在をPRして本センターを利用して頂くとともに色々と協力もして頂こうと考えています。

中島　それは結構なことですね。よくいわれることですが、情報の発信基地という言葉がありますが、むしろ発信でなくて、受信と発信がなくてはいけないんだろうと思うんですね。そういう点で、国連の地域開発センターがここに存在することは、私ども名古屋に居る者としては、良い意味で刺激を受けていますが、しかも、外国の方々とお目にかかる機会があるということは大変助かると思います。それがまた地域の開発に大きな寄与ができるんではないかと思っております。

ところで、話題が変りますが、東京一極主義が四全総で考えられて、分散したらどうかということで遷都だとか分都だとか、色々の発言がありますが、名古屋は産業開発に適当な場所であるということも出ておりますし、また最近通産大臣は浜名湖の北の方に遷都すべきだということも言われたとも新聞に出ていましたが、佐々波所長は非常に広い意味で諸外国のこともご存知ですが、今回の東京遷都論について、お考えの所がありましたらお聞かせ頂きたいと思いますが。

巨大都市東京からの遷都論と東海地方

佐々波　遷都については、今から20年以上も前になるでしょうか。河野一郎さんが建設大臣の時に東京都内にある国立の研究所、実験施設を都内から外に移すということで、幾つか候補地があり、那須野とか富士山麓とか色々ありましたが、結局筑波に決まって、研究学園都市が実現されました。その当時、単なる研究施設の移転だけでは東京への過度集中の解消にはならないということで、首都移転ということがいわれました。あまり新聞報道されませんでしたが、最大の候補地は浜名湖の北西方の丘陵地、平野地でした。

中島　もうその当時から……。ああそうですか。

佐々波　皆さんよくご存知ないようですが、そうなんです。東京の首都機能をどう分散するかということが、現在わいわい言われていますが、ただ、世界的また歴史的なパースペクティブでみてみますと、色々と首都移転が行なわれております。例えば、トルコでは第1次大戦後首都をイスタンブールから今のアンカラに移しています。これは、ケマル・アタチルクという非常に強力なリーダーが居て、彼のリーダーシップで決まったのです。こういう大事業には常に何処でもそうですが、反対があるものでインスタンブールでも反対が多かったんだろうと思うんですが、アタチルクは独裁者でしたからやれたんですね。戦後でもブラジリアとか、イズラマバットとかが、よく例に挙げられます。日本では、あれは開発途上国だから可能なので、先進国では無理じゃないかという話が常に出てくるんです。ただ東京は、歴史的事実からいいましても大地震が——60年周期が必ずしも当たるとは思いませんが——周期的に起っているのは歴史の示す所でして、例のプレートテクニックス理論によれば日本海溝の深い所で、非常なエネルギーが蓄積され、海底大地震が起る危険性が高いことがはっきりしてきました。地球が生きている限り、このような動きは起こるわけでして、そうすると東京も危ないわけです。関東大震災の際には、地震自体ではそれほどの人的被害もなかったのですが、その後に起った大火災で10万人近くがやられたわけです。現在の東京圏はあの時とは非常に条件が違ってきていますので大地震の被害予測をするのは難しい。ただ、大きな自然災害が起こりそうなこの地域に、ニューヨークのマンハッタンと同じような気持で高層住宅を建てていって、果してどういうことになるか。東京は非常に人口・施設が集中しているわけですが、単発的な世田ヶ谷の地下ケーブル事故——我々からみますとマイナーな事故だと思いますが——それでもあの事故によって銀行の業務等が半日ほど麻卑したわけですから関東大震災の地震が起れば、地下埋設物の被損も含め非常な打撃を被るだろうと予想されますし、ガス爆発による相当な被害も発生する恐れがあります。

東京湾岸部といった地震の災害を受ける危険性のある所に、マンハッタンと同じようなつもりで高層建築をいろいろの方が構想されているけれども、大規模な開発はどうしたものかなあと、いえますね。

中島　確かに、立地を考える場合、耐震的考慮が大事だと思います。一方、遷都したオーストラリアのキャンベラにしましても、或はアメリカのワシントンD.C.にしましても、割り合い静かですね。我々のイメージからしますと、首都というのは何か賑わいがあって、人の集りがあって、経済活動が非常に活発だという感じがあるんですが、—これは東京をベースにして考えるからそうなるんだと思いますが、今、挙げました街だとか西ドイツのボーンなんかは、これからの街ですが、非常に静かで、しかもライン河の畔りにひっそりと建っているんですね。あれで果して国を象徴するような首都として、或は政治を判断できるような雰囲気としては、あれで良いんだろうかという気がするんですね。

やはり政治と経済が両立しなければならないんですが、分都論があって、いくつか色々な施設を分けたらどうかという説も日本では起っていますが、その辺のところ、分けると、また、どこかに何か情報を持っていったり、コミュニケーションを図るために、どこかに集まってきて、分散しなければならない。人の動きが非常に時間的にもロスが出てくるような気がしてならないんですが。

佐々波　いわゆるフエス・トー・フェイスの話も、よりよく分析すると、アメリカやロンドンの学者にしても、結構、飛行機など使って会いに行きますが、要は、金融関係の業務とはまた違っていて、英国の場合は学研センターはケンブリッヂ、オックスフォードにあっても結構機能しうる。また学者はそっちの方を好む。アメリカでも一流大学のハーバードやM.I.T.はマサチューセッツのケンブリッヂにあって、伝統のあるアカデミック・コミュニティーが維持されているところが学者等に人気があり、彼等はマンハッタンの中に住もうとは思っていない。日本ではそれが全部、マッチ箱をひっくり返したようにこんがらがりましてね、東京大

学が東京の中心にあって、それが一番良いんだという話と全部結びつくもんですから、一極集中がますます過度集中になりますが、アメリカや英国の例をみても、学者等は、結構、そういうことでやっているんです。彼等は政府からあるいは企業から呼ばれてワシントンやニューヨークに行きますが飛行機を使って1日で往復する。そういう仕組みでアカデミックな人達は対処しています。日本でいえば、大阪、京都から東京にいって政府の諮問に答えて日帰りするというようなことだと思いますね。だから、文化・教育センターを首都から分離することはお得ですね。それから政治関係ですが、これも、果して東京に置いておくのが良いのかどうか、アメリカではニューヨークとワシントンであのようにやっているのだから、政経分離でもうまくいくだろうと思う。色々とメリット、デメリットを検討すればそれなりの話は成り立つだろうと思います。

今いわれたキャンベラとかワシントンD.C.がメルボルン、シドニーあるいはニューヨークに比べて静かだといわれていますが、キャンベラはオーストラリアでは静かすぎて、物足りないという人が多いんですが、ワシントンは結構活気があります。ワシントンの場合は、アメリカ連邦政府がスペース・ミュージアム、ナショナル・ギャラリー・オブアートとか、すばらしい建物をモールの両側に建てるなどして非常に整備しています。やはりこのような中心となる都市軸があって、しかも、ポトマック河畔の桜並木が、それに非常にうまくマッチして、自然と人工の美が調和しています。かって森鴎外が1860代～70年代にかけて、ドイツに留学し、首都ベルリンの繁栄のさまを「舞姫」に書いて当時の街の賑わいを生々と描写していますが、今のワシントンD.C.は世界的な首都としてのかってのベルリンの雰囲気と似たものを感じさせます。それに比べると東京は桜田門から霞ヶ関にかけて議事堂と政府機関などが雑然としていて、国立劇場も丸の内からはかなりはなれたところにあり、また博物館は上野にあるといったようにその計画にまとまりがない。今日、東京ではウォーターフロント計画とか、丸の内の再開発計画とか色んな提案が出てきてますが、色んな外国の都市と比べてまとまりがないのはそもそも日本では都市の背骨にあたる都市軸という考え方が欠けています。アメリカのワシントンについては先程述べましたが、パリでも非常にはっきりした都市軸が中枢に位置している。すなわち、ラ・デファンスから始まって、凱旋門、ドゴール広場、コンコルド広場、ルーブル美術館などの非常に壮麗な建物の施設がセーヌ河に沿って展開し、全体として非常にクリアーな計画観に基づいて都市づくりが行なわれているわけですよ。ワシントンのモールとポトマック河畔の話でも、人工の美と自然の美とがマッチしているといいましたが、東京について、さき程いわれた「公園緑地は、欧米の真似をすべし」なんていっても、とても、パリやワシントンに及びません。緑地については上野があり、代々木があり、結構、山の手沿線だとまだあるんですが、それを越すと井の頭公園、小金井公園、石神井公園などがありますが、居住人口に対して非常に少なく、この点でも大きな問題があります。

中島　所でおっしゃった都市軸ですが、旧聞に属しますが、丹下先生がかって、東海道メガロポリス――あれはアメリカのボストンからワシントンD.C.までのものが頭にあったと思いますが――ですから東海道メガロポリスという都市軸も考えられます。これは都市じゃなくて、或る意味では都市と都市をネットワークしているわけです。日本はさほど大きくないわけですから、それを都市軸という考えでやってもいいんじゃないか。先ほどの筑波の研究学園都市は、分都論の先鞭をつけてるわけですね。最近、京阪奈の接点に学術研究都市が提案されて、どんどん開発されていますが、声を大にした遷都論や分都論は非常に勇ましいんですが、何かもう既に進行しているような感じがしますね。

そういった中で、名古屋のルネッサンス、再生論について話を進めたいと思います。名古屋も色んな提案がありますし、特に、中部圏開発整備法によって、中部圏は名古屋が中心だという意味の発言もありますが、何か、中心的位置づけは確立されてないように思います。しかし、一方、名古屋の東の方では、地域開発の中で研究活動ゾーンとして非常に適地で、広大な緑地があるし、地盤が比較的安定しているし、水が豊富だということなんです。しかし産業都市論も出ていてここは物造りの街だということが出てますけれども、それだけで名古屋が果して再生されるだろうか。従来は、「東京、大阪、名古屋」というのはなんとなく、そんな順序で、名古屋の位置づけがあった。最近は、「東京、大阪」で、名古屋がどこかに消えてしまった淋しい感じがするんです。その辺どのようにお感じでしょうか。

名古屋ルネサンスについて

佐々波　「東京、大阪」というけれど、大阪も非常な地盤沈下でしてね、だからよくいうんですが、東京と大阪の色んな活動を比べると10対1の違いがあるし、大阪と名古屋は、昔はひっついていたんだけど、今は非常に離されて、大阪が5とすると名古屋は1ぐらいの感じが出てきている。だから東京に比べると遥かに引離されている感じですね。今の時点ではそうですが、21世紀を見越しますと、東京と大阪の間にあるというのは、何にかにつけて、恩恵に浴するん地域なんです。今、青森が新幹線を盛岡から延伸してくれと、悲願みたいにやってるけれど、地元としては特にそうですが、仲々できないでしょう。反対する人々は経済的ソロバンではじくと赤字路線になる。もちろん青写真を描いて、色々企業も来るし、人も来るから黒字だ、地域開発のために必要だといえば、それはそうだが、一体それを作って現実的に企業が来ないとなれば赤字路線になるのは目に見えているので、二の足を踏むということで、この頃では地元の方も少しあきらめムードがあると聞いていますが……。

こんな状況に比べると、名古屋は自分で新幹線を引っぱって来なくても、東京、大阪間の中にあれば、ただ止めてくれというだけの話ですからね。リニアモーターカーにしても、みなそうですよ。見ていまして、名古屋の人は非常におっとりしているし、のんびりしているし、おそらくこれが続くんじゃないか……(笑)

中島　恵まれすぎてるんですか（笑）

佐々波　だから、そういうことなれば、もっと21世紀を見越した手を今打っておいたらよかろと、今、どういう手が一番重要かというと、やはり先ほどからいってますように、みんなが「名古屋で住みたいなあ」という気を起させるようなことをするにはどうしたらよいかとういうことに尽きます。色んなことをわいわいがやがや言ったところで……。

中島　そうしたら、国連の地域開発センターはアジア諸国が対象といっておられますが、名古屋も対象の中に入っているわけですね。

佐々波　センターの話でいいますと、情報集めしたり、色々と各国の関係者に会ったりしようとしますと、大使館などは皆東京にありますし、外国の人達が何かしに来るのが一番多いですから、東京に言って会わなければ駄目ということだって結構多いんですね。ただ、じっくり腰を据えて外国の人々を集めて研修とか、研究調査をしようとすると、名古屋の方が逆にわずらわしさがなくて、非常に良い環境にあるのではないか。ですから、もっと環境を発展させ、外国人が住みやすい施設を作り、我々の方からいうと、研修者の施設などを十分準備するということが非常に重要で、そういう視点で見ると、名古屋はよい条件に恵まれていると思う。やっぱり、新幹線の沿線でないと駄目で、研修施設を不便な所に作ってもどうにもなりません。あまり雑音などのわずらわしさがないという点で、名古屋は研修には非常に向いている所ですね。

中島　この地域をみると、自然の環境も他の大都市に比べて、まだまだあります。文化的環境が多少……。

佐々波　多少どころか大いに駄目ですよ。名古屋に住みたいなあというためには、文化的環境を良くしないと駄目です。

中島　その辺に尽きると思いますね。

佐々波　つい1週間前、横浜に居たんですが、横浜港と名古屋港を比較してみても、皆さんすぐおわかりになると思いますが、格好の差ですよ。

中島　そうですね。私、親しまれる名古屋港を考える会の副会長を仰せつかっていますが、今、色んな面で色んな提案をしており、逐次良くなりつつあることは事実です。住みたくなる街というのは、色んな意味がありますが、やはり、もう一つは生活環境も忘れてならないと思います。比較的物価は安いといわれていた時代がありましたが、その時代はすでに過ぎ去りまして、さほど安くもありません。やはりこれからは、街づくりというのは人づくりですし、人と人との問題の中で住みたくなるような雰囲気と環境を作っていかなきゃならない。そのためには、今おっしゃったように、良い音楽も聴かれるし、お芝居も観られるし、遊ぶ場所もある。昼間だけでなくて夜の方も……。

佐々波　人々は結構豊かなわけですよ。そういう点を踏まえて、うまくそういう人達の力を動員して、如何に文化的な環境を向上させていくかというのが一番であって、わいわい産業開発優先だといって、文化人が逃げ出したくなるような仕組みにすると逆効果だと思いますね。

中島　同感ですね。

佐々波　特に、名古屋市は来年デザイン博を考えておられて、色々な行事が行なわれると思いますが、キャッチフレーズの中心に、「みんなが住みたくなるような街を作ろう」、「文化的な香りの高い街を作ろう」とか、そういうのを正面に据えてやらないと駄目ですね、筑波の万博は筑波自体の特長を生かして、科学技術博としてやったわけですが、名古屋は「デザイン博」という非常に良いテーマを選ばれたわけですから、内容を是非充実して頂きたいと、熱望しております。　（了）





藤枝市立図書館

所 在 地　静岡県藤枝市藤枝5丁目19−2
設　　計　前川建築設計事務所
施　　工　前田建設工業
敷地面積　2,326㎡
建築面積　801㎡
延床面積　1,289㎡
規　　模　地上2階、塔屋1階
構　　造　鉄筋コンクリート造
竣　　工　1979年3月　（撮　影：増田彰久）

公共建築は、都市施設として非常に大切であることは、いまさら申し上げるまでもない。ところが、公共なるがためか、とかく管理運営が重点配慮となっていたことは、かってはあった。しかし最近は、〝使い手〟への配慮へも注意がなされてきていることは、結構なことである。この結果は、親しみやすさ、そのうえ豊かさと、やすらぎを与えてくれるものへと進展の道を辿ってきたのである。

藤枝市は、気候温暖なところで、だから市民性も豊かで、情緒性に富んだところである。この図書館は、設計者の弁をかりると、〝本を心のなせる技として慈しむ〟とする気配をうかがうことが出来る。

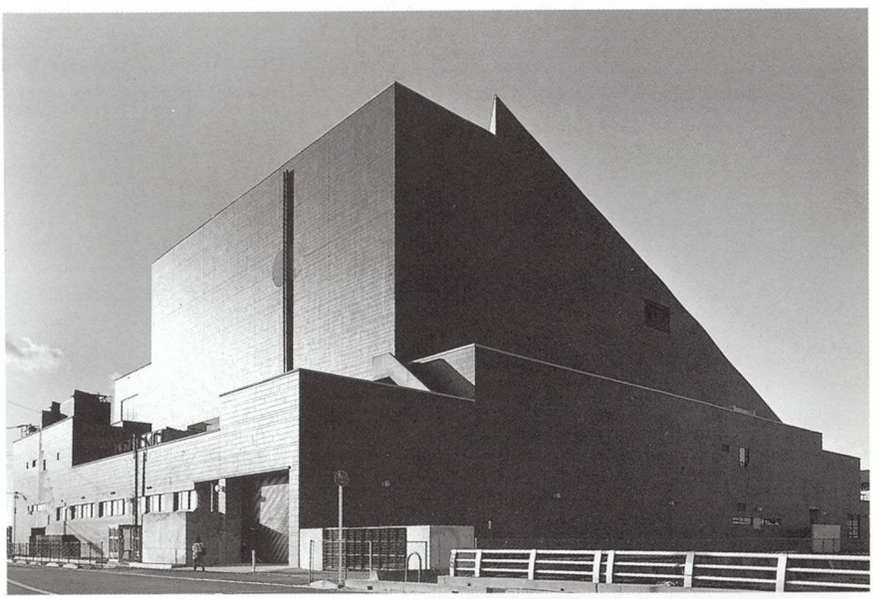
清楚な佇まいは、屋根越しに背後の緑をあしらった自然環境で、清々しさを与えてくれる。またフロアー・レベルに多少差をつけることで、さらに空間の拡がりを与えている。

東海の建築マップ ——東海支部建築マップ小委員会——

景観としての建築

常滑市民文化会館・中央公民館

所 在 地　愛知県常滑市新開町5−65
設　　計　坂倉建築研究所大阪事務所
施　　工　飛島・兵善建設共同企業体
敷地面積　10,406㎡
建築面積　5,472㎡
延床面積　11,317㎡
規　　模　地下1階、地上3階、塔屋1階
構　　造　鉄筋コンクリート造
　　一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
竣　　工　1983年8月　（撮　影：新建築写真部）

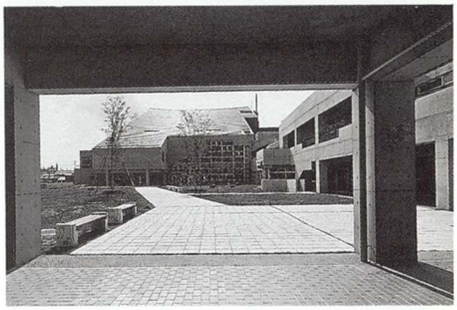


常滑というと、すぐ土管、味噌壺を想い出す人は多い。そのためか余り広くもない曲りくねった道をそぞろ歩むと、突然目の前にれんが造りの四角い煙突があらわれることに驚く。この突端はかっては黒煙をもくもくと排き出していたことだろう。その煙突は今や排気筒に転用されているため、煙はない。

現在のこの町は、建築用内外装タイル、衛生陶器などを中心とした産業が発展し、生産を上げているが、意外と静かである。

この静かな町の佇まいを破るかのように、競艇の爆音に驚かされる。

常滑市民文化会館・中央公民館は、その競艇場を背にして建てられている。すぐ隣りの常滑港からの景観は、いままさに大海に船出する船の雄姿を彷彿とさせるが、一方、市民広場からエントランスへのアプローチは、全にすずよかさを感じさせるのは不思議である。



人・間・空・間たいせつに

INAX

タイル、住宅設備機器　株式会社INAX

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦一丁目16番20号〈グリーンビルディング〉☎(052)201－1717

名古屋ショールーム／〒460 名古屋市中区錦一丁目16番20号〈グリーンビルディング〉☎(052)201－1715

全国書店で好評発売中

建築構造問題快答集

石黒徳衛　監修　1巻～10巻

1巻	430頁	3,800円	7巻	203頁	2,900円
2巻	385頁	3,800円	8巻	171頁	2,900円
3巻	373頁	3,800円	9巻	213頁	3,000円
4巻	340頁	3,700円	10巻	262頁	3,200円
5巻	366頁	3,800円	(分類別通巻索引付録)		
6巻	368頁	3,800円			

建築構造計算資料集

中川　淳著　1巻～8巻

1巻	鉄筋コンクリート構造(1)	240頁	3,800円
2巻	鉄筋コンクリート構造(2)	234頁	3,800円
3巻	鋼構造(1)	225頁	3,200円
4巻	鋼構造(2)	256頁	3,500円
5巻	鉄骨鉄筋コンクリート構造	208頁	3,200円
6巻	基礎構造	249頁	3,800円
7巻	終局耐力	247頁	3,800円
8巻	応力計算	200頁	4,000円

新うっかり間違える構造力学

井上允彦　著　151頁　1,500円

株式会社　**建　築　技　術**

〒160 東京都新宿区北新宿1－8－1　中島ビル
TEL.(03)363－4211　振替東京 0-72417

建築技術者必携の専門誌 **建築技術6月号**

5月18日　全国書店で一斉発売
定価1,200円

特集／続・防火設計の要点

この特集では、火災安全を側面からささえる技術といったハードな部分にスポットをあて、防火材料、新しい煙制御技術の開発、シミュレーション技法の現状、防災システムのインテリジェント化などの問題を取り上げ、安全な建物を作るための新しいテキストとなるよう企画されています。

●防火設備設計の動向　●防火材料・構法の動向
●HUMAN　FACTORの役割

1．煙制御設計と空間設備設計　2．内装設計と初期消火
3．区画構法の設計　4．避難設計と避難シミュレーション
5．消防設備・施設等の設計
6．防災システムの計画と機器の機能

本文企画／■連載：精算法による保有水平耐力入門(第3回)
■熱間せん断押抜法の性能評価
■建築基準法改正から1年



こんな小さなボルトひとつにも…

安全に願いをこめて、「安心」をお届けします。

避難器具は、できれば使われないほうがいい。
しかし、不幸にも「まさかの事態」が発生した場合、
確実に人命をガードできなくてはなりません。
入念な組立て、厳密な検査――
私たちの製品には、小さなボルトにまでこだわる
安全への熱い願いが、こめられているのです。



目黒の避難ハッチ

DX-AS型(デラックスオールステンレスタイプ)の特長

- ●オールステンレス製ですから、風雨・塩害によるサビや侵食、外部からのダメージにも強い耐久性を発揮します。
- ●ハッチ機構は、実用新案登録済の上下蓋同時開閉式。簡単機能ですから、いざという時にすばやく避難できます。
- ●パンタグラフ式梯子ですから、前後・左右に揺れず、どなたでも安心して避難できます。
- ●固定梯子に近い状態でセットされるので、設置はどんなところでも自由自在。施工方法も簡単です。

※なお、ご要望による特注品の製造も承っております。

安全に願いをこめて
避難器具製造販売 株式会社 目黒防災
〒141東京都品川区上大崎2-16-7目黒ターミナルビル6F
TEL(03)443-3881㈹ FAX(03)443-3888

梅田センタービル物語
——企画から運用まで

対馬義幸・山元弘和
竹中工務店インテリジェントシステム研究会編

彰国社刊　2,200円



本格的なインテリジェントビル、梅田センタービルの企画から設計・建設に集大成されたハード・ソフト技術、同ビルを演出するサービス機能などを紹介し、インテリジェントビルの方向とオフィスの将来を考える好個の書。

装飾と罪悪
—建築・文化論集—

アドルフ・ロース

伊藤哲夫訳

中央公論美術出版刊　12,000円



本邦初訳のこの書のもつ意味は深い。論文・時事・自作を語る・追悼・交友記等から構成されており、建築家以上に思想家でもあったロースの人間像が随所に表出されている。世紀末ウィーンにおける多士済々な芸術家との交流それ自体が一つの文化史的な意義をもつ。

建築巡礼 1
荒野と開拓者
フロンティアとアメリカ建築

香山壽夫監修 著

丸善刊　2,300円



“芸術文化に関心をもつ人々に、建築を見る楽しさ、知る喜びを案内するために編まれた”「建築巡礼」その１。17世紀以降、独自のスタイルを築いたアメリカ建築、その豊富な写真と小論により、アメリカ文明の特質が浮き彫りにされる。

住まい学大系／004
アドルフ・ロース
世紀末の建築言語ゲーム

川向正人著

住まいの図書館出版局刊　1,700円



ロースの生い立ちから建築家像の形成、思想の解釈、古代に対する姿勢、空間計画の意味への論究。確かな資料に裏づけられた本書の登場は従来のロース観に新らたな一石を投げかけた。就中、「住まい学大系」から次々と発信される新鮮な驚きと魅力にまずは喝采！

女、家を産む
女七人、家づくりへの挑戦、
300日のドキュメント

進和不動産ハウジング研究所編

学芸出版社刊　1,400円



「お父さんが元気になると家族が元気になる。家族が元気になると近隣が元気になる家の本」とある。いったいどんな本？と開いてみると、〝女の家づくりドキュメント〟の中に建築家・作家・専門家のエッセイがたくみにとり入れられており、「記録」だけに終わらない。一読の書。

シティダスト・コレクション
テクノロジーと空間神話

彦坂　裕著

勁草書房刊　3,200円



「都市」というアクティブな舞台の中に生滅する物象——シティダスト。著者自らサヴァイヴァル都市考学とよぶ本書の不可思議な世界に一歩足を踏み入れると、あとは唯々著者の仕掛けに身をまかすほかはない。恰も虚構の中の陶酔、揺籃の中の眠りに陥るかの様に。

建築美　極4　建築

極編集同人　編

学芸出版社刊　2,200円



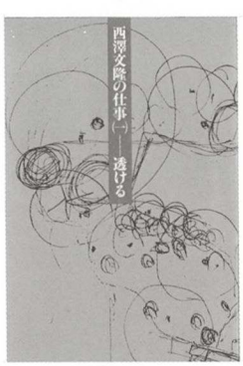
音楽・美学・哲学・動物学・造園学・社会学……「極」執筆陣の専攻領域の拡がりは、そのまま〈建築〉の多様化・重層化を表象しているといえる。他領域からの照射によって建築の〈迷宮〉を切開し、〈現在〉を問う。「極」同人の感性が放擲つ先に視えるものは何か？

西澤文隆の仕事　全3巻
①透ける（写真・左）　②すまう　③つくる

西澤文隆著

同書刊行委員会：高橋靖一（委員長）　安藤忠雄　池田武邦　出江寛　磯崎新　内田祥哉　阪田誠造　林昌二　宮脇檀　山崎泰孝

鹿島出版会刊　①4,500円 ②3,400円 ③3,300円



「透ける」・「すまう」・「つくる」と全三巻にまとめられた本書の公刊はまさに建築界待望の書であり、建築家・西澤文隆が私達に残してくれた貴重な遺産である。日本の伝統建築・庭園・住宅と氏の語る建築〈哲学〉はまさに人間西澤文隆が表出されている。必読を。

タウトからロースへ

土肥美夫（美術史家）

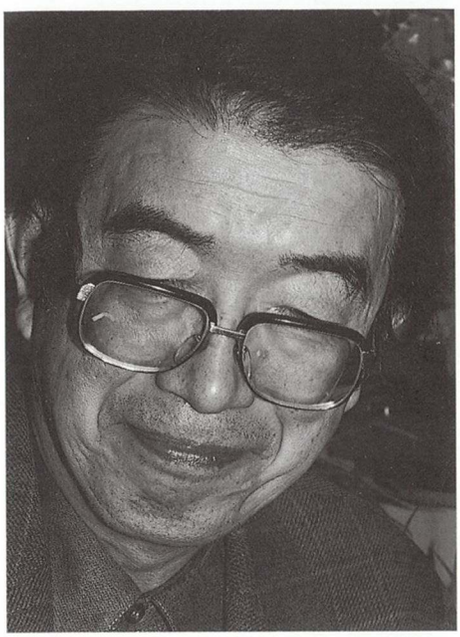
わたしがこのようなところへ書かせてもらうのは、ここ数年『ブルーノ・タウトと現代』（編著）、『タウト　芸術の旅』（モノグラフ、いずれも岩波書店刊）など、タウトについて書いてきたからであろう。ところでわたしの研究分野は、建築史よりもむしろ美術史である。それも西洋の近代である。タウトへの関心も、ドイツ表現主義美術の研究がそもそもの発端であった。

わたしたち美術史をやっている者にとって、原典や研究書を読むということは、作品を解釈するうえでの必要不可欠の条件であるが、読むこととならんで見る、ないし見て回るということも欠かすことのできない前提である。書斎で読むことと現場で作品を実際に見るというフィールド・ワークとは、書くという課題のためのいわば必然的な作業である。読んだものの印象が強くて、足を運んで見るものに幻滅するばあいもあるし、見たものに感動して、読むものになかなか満足できないばあいもある。読むことと見ることとが照らし合い、組み合ったときには、書くという仕事もさして悪戦苦闘しないで運んでいくように思われる。

ところで見て回る場所は、当然のことながら、そのときどきの研究対象によって異なってくる。カンディンスキーのときはミュンヒェンかパリ、クレーのときはスイスのベルンかデュセルドルフ、タウトのときはベルリンに逗留することが多かった。昨年はアメリカの諸都市を主目的にしていたので、期間は短かかったが、数年ぶりにウィーンを訪れた。オットー・ワーグナーやアドルフ・ロースを見て回りたいと思ったからである。

わたしは、『タウト　芸術の旅』の「あとがき」で、「この本を書き終えて、今、漠然と脳裡に思い浮んでいるのは、タウトの建築思想の補完、あるいは埋合わせ、さらには対極としての非芸術的な構造変革という視点である」と書いているが、そのとき念頭にあったのはロースだった。タウトが芸術としての建築という理念に終始つき動かされていたのは、何故か。良かれ悪しかれ、世紀末の審美観をひきずっていたからではないか。それに反して同時代者のロースは、構造を即物的に捉え、世紀末の審美観と断ち切れたところから出発している。世紀転換期におけるロースのこのような「ネガティヴな美」の創造は、ある美術史家によってデュシャンにつながる新たな、画期的な美的系列の始まりとして評価されている（W．ホーフマン『模倣から現実へ』1970年）。ウィーン行きを思い立ったのは、ロースの作品を実際に見て、それらのことを確かめる手がかりをえたいと思ったからである。

滞在期間が三日と限られ、その上ワーグナーの建築を先に見て回ったので、ロースの作品を見る時間が制約されてしまったが、それでもミハエラー・プラッツの〝ロース・ハウス〟をはじめ、カフェ・ムゼウム、〝アメリカン・バー〟など、それにシェーンブルン宮殿の西にある初期の住宅を二、三見ることができた。結果としては、ある種の手がかりはつかめたが、ある点では幻滅であった。幻滅の最たるものは、高名なシュタイナー邸である。ネーベハイの《VIENNA、1900》という世紀転換期建築・絵画の案内書をたよりにしてそこを訪れたのだが、第二次大戦後改築されたらしく、元型のヴォールト屋根が切妻屋根に変っていた。戦災の結果なのだろうか。帰国して、伊藤哲夫著『アドルフ・ロース』（鹿島出版会、1980年）を読んでみると、その「無残」な改築のことがすでに書かれていた。



これまでロースについては、画家ココシュカが序文を書いているL．ミュンツの『建築家アドルフ・ロース』（ウィーン、1964年）ぐらいしか読んでいなかったが、少し調べてみようと思って、画期的な研究書といわれるルクシュキイオ／シャーヘルの『アドルフ・ロース』（ザルツブルク、1982年）を取り寄せたりしていると、それを活用し、ウィーンでの研究をふまえて、川向正人著『アドルフ・ロース　世紀末の建築言語ゲーム』（住まいの図書館出版局、1987年）が上梓されていることを知った。その上伊藤哲夫訳、アドルフ・ロース『装飾と罪悪』（ロースの論文集からの抄訳、中央公論美術出版、1987年）やロースの作品の美しい写真集に説明文を添えたH．クルカ編、岩下真好／佐藤康則訳『アドルフ・ロース』（泰流社、1984年）も出ている。この分では、わたしがそれと気づかぬうちに、日本におけるロース研究熱は静かに高まっているのではないかとさえ思われる。

これらの本を読んだ。実は、その読後感を書いてみようと思っていたのであるが、前書きに足をとられて進めなくなってしまった。ただ一言、ロースの新建築を古典的建築言語のゲームとして把える川向正人説から刺激をうけたことを告白しておきたい。しかしわたしとしては、それを美の性質にまで及ぼして、ロースの芸術史的位置づけができたらと今なお考えている。ホーフマンの言う「ネガティヴな美」にこだわってみたいのである。

どい　よしお

1924年　京都府生まれ

京都大学文学部卒業、同志社大学でドイツ語を教える。

1973年　京都大学教養部教授

1988年３月　同上　定年退官。この間、京大、阪大、関西大の大学院で美術史研究を担当。

1988年４月より京都外国語大学教授

主な著書、編著

・『タウト　芸術の旅』（岩波書店　1983）
・『ブルーノ・タウトと現代』（岩波書店　1986）
・『クレーの素描』（岩崎美術社　1978）
・『抽象絵画の誕生』（白水社　1984）
・『ドイツ表現主義の美術・音楽』（河出書房新社　1971）
・『チューリヒ、予兆の十字路』（国書刊行会　1987）など。

主な訳書

・M．フッグラー『クレーの絵画』（紀伊国屋書店　1974）
・ハール・コッホ編『シェーンベルク／カンディンスキー、出会い』（みすず書房　1985）
・W．ヴォリンガー『問いと反問』（法政大学出版局　1971）ほか。



高機能
変性シリコーン樹脂塗料

パワーシリコン



UCC
コーヒー博物館(神戸)
設計監理:竹中工務店
施　　工:竹中工務店



スリランカ民主社会主義共和国 必須医薬品製剤センター
設計監理:日建設計・藤沢薬品工業共同企業体
施　　工:竹中工務店(建築)・ニチメン(機材)

鉄鋼構造物から
無機建材まで塗れる

都市環境にも
長期美観を保証する
超耐候性塗料です

時代の要求にこたえようと、高機能変性シリコーン樹脂塗料〖パワーシリコン〗が、新しいパワーを秘めて誕生しました。
そのパワーの秘密とは!?　それは、合成樹脂中にシロキサン結合を有する組成をもっていることにあります。
このシロキサン結合は、結合エネルギーが高いばかりでなく、結合角度が大きく自由度があるのです。このため、素材に対して強力な付着性、耐候性などの特性を高める働きがあります。

ひろがる色彩・ゆたかな未来
ミズタニ
水谷ペイント株式会社
〒532 大阪市淀川区西三国4-3-90 ☎(06) 391-3401

東京支店・工場☎(03) 733-2751 / 札幌出張所☎(011) 861-3742 / 北関東支店☎(0285) 27-9521 / 南関東出張所☎(0463) 24-0596 / 名古屋支店・工場☎(052) 911-8461
大阪支店☎(06) 391-3401 / 高松出張所☎(0878) 41-4491 / 広島支店☎(082) 244-6556 / 福岡支店・工場☎(092) 611-5731

高機能変性シリコン樹脂塗料

パワーシリコン＃220・＃300

水谷ペイント株式会社
大阪市淀川区西三国4－3－90 〒532
TEL(06) 391—3401　FAX(06) 391—3456

建築外装部材(セメント製品・アルミ・ステンレス・鉄鋼材その他)

●はじめに

建材の多様化・建築物の高層化に伴い、それを保護する塗料には特に耐久性の高度化が求められている。

これまで外装部材に使用されてきたウレタン樹脂・アクリル樹脂の塗料は、その要求を満たさず塗り替えを余儀なくされている。

耐候性の良いこれらの合成樹脂塗料でも、長期間の雨・紫外線・温度変化・汚染物質により、徐々に風化が進み、光沢の低下→チョーキング→退色→保護機能喪失となり、更に耐久性の優れた塗料の要望が強い。

パワーシリコンは、耐久性を画期的に向上させる塗料である。塗料樹脂にシロキサン結合（珪素と酸素の結合よりなる）を導入することにより耐久性を大幅に向上させ又、次に延べるような特長を持つものである。(特許出願中)

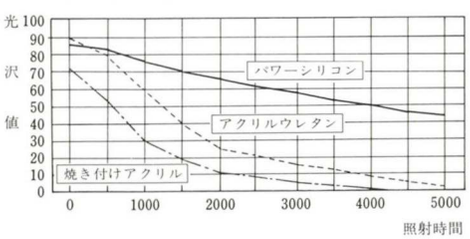
●特長

(1)長期耐候性に優れる

図は、サンシャインウエザーオメーター（促進耐候性試験機）による光沢値の変化を比較したもの。外装パネル・サッシに使われる焼付け型アクリル・焼付け型ウレタン等は光沢値が30％以下になると塗り替える必要があるが、パワーシリコンはアクリルウレタン塗料に比較して3倍前後のメンテナンスサイクルとなる。

図—1　促進耐候性比較試験結果

鋼板にパワーシリコン＃300白・市販建材用焼付けアクリル塗料・アクリルウレタン塗料を焼付け塗装、サンシャインウエザーオメーター照射の光沢変化。



(2)付着性に優れる

パワーシリコンは、これまでの塗料に比べ、有機素材・無機素材を問わず付着性が良く、鉄材のように腐食しやすいものは錆止めプライマーを必要とするが、ステンレス・アルミニウム・クロムメッキ・亜鉛引き鋼板などは、素材の脱脂、化成処理など表面調整を充分に行えば優れた付着性を示す。

表—1　付着性試験(JIS 5400 6.15)

素材の種類	ゴバン目試験結果
磁器タイル	100／100
ステンレス	100／100
アルミニウム	100／100
クロムメッキ	100／100
FRP	100／100
亜鉛引き鋼板	100／100
ブリキ	100／100

パワーシリコンを塗装した金属材にシーリング材を塗布して付着力を測定した。

表—2　シーリング材の付着性

種類	最大引っ張り応力
シリコン系	10.4kg/cm²
変性シリコン系	5.0
チオコール系	6.2
ポリウレタン系	17.5

(3)耐汚染性に優れる

パワーシリコンはこれまでの塗料に比べ初期の塗膜の状態がいつまでもかわらず、撥水性に優れ汚れが付きにくい。特に都市部の煤煙・汚染性じんあいに汚れにくい。

(4)作業性が良い

スプレー・エアレス・刷毛・ローラー・静電塗装のいずれでも塗装が容易である。
初期乾燥が早く、かつ平滑性の良い塗膜になる。

乾燥条件は、部材の形状や作業方法に応じて、常温乾燥から150℃まで任意に選べるため、工場焼付け塗装・建築現場施工など使い分けできる。

(5)色範囲が広い

一般エナメル色は、殆ど色の制約がない。更に光沢も3分艶あり～全艶ありを準備している。

(6)リコート性にすぐれている

塗り重ね・塗り替えが容易で、又、アクリルやウレタンの塗膜にもそのまま上塗りできる（色替えや改装工事にも適する。

●パワーシリコンの種類と物性値

(1)パワーシリコン＃220システム

用途はRC・PC・モルタル・セメント系建材・石綿スレート板・FRP・磁器タイルなど。

表—3　パワーシリコン＃220物性値

(工程=石綿スレート板→パワーシリコン＃220 Lシーラー→パワーシリコン＃220二回塗り→7日間乾燥)

表—3　パワーシリコン＃220物性値

項目	条件	結果
光沢値	60° 鏡面反射率	67.5
硬度	鉛筆硬度	H
付着性	ゴバン目試験	100／100
耐水性	水道水30日間	異常なし
耐酸性	5％HCL30日間	異常なし
耐アルカリ性	3％NaoH30日間	異常なし
凍結融解試験	水中—20℃16Hr	10C/S
	常温8Hr繰り返し	異常なし

(2)パワータイルEPOシステム

吹き付けタイル材で主材にエポキシエマルジョンを使用、上塗りにパワーシリコン＃220を塗装する、耐候性・耐汚染性・耐アルカリ性に優れた塗装システム。

凹凸模様・押さえ模様・ゆず肌模様がある。

表—4　パワータイルEPO物性値

(工程=モルタル→パワータイルEPOプライマー→パワータイルEPO主材→パワータイルEPOプライマー→パワーシリコン＃220二回塗り)

試験規格　JIS A 6910

試験項目		規格	結果
低温安定性		塊がなく、組成分の分離・凝集がないこと	塊がなく組成物の分離・凝集がない
初期乾燥によるひび割れ抵抗性		ひび割れを生じないこと	ひび割れを生じなかった
付着強さ	常態	7.0以上	21.0
	浸水後	5.0以上	19.2
温冷繰り返し作用による抵抗性		剥がれ、ひび割れ膨れ・著し変色光沢低下のないこと	異常なし
透水性		0.5以下	0
耐衝撃性		ひび割れ・変形・剥がれを生じないこと	ひび割れ・著しい変形・剥がれがない
耐候性		ひび割れ剥がれがなく変色がグレースケール3以上	ひび割れ剥がれ変色が少ない

(3)パワータイルDシステム

弾性エマッルジョンタイル材の上塗りに伸張性の良いパワーシリコン＃230を上塗りする、耐候性・防水性・耐汚染性に優れた塗装システム。
凹凸模様・押さえ模様・ゆず肌模様がある。

(4)パワーシリコン＃300システム

用途は、アルミ・ステンレス・鉄鋼材・トタン・ブリキ・メッキ製品・プラスチックなどの塗装。

①アルミ建材の例

(工程=アルミサッシ→化成処理→パワーシリコン＃300白2回塗り→120℃×30分焼付け)

表—5　アルミ建材塗装品の物性値

項目・条件	結果
膜厚	23～28μ
光沢	85.2
硬度	3H
付着性　ゴバン目試験	100／100
耐衝撃性デュポン　1000g凹	50cm合格
〃　〃凸	50cm合格
エリクセン試験　1mmカット	5mm異常なし
描画試験　1000g	10点
耐汚染性　黒マジック	○
赤マジック	○
耐酸性　5％硫酸20℃　×72時間	異常なし
耐アルカリ性　1％苛性ソーダ　〃	異常なし
寒燃サイクル　沸水8Hr→-20℃ 16Hrを1サイクルとし7サイクル	異常なし
塩水噴霧試験　1000時間	異常なし

②ステンレス建材塗装

(工程=ステンレス<SUS 304 2B>→化成処理→パワーシリコン＃300白2回塗装→130℃×30分焼付け)

試験規格JIS K 5400その他

表—6　ステンレス建材塗装品の物性値

項目・条件	結果
光沢値　60° 鏡面反射率	85.6
付着性　ゴバン目試験	100／100
描画試験	9点
鉛筆硬度	3H
エリクセン値	5mm合格
衝撃試験　1000g×50cm	合格
耐水性　水道水30日	異常なし
耐酸性　5％硫酸7日	異常なし
耐アルカリ性　5％苛性ソーダ7日	異常なし
塩水噴霧試験　30日	合格

末木俊昭／建材委員

法令コーナー

編集委員会法令分科会

225

「大阪市総合設計許可取扱要綱」の改正（その１）

１．改正の趣旨

総合設計制度は、一定規模以上の敷地で、かつ、その敷地内に一定規模以上の公開空地を確保する建築計画について、計画を総合的に判断し、市街地の環境改善に資すると認められる場合に、建築基準法第59条の２に基づき、一般的な容積率制限、斜線制限の特例を認める制度である。

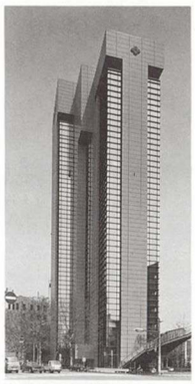
昭和61年12月27日、国において「総合設計許可準則」が改正され、また昭和62年11月16日、改正された建築基準法施行令が施行されたので、それに伴い大阪市においても、個々の建築計画をよりきめ細かく評価することにより、さらに積極的に良好な建築計画を誘導し、土地利用の適切な高度化と市街地環境の改善を図っていくため、「大阪市総合設計許可取扱要綱」および「同実施基準」を改正し、昭和63年２月10日から実施している。

２．国の「総合設計許可準則」の改正内容

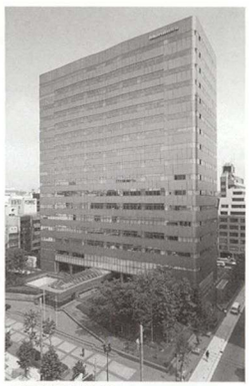
(1)　容積率の割増し量の引き上げ

①　都市再開発方針に定められた２号地区等で、地区計画等によって高度利用を図るべきとされた地区の場合、公開空地に応じた割増し量を通常の1.25倍に引き上げた。

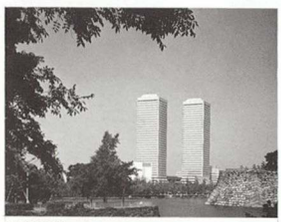
②　市街地住宅総合設計（割増し量が通常の総合設計の1.5倍）の対象を、延べ面積の2/3以上が住宅である建築物から、1/4以上が住宅である建築物へと対象範囲を拡大し、その割合が1/4～2/3の場合について、住宅部分の割合に応じて割増し量を引き上げた。



住友生命御堂筋ビル



丸紅大阪本社ビル



ツイン21



日本生命今橋ビル



オー・エム・ホテル日航ビル



近鉄堂島ビル

大阪市の要綱実施基準（抜粋）

第１　容積率制限の緩和

２．公開空地

(2)　公開空地の有効面積の算定

①　公開空地の有効面積（以下「有効公開空地面積」という。）は、次に掲げる区分に従い、当該公開空地又は公開空地の部分の面積にアからオまでに掲げる係数を乗じて算定するものとする。

ア．商業地域における歩道状公開空地（幅が４メートルを超えるものにあっては、幅が４メートル以内の部分に限る。）　1.5

イ．面積が1,000平方メートル以上で最小幅が15メートル以上あり、かつ、二方以上が幅員６メートル以上の道路に接する公開空地又は公開空地の部分（アに該当するものを除く。）　1.5

ウ．面積が500平方メートル以上で幅員６メートル以上の道路に接する公開空地又は公開空地の部分（ア、イに該当するものを除く。）　1.2

エ．面積が300平方メートル以上500平方メートル未満で幅員６メートル以上の道路に接する公開空地又は公開空地の部分（アに該当するものを除く。）　1.1

オ．ア、イ、ウ及びエ以外の公開空地又は公開空地の部分　1.0

なお、アからエまでの適用にあたっては、当該公開空地の配置、形態等が、公開空地の効用を増大させ、市街地環境の整備改善に寄与すると認められるものとする。

②　次に掲げるものの有効公開空地面積は、当該公開空地又は公開空地の部分の面積に①に規定する係数を乗じて得たものに、次に掲げる区分に従い、アからエまでに掲げる係数を乗じて算定するものとする。

ア．道路からの見通しが、隣地又は計画建築物によって妨げられる公開空地については、原則として認められないが、道路の自動車交通量が著しく多い場合等公開空地が道路に接しないことが当該公開空地の環境上好ましいもの。　0.5

イ．公開空地の地盤（公開空地が建築物の屋上である場合には、その屋上面）の高さが、当該公開空地に接している道路の路面の高さと比べて1.5メートル以上高いもの又は３メートル以上低いもの（地形上、道路から連続して高さが変化するもの及び駅舎のコンコース、横断歩道橋等に連絡するもの等歩行者の利便に供するものを除く。）　0.6

ウ．ピロティ、アーケード、アトリウム等の建築物又は建築物の部分（以下「ピロティ等」という。）によって覆われているもの（はり下（はりがない場合には床版下。以下同じ。）10メートル以上のものでピロティ等に覆われていることが公開空地の環境を向上させるものを除く。）

	はり下2.5m以上5m未満	はり下5m以上
３面以上開放で、開放面が道路又は有効係数1.0以上の公開空地に接続するもの	0.6	0.8
上記以外のもの	0.4	0.6

エ．公開空地の位置、意匠、形態等や公開空地に面する建築物又は建築物の部分の意匠、形態等が当該公開空地の効用を増大させ、市街地環境の整備改善に特に寄与すると認められるもの　1.2

③　隣接する敷地において一体的に計画された公開空地については、全体を一の公開空地とみなして、①及び②の規定を適用することができるものとする。この場合において、①及び②の規定中「当該公開空地又は公開空地の部分の面積」とあるのは「当該敷地内の当該公開空地又は公開空地の部分の面積」とする。

(2)　良好な公開空地に対する積極的評価

公開空地について、その機能、効果による区分を行い、歩道状公開空地や大規模な公開空地等の良好な公開空地については、実面積に一定の割増しを行ったものを有効公開空地面積として容積率の割増しを行うこととした。

(3)　斜線制限の緩和に関する基準の改善

斜線制限の緩和に関する現行の立面投影方式による評価について、地表から100ｍを超える高い部分については投影面積のてい減を行うこととした。

３．「大阪市総合設計許可取扱要綱」の改正

大阪市における「総合設計許可取扱要綱」も、主に、つぎの４項目について改正を行った。

(1)　公開空地の評価の拡大

総合設計制度では、公開空地の割合に応じて容積の割増しが認められるが、今回の改正では、公開空地についてその機能、効果による評価区分をよりきめ細かく行い、商業地域における歩道状公開空地や大規模な公開空地等の良好な公開空地については、実面積に一定の割増しを行ったものを有効公開空地面積として容積率の割増しを行うこととした。

次号では、ひき続き、以下の概要をご紹介する。

(2)　共同住宅の容積割増し対象の拡大

(3)　斜線制限の緩和に関する基準の改善

(4)　斜線制限の緩和に関する空地率の引き下げ

（大阪市計画局建築指導部指導課／増田靖生）

「建築と社会」バックナンバー総目次(号別)　Vol.1 No.1～Vol.1 No.7 (大正6年9月～大正7年5月発行)

協会所蔵資料の公開閲覧制度を控えて



「建築と社会」
Vol.1 No.1表紙

本協会では昭和63年度事業計画に基づいて、各種手持資料を公開することにいたしました。先ず、手始めに、当会の機関誌である「建築と社会」(大正6年9月15日関西建築協会雑誌として発行以来、本年4月号をもって通巻793号を発行)を会員を始め、広く一般の方に公開し、閲覧、利用に供することにいたしました。

すでに利用頻度が高く、相当痛んだものもありますので、現在、修理中です。従って、公開閲覧制度開始までには、いま暫らくの期間を要しますが、開始前には改めて制度内容を会告でお知らせします。

なお、ご利用の便に供するために本月号よりバックナンバーの全目次を逐次掲載しますので、切り取り保存して頂ければ幸甚に存じます。　(事務局)

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.1) 大正6年9月15日発行

口絵……新装されつつある中之島一帯の遠望(三色版)、新装せる欧米の二大都市庁舎(倫敦市、紐育市)、大阪朝日新聞本社、住友銀行大阪市船場支店、大阪市電梅田車庫及四橋交叉点の市電用建物
発刊の辞
都市大火の危険……会員　片岡　安
家相問答……会員　葛野壮一郎
神殿建築と高天ヶ原……会員　波江悌夫
都市と建築
議院建築調査会に就て……准敬　生
コンクリート……会員　大蘆　生
空中の庭園……須藤眞金
蘆分倉庫の爆発事件調査報告書……第4部災害調査委員会
会　報
序……本会の創立……第1回例会……特別委員会……第2回例会……第3回例会……特別理事会……第4回例会……臨時役員会……臨時例会
広　告
秋山小林商店、伊藤喜商店(以上前付)　建築事務所案内、建築請負業者案内、須賀商会、松尾和助商店、米国貿易会社、大阪窯業会社、斉藤省三、桜セメント会社、みよし組大阪支店、高田商会、大阪煖房商会(以上後付)　コルク工業合資会社(裏表紙)

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.2) 大正6年11月15日発行

口絵……新しき三越大阪支店(三色版)、大正5年度出火場分布図、世界最高の建築・紐育市ウールオース館、藤田組本店、大阪府立物産陳列所、大阪築港潮湯、大阪築港博覧会建物、10月1日東京市内に於ける台風被害の惨状、淀川北岸大洪水の実況
災害防備之急要
議院建築問題……会員　片岡　安
天下の秋……会員　甲南　生
神殿建築と高天ヶ原(承前)……会員　波江悌夫
建築の経済観……会員　片岡　安
住宅建築の改造……会員　木野精吾
名士の住宅観
加島銀行頭取 広岡恵三、大阪朝日新聞社長 村山龍平、箕面有馬電気軌道株式会社支配人 小林一三、医学博士 木下東作、近江銀行頭取 池田経三郎氏　談
家相問答(承前)……会員　葛野壮一郎
都市と建築
日の丸都市、大都市の雑踏より生ずる損害、建築条例の制定、建築物の高さと街路の幅員、都市計画雑話
淀川の洪水と河村瑞賢
水の行衛……会員　野人　生
石と日本人……会員　大蘆　生
パルテノン哀話……建築史ローマンス……会員　須藤眞金
風と水
火災保険率協定案と倉庫建築
天満青物市場災害調査報告書……第4部委員会
各部委員会記事
故会員松田亥作君
会報
附録……危険物品取締規則(大阪府令)

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.3) 大正7年1月15日発行

口絵……独軍に脅迫されつつあるヴェニス市(三色版)、大阪市及接続町村の学校負担区別伝染病発生比較表、罹災前の東京国技館(内部及外部)、国技館焼跡の惨状、新装なりたる住友銀行東京支店、東京銀行集会所の新館、独飛行機の夜襲に脅かされる倫敦(塔橋上改定砲弾破裂の狼籍)、聯合軍飛行機の投下爆弾が小亜細亜ペール一港の鉄道駅に命中して盛に延焼しつつある光景、神戸郵便局の火災
保険法実施の急務
国防上より観たる都市の防備――建築条例制度の急務……会員　片岡　安
在米所感……会員　森山伊望
議院建築問答……会員T．N　生
衛生時論……東城　生
　保健衛生調査会に就て、公衆保健法制定の急要、貧民窟改造(住宅法制定)に就て
住宅問題
住宅に関する時代観察
英国及大陸の共同住宅館……前英王立建築学会副会長　エドウィン・チー・ホール氏
名士の住宅観
大阪医科大学長 佐多愛彦氏、大阪毎日新聞社長 本山彦一氏、箕有電鉄社長 平賀　敏氏、住友本店支配人 小倉正恒氏、日本銀行大阪支店長 麻生二郎氏
都市と建築……会員　都市研究生
　東京の市区改正に就て、都市建築の取締、都市の美観と建物の色彩
　家屋問題―英国リーズ市の会合(1916年12月2日ビルヂング・ニュース所載)
我校の生徒養成について……会員　藤木好雄
東京市街の建築的贅漬……会員　武田五一
国技館災害視察報告……会員　葛野壮一郎
国技館災害視察所感……会員　木子七郎
神戸郵便局の火災に就いて……会員　波江悌夫
貧しき家より……会員　うき　生
"Ka"の独白……会員　須藤眞金
東都の友へ……会員　甲南　生
暗の光……会員　野人　生
三国「セルロイド」会社工場災害調査報告書……第4部委員会
会報
都市計画……前紐育市技師、亜米利加土木学会々員　ネルソン・リュイス氏述

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.4) 大正7年2月20日発行

口絵……米国議事堂附属図書館内部(三色版)、北亜米利加合衆国国会議事堂、テームズ河畔の英国国会議事堂、英国国会議事堂内セント・ステフェンス・ホール及図書閲覧室、独逸帝国国会議事堂、墺国国会議事堂、ダニュブ河畔の洪牙利国国会議事堂、都市建築の今昔(七、八)
都市改良機運熟成
我邦の住宅改良第一策……会員　片岡　安
議院建築計画回想録
会員の声……会員　夏雲　生
衛生時論
室内換気の理論と実験……チャーレス・アイ・ハバード氏述
議院建築問題……会員　片岡　安
都市と建築……会員　都市研究生
大阪北区大火災と倫敦大火、大阪市街改良法、英国のポート・サンライト田園都市
大阪市の細民住宅に就て……第3部委員　K．U　生
戦争と建築……会員　大蘆　生
欧州西部戦線に於ける歴史的建築の破壊
爆発に対する建物の強さ……会員　谷本喜治訳
爆発に対する建物の強さ――東倫敦兵機工場爆発の状況
公共的築造物の管理又改善……会員　葛野壮一郎
大阪を立ち退いて……会員　まがね
暁の鐘……会員　野人　生
都市建築法令調査会設置に関する建議
安田倉庫の経験せる火災に就て……第4部委員　波江悌夫
会報
附録　都市計画……前紐育市技師、亜米利加土木学会々員　ネルソン・リュイス氏述

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.5) 大正7年3月15日発行

口絵……白耳義国国会議事堂、露国国会議事堂、西班牙国国会議事堂、独逸帝国国会議事堂、洪牙利国国会議事堂、北米合衆国国会議事堂、佛蘭国国会議事堂、英吉利国国会議事堂、北陸地方建築物の雪害、都市建築の今昔(九、十)
社会政策と住居改良
我邦の住宅改良第一策(中)……会員　片岡　安
他山の石
英国に於ける住居及都市計画法令(1)……大阪高等商業学校教授　伊藤眞雄
国民保健に関する輿論―都市衛生設備の欠陥―
座習の利害……会員　葛野壮一郎
都市と建築……会員　都市研究生
　都市建築法令調査会設置に関する建議に就き当局の想度と吾人の希望、南満鉄道沿線の都市計画、安政元年の関西地震と仝二年の江戸大地震、米国の火災損害高
紐育市の交通問題(1)……会員　伊藤正文
雪と建築……会員　木子七郎
大阪市の細民住宅に就て(2)……会員　K．U　生
官公署に於ける建築課の独立……会員　池田　実
建築敷地に就いて……会員　設楽貞雄
建築と心……会員　正文　生
ポンペイの最後の日――建築史ローマンス――……会員　須藤眞金
北木島紀行(上)……会員　野人　生
学校建築と火災……第4部員　T．N　生
会報
附録　都市計画……前紐育市技師、亜米利加土木学会々員　ネルソン・リュイス氏述

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.6) 大正7年4月15日発行

口絵……大阪堂島川北岸の偉観(三色版)、紐育高等法院平面図(2頁大)、紐育高等法院配景図、世界最高建築ウール・ウォース館……(夜景……工事中……平面図……内部)、都市建築の今昔(十一、十二)、大阪三越呉服店旧館の焼跡
市区改正と都市建築
我邦の住宅改良第一策(下)……会員　片岡　安
英国に於ける住居及都市計画法令(2)……大阪高等商業学校教授　伊藤眞雄
大阪市の屎尿処分問題(上)……大阪市技師　野田泰男
紐育のウールウォース・ビルヂングと高等法院……会員　中栄徹郎
亜米利加の建築……会員　大蘆　生
紐育市の交通問題(2)……会員　伊藤正文訳
都市と建築……会員　都市研究生
　都市計画と市区改正、物価騰貴と都市建築
建築博覧会の開催に就て……会員　准敬　生
婦人と衣食住……会員　葛野壮一郎
大阪市の細民住宅に就て(3)……会員　U．K　生
寺院建築の将来……会員　波江悌夫
東大寺建築史(1)……会員　須藤眞金
北木島紀行(下)……会員　N．Y　生
川の都……会員　野人　生
落花片々
三越呉服店災害調査報告書……第4部委員会
会報
附録　ベネチヤ市建築条例

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.7) 大正7年5月15日発行

口絵……東京市丸の内の模範道路(三色版)、新築の台北庁舎、台北市の今昔(二～十一)、東京市主要街路の現状、仮定大阪市改正街路図(8頁大)
都市建築改造の機運
我国都市改良計画の将来(1)……会員　片岡　安
英国に於ける住居及都市計画法令(3)……大阪高等商業学校教授　伊藤眞雄
大阪市の屎尿処分問題(下)……大阪市技師　野田泰男
本邦森林と建築用材に就いて(1)……会員　谷　民蔵
紐育市の交通問題(3)……会員　伊藤正文訳
都市と建築……会員　都市研究生
　建築学会大会に於ける都市計画講演会所感、東京と大阪の

「建築と社会」 バックナンバー総目次(号別) Vol.1 No.7〜Vol.2 No.1 (大正7年5月〜大正8年1月発行)

建築対照
都市と日光……会員 牛村喜男
改良住宅……会員 今林彦太郎訳
台北市の市区改正に就いて……会員 野村一郎
東大寺建築史(2)……会員 須藤眞金
青葉の山
東京通信—建築学会通俗大会記事……会員 江都 生
東京市区改正条例の改正
会報
附録 羅馬市建築条例

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.8) 大正7年6月15日発行

口絵……大阪市堺筋の高層建築(二色版)、紐育の市街観(一、二)(二頁大)、紐育の建築(一〜十)、都市建築の今昔(十三)
大阪市街系統改正
我国都市改良計画の将来(下)……会員 片岡 安
最近の大阪港……大阪市役所 港湾部
都市計画と市民的訓練……会員 葛野壮一郎
技術家とは何ぞや……大阪市港湾部長 直木倫太郎
本邦森林と建築用材に就いて(2)……会員 谷 民蔵
都市と建築……会員 都市研究生
未来の紐育市街と第二築港計画鳥瞰図(挿絵)、世界的記録を示す紐育の市勢、都市計画調査会成立の経過、明歴3年江戸大火の記、明歴3年大火焼跡地図(二頁大)
低廉なる職工住宅建築……会員 牛村喜男
日本の都市……会告 日高 胖
亜米利加の田園住宅(1)……会員 谷本多喜治
亜米利加の花……会員 伊藤正文
赤阪大理石に就いて……会員 T.T 生
赤阪金生山と大理石工場(挿絵)
佛寺建築の将来(続)……会員 波江悌夫
建築業協会の消息
会報
附録 維納市建築条例(上)

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.9) 大正7年7月25日発行

口絵……大阪市娯楽地区随一なる道頓堀(三色版)、倫敦の名所(一〜八)、都市建築の今昔(十四、十五)
救済事業調査会の設置
結核病と住宅改良問題……会員 片岡 安
最近の大阪港(2)……大阪市役所港湾部
技術家とは何ぞや(続)…… 大阪市役所港湾部長 直木倫太郎
本邦森林と建築用材に就いて(3)……会員 谷 民蔵
貯材と運輸軌道(挿絵)
都市と建築……会員 都市研究生
三十年後の大阪、救済事業調査会と都市計画調査会、都市計画調査会の経過
亜米利加の田園住宅(2)……会員 谷本多喜治
建築と趣味(1)……会員 香櫨書生
米国に於ける職工住宅経営法(1)……会員 葛野壮一郎
懸賞規定と審査員の態度……会員 矮 燕 生
東大寺建築史(3)……会員 須藤眞金
佛寺建築の将来(3)……会員 波江悌夫
帝都通信……普通賛助員 丘周 生
恋の柱頭——建築史ローマンス……会員 まがね
時報
第5回結核予防連合会
故西村儘爾君と高知県庁舎配景図
会報
附録 墺匈国首府維納市建築条令(下)

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.10) 大正7年8月25日発行

口絵……大阪難波橋北畔より船場一円を見る(三色版)、巴里の誇(一〜十二)、都市建築の今昔(十六)
社会政策的都市経営
都市計画より見たる遷都(上)……会員 片岡 安
最近の大阪港(3)……大阪市役所港湾部
覚めたる声(上)……大阪市役所港湾部長 直木倫太郎
本邦森林と建築用材に就いて(4)……会員 谷 民蔵
都市と建築……会員 都市研究生
三十年後の大阪(2)、帝都雑感
女流の住宅観
在来の住宅を改良して……候爵嗣子夫人 西園寺新子談
間取りの注文……日本女子大学教授 手塚かね子談
衛生上より見たる住宅建築……東京女子医学専門学校長 吉岡弥生談
亜米利加の田園住宅(3)……会員 谷本多喜治
東大寺建築史(4)……会員 須藤眞金
佛寺建築の将来(4)……会員 波江悌夫
淀の流……会員 澱水 生
神戸市栄町に於ける火災に就いて……第4部委員会
時報
中米グアテマラ市の大地震(挿絵)
米国に於けるプレーグラウンドの状況
大阪市改正の範囲、大阪府の総人口、大阪市内空気試験、尼崎市上水道、堺市鑿泉問題協定、保健調査会の調査方針
会報
附録 巴里市建築条例、巴里市街全図

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.11) 大正7年9月25日発行

口絵……大阪市の表玄関たる梅田停車場(三色版)、伯林見物(一〜十一)、都市建築の今昔(十七)
都市内外の住居欠乏
都市計画より見たる遷都(中)……会員 片岡 安
最近の大阪港(4)……大阪市役所港湾部
覚めたる声(下)……大阪市役所港湾部長 直木倫太郎
本邦森林と建築用材に就いて(5)……会員 谷 民蔵
北海道の林況(挿絵)
都市と建築……会員 都市研究生
三十年後の大阪(3)、物価暴騰と救済事業
女流の住宅観
橡側の硝子障子は亡夫博士が創めました……法学博士未亡人 鳩山春子談
お台所中心の私の家庭……医学博士夫人 入澤常子談
西洋風にしかけた住宅の失敗……青山学院教授夫人 左近まつ子談
亜米利加の田園住宅(4)……会員 谷本多喜治
建築の職業と其技術に就いて……会員 日高 胖
京都古建築観(1)……特別賛助員 伊藤清造
東大寺建築史(5)……会員 須藤眞金
演劇と建築(上)……会員 波江悌夫
老建築師の思ひ出——建築史ローマンス……会員 まがね
建堂閑話……会員 望蜀 生
府立大阪工業試験所の火災に就いて……第4部委員会
故名誉賛助員安永義章氏
会報
附録 議院建築意匠設計懸賞募集規程

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.12) 大正7年10月25日発行

口絵……大阪市南部の娯楽地区(三色版)、墺都と洪都(一〜十一)、都市建築の今昔(十八)
都市建築と物価暴騰
都市計画より見たる遷都(下)……会員 片岡 安
物価騰貴と都市社会政策……都市協会幹事 藤原俊雄
本邦森林と建築用材に就いて(6)……会員 谷 民蔵
運河に就いて(上)……東京高等商業学校教授 石川文吾
都市と建築……会員 都市研究生
三十年後の大阪(4)
名流の住宅観
応接間だけを洋風に……陸軍中将前陸軍大臣 楠瀬幸彦 談
人手主義を廃して……国民経済調査会委員法学博士 小山 温談
経済衛生実用の見地から……貴族院議員前逓信次官 内田嘉吉談
建築と趣味(2)……会員 香櫨 書生
セントルイス市に於ける地帯式都市計画条例……会員 伊藤正文
京都古建築観(2)……特別賛助員 伊藤清造
懸賞競技と思想の推移……会員 矮燕 生
米国に於ける職工住宅経営法(3)……会員 葛野壮一郎
演劇と建築(中)……会員 波江悌夫
スコット記念像——建築史ローマンス……会員 須藤まがね
東京通信……会員 江都 生
神戸市に於ける焼打事件に就いて……第4部員 H.I 生
時報
議院建築意匠設計懸賞募集規程
議院建築意匠設計懸賞募集ニ関スル質疑応答……臨時議院建築局
聖徳記念絵画館設計図案当選者
会報
附録 巴里市衛生警察令

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.13) 大正7年11月25日発行

口絵……大阪市中部の娯楽地区(三色版)、平和の都(一〜十一)、都市建築の今昔(十九)
家屋政策確立の急要
都市計画と建築界の任務……会員 野村一郎
運河に就いて(下)……東京高等商業学校教授 石川文吾
紐育都市雑感……早稲田大学教授 内藤多仲
本邦森林と建築用材に就いて(7)……会員 谷 民蔵
都市と建築……会員 都市研究生
三十年後の大阪(5)、家屋問題の勃興
名流の住宅観
建てるまでと建てゝから……歌舞伎座演芸部長 中村歌右衛門談
夫婦で住宅の新工夫……日本銀行秘書役夫人 梅田節弥子談
事務所と私宅とを同じ家にして……有澤病院長有沢潤氏夫人 有沢さく子 談
明治神宮外苑記念建築物懸賞当選図案に就いて……会員 大蘆 生
内訳明細書の添削に就いて……会員 瀬戸 文吾
京都古建築観(3)……特別賛助員 伊藤清造
建堂閑話(続)……会員 望蜀 生
時報
議院建築意匠設計懸賞募集ニ関スル質疑応答……議院建築局
建築業協会と建築材料及工手間調査
会報
附録 巴里市衛生規則

●関西建築協会雑誌(Vol.1 No.14) 大正7年12月25日発行

口絵……大阪市中央公会堂観覧当日の群集(三色版)、大阪中央公会堂の正面・側面・貴賓室・中食堂・地下食堂、本会第1回大会通俗講演会のその日(一、二)、本会第1回大会晩餐会のその夜(一、二)
小住宅問題の勃興
都市住宅問題……大阪市高級助役 関 一
建築批評家の出藍を望む……会員 秋水 生
家相論……会員 葛野壮一郎
都市と建築……会員 都市研究生
三十年後の大阪(6)
女流の住宅観
良いと感じたこと……松岡病院長松岡道治氏夫人 松岡都奈子談
肝要な室々の構造……女子大学教授 井上秀子談
洋館に住んでよいと思ふことは……薬学博士木村彦衛門氏夫人 木村永子談
京都古建築観(4)……特別賛助員 伊藤清造
計画と設計……会員 波江悌夫
戦の跡……会員 野人 生
大阪市中央公会堂建築工事に就いて……会員 谷 民蔵
関西建築協会第1回大会記事
時報
議院建築意匠設計懸賞募集ニ関スル質疑応答(続)……臨時議院建築局
建築業協会と建築材料及工手間調査(続)
会報

●日本建築協会雑誌(Vol.2 No.1) 大正8年1月25日発行

口絵……本会(会誌表紙)第1回懸賞応募入選図案(二色版)、巴里市とヴェルサイユ市、ヴェルサイユ市と其庭園、ヴェルサイユ宮殿平面図、ヴェルサイユ宮殿(一、二)、宮殿内の画廊、庭園内の壮観(一〜四)
戦後の住宅政策
東京大改造論(1)……会員 片岡 安
デモクラシーと建築…東京帝国大学教授工学博士 佐野利器
英国の都市計画法(1)…大阪高等商業学校教授法学士 伊藤眞雄
建築様式論……特別賛助員 伊藤清造
都市と建築
大阪市区改正に就いて……会員 片岡 安
我国大都市改善の必要……東京帝国大学法科大学教授 渡辺鉄蔵
都市の建築……内務省都市計画課長 池田 宏
都市改良問題……前内務大臣法学博士 水野錬太郎
現代社会観(1)……会員 茅海 生
神前結婚の過去及び現在……在東京 大番町人
戦後に於ける倫敦の住居問題(上)……会員 M.I 生
京都古建築観(5)……特別賛助員 伊藤清造
東大寺建築史(6)……会員 須藤眞金
回想録(上)……会員 野人 生
時報
都市計画法案内容……内務省都市計画課
建築法案内容……内務省都市計画課
議院建築意匠設計懸賞募集ニ関スル質疑応答……臨時議院建築局
会報
附録 ブリッセル市建築規則(上)

昭和63年度事業計画

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391 FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00

昭和63年度においては、更に飛躍する試験所を目指し、新たに簡易振動台の導入、土質試験機器の整備等のほか、行政施策に基づく骨材試料の巡回採取とその試験業務の拡大、データ自動処理システムの導入による試験業務の迅速化等、試験機器の整備及び機能の向上に重点を置き一層業務の拡大に努める。一方、作業環境についても積極的にその改善・整備を図る。

また、自主調査研究を推進し、技術水準の向上に努める。

本事業計画の概要は次の通りである。

1.施設整備事業

(1) 建物・構築物関係

業務の一元化に伴う工事用材料試験棟の改造及び老朽化した本館施設の一部の改修等を行う。

(2) 試験機器・装置等関係

ア．耐火・防火試験関係

耐火試験用輻射計の購入及び作業能率向上のためのガス配管の改造等を行う。

イ．構造物試験関係

昨年度から継続して実施している構造体模型、住宅用部品等の振動実験を行うための簡易振動台の導入を本年度で完了させるほか、土質関係の基礎的な試験を行うための関連機器の整備等を行う。

ウ．音・熱・動風圧試験関係

万能フィルターを導入し、最近急増している床衝撃音測定システムの自動化を完成して試験業務の効率及び試験精度の向上を図るほか、多点温度記録装置・複層ガラス耐久性試験装置等の買替えを行う。

エ．材料試験関係

最近の化学分析試験や建物調査の増加傾向に鑑み、ドラフトチャンバー及び鉄筋腐食モニタリング測定装置を増設するほか、試験項目の拡大を図るため赤外線方式CO_2濃度計及び細骨材の微粉末量測定のためのSE試験装置の整備等を行う。

オ．本所・分室工事用材料試験関係

工事用材料試験結果のデータ自動処理システムを導入し、業務の迅速化・省力化を図るほか、鉄筋ガス圧接部非破壊試験機の新設(本所)等を行い業務の拡大を図る。

2．2.附帯事業

(1) 自主調査研究事業

昭和63年度においては、次のとおり行う。

ア．継続分

(ア) 骨材のアルカリ・シリカ反応性早期判定試験方法の開発に関する研究

(イ) 骨材のアルカリ炭酸塩反応性早期判定試験方法の開発に関する研究

(ウ) コンクリート中鋼材の非破壊腐食探査に関する研究（大阪大学鈴木研究室との共同研究）

(エ) インバータモーター駆動自動制御静的加力システムの開発 ― 複数加力制御の場合 ―

(オ) 開口部の熱貫流率測定方法に関する研究（日本建築学会熱小委員会の調査研究の分担）

(カ) 耐火試験時における防火戸の漏煙量測定法に関する研究

(キ) サッシ及びドアの気密性と遮音性に関する実験的研究

イ．新規分

(ア) 生コンクリートのアルカリ骨材反応性早期判定試験方法の開発に関する研究

(イ) 硬化コンクリートのアルカリ骨材反応性早期判定試験方法の開発に関する研究

(ウ) 地震動の加速度記録の数値化と補正法に関する研究

(エ) 台風時の屋根瓦の飛散に関する研究

(オ) 地盤の静的貫入試験に関する実験的研究

(カ) 地盤の標準貫入試験においてロッドに生じる応力波形の解析（実験的研究）

(キ) 仕上材料による床衝撃音低減効果に関する研究

(ク) インテンシティ法による遮音欠損部の定量的評価法に関する研究

(2) 受託調査研究事業

関係行政機関又は建設関連企業等からの依頼に応じ、随時調査研究のための委員会を設置するなどの方法で行う。

(3) 建築技術安全審査委員会等事業

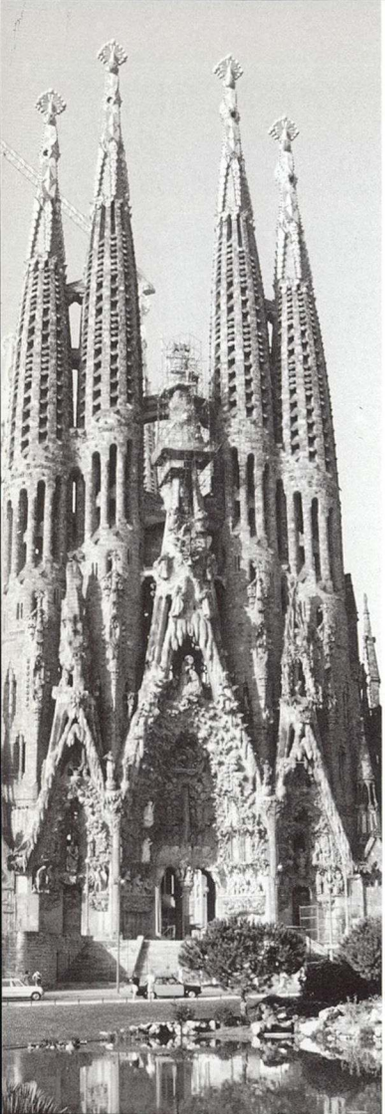
従来から行っている建築主事の諮問に応じて建築物の部材・構造等の安全性を審査する「建築技術安全審査委員会」業務に加え、本年度は、「国際花と緑の博覧会協会」からの要請により、同博覧会出展建築物等評定会議を設置し、その安全性についての評定業務を行う。

(4) 工業標準化法に基づく公示検査事業

本年度も昨年度に引き続き、大阪通商産業局管内の「JIS表示許可工場」について検査業務を行う。

(5) コンクリート工法研修委員会事業

(6) 情報機関誌（「GBRC」）発行事業



建築の眼

川崎 清
京都大学工学部教授

原田明治
大阪府建築部技監

出江寛
出江寛建築事務所

松谷輝雄
鴻池組設計部長

正月号から6月号まで上記の4氏が担当

図と地の逆転

最近、心斎橋筋の南に近いあたりに意欲的な現代建築がどんどん建ち出している。夫々都市の中に「図」になることを考えて際立って目立つデザインになっている。昨年、東京の青山通りを歩いて渋谷のペンギン通りのあたり迄建物を見て回ったことがある。このルートはいちいち名前をあげないが、有名建築が点々として見られるところである。ところが雑誌の写真で見るようには、すっきりとは眼に飛びこんでは来ない。それは隙間もなくぎっしりと建物が建ち並んで居り、有名無名を問わず夫々周りの建物よりは際立とうとしている。街並を「地」と見立てて「図」でありたいと願っているが、夫々競った結果再び「地」に逆転してしまっている。むしろ建物の中へ入って見ると、いい建築家の手になるインテリアは流石だと思わせるデザインが感じられてほっとする。恐らくこのことは、一般の人々にとって尚更そうであろう。ファサードをサインとして都市を俳回するのではなく、いいインテリアを頼りに歩き回っている。東京よりは大阪、大阪よりは京都の方が未だ都市の隙間が多くファサードの持つ役割は大きい。しかしいずれ「図」と「地」の逆転がおこり、街並の建物には誰もふり向いてくれなくなるだろう。

（K.K）

サインデザイン

先日、東京の麻布界隈を歩く機会があった。外国人の主婦が街角で立話をしている光景や、ビジネスマンが忙しそうに歩き、そして若い外国の女性を連れて闊歩する日本の男性をみるにつけ、国際的な街に変貌しつつあることを実感した。2000年を超える頃には、日本人の海外の出国者は今の３倍の1500万人、又、海外からの訪日者はいまの10倍の2000万人に達すると予想されている。

日本の都市にいろいろな目的をもって短期的に滞在する外国人や長期にわたり生活する家族、外国人留学生等が今後急速に増加することは確かなようだ。外国人も生活しやすい魅力的な国際都市づくりが必要だが、現状ではまだまだそうなっていない。その一つにサイン（案内板）の未整備がある。道路、駅、各種の公共建築物や施設をはじめ民間所有のビルにおいても、外国人に分りやすいサインの整備・充実をはかることが急がれる。建築物においては、屋外から建物への誘導サイン、建物の表示や利用案内・業務案内サイン、車両誘導サイン等の整備が挙げられる。又、国際的に通用しているピクトグラム（絵文字）による建物内外の親切な表示も大切である。そして洗練されたデザインで目を楽しませたいものである。

（A.H）

風呂と間合い

例えば冬、ぼたん雪が降りしきる情景を、広い窓越しに眺めながら湯舟につかっている——これが、私が風呂について思い浮かべる一番贅沢なイメージである。硝子一枚外の厳寒の世界と、内側のあたたかさ。この二元対比に、風呂の究極の楽しみや、それを可能とする浴室の設計の理想形がある。

日本人と風呂の絆は強く、人は生まれてまず最初に産湯を使う、そして人が死ぬと湯灌で身を清める。産湯や湯灌に見られるように、日本人は身を湯にひたすことにより、人生の始まりと終りを画してきた。私は夜だけでなく、朝にも風呂に入る。私にとって入浴は、一日の始まりと終りを告げるけじめの行為であり、その意味で大切な意味性をもつのである。昼から夜への変化、言いかえれば、動（働く）から静（寝る）、静から動へ変化する、その間合いとして、風呂が考えられるのである。ところで風呂にも能の世界に通じる〈美学〉が存在するのではないだろうか。世阿弥が、その著「花鏡」の中で「せぬところが面白き」と言っているのは、能で言う間合いのことである。この間合いの充実という点において、一日の暮らしの中に風呂の価値も決まるのではないだろうか。

（K.I）

億ションとMansion、そして兎小屋と兎穴

地上げ屋と称する職業を認知した東京では１日単位でユーズドビルの値段が釣り上るという信じられない世相を呈している。最近安定したといわれるが、山手線の中で新築マンションが１億円以内では購入出来ないと聞く。誰言うとなく呼びはじめた億ションなる言葉も奇異に響かなくなった。いっぽう、東京以上に土の無いニューヨークのマンハッタンでは、日本より甘い法規制のためかビルの間は谷間のごとく昼なお暗い街路となるほど密集しているが、億ションの物件は少なく、東京の半値以下が相場と聞く。アメリカではマンションとは呼ばず、condominiumと呼ぶ。mansionとはプールを併設した大邸宅のことである。東京ではマンションが価格の上でmansionになった。 話かわって昨年秋、日本の住宅事情調査に英国の学者グループが来日した。終戦直後に建った民間の密集木賃住宅を訪ね、２Kに親子孫３代が住む様を見て「日本の住宅は兎小屋だと聞いていたが兎穴もあった」と感想を述べているＴＶニュースを見た。東京の億ションも兎穴も国策として取り組まないと解決は出来ない問題であろう。兎穴の敷地でニューヨークのcondominiumが購入出来る見せかけの経済大国よりも、居住環境の向上を計ることが、日本にとって真の大国として誇るための21世紀への課題ではないだろうか。

（T.M）

有史以来の人の営みを語るとき、
都市という生活の舞台の姿が問題となる。
人が集まり住むという、ひとつの〝技術〟が
どのように継承、発展させられたか……。
そこに、多くの人の都市に対する〝哲学〟が存在する。
古今東西の、都市における人の生きざまを、
できるだけ鮮やかに映しだすような都市のシーンを、
回すステージをしつらえてみたい。



特集

都心居住

都市の情景



このような意図のもとに、とりあえずファースト・ステージとして、都市の中でも〝都心〟という枠組みを設定し、その居住にかかわる都市のさまざまな役割や表情を、多くの人々のコメントを中心に構成してみました。
これからの都市におけるライフスタイルを求めて、〝都心居住〟に寄せる自由な想いをはぐくむ一助になればと思います。　（編集幹事　田中直人）

本号特集編集幹事
佐野潤一／角島健二／田中直人／高田佳子／平岡博／吉村英祐／清水肇／鈴木克彦／小浦久子／河端秀直／北條誠

都心居住とは何か

東　孝光

〈集まって住むこと〉は、人類が太古から追い続けてきた基本的な欲求のひとつであり、またそのことによって、人々はさまざまな風土にそれぞれ固有の文明を築き上げることが可能となった、と言っても過言ではないだろう。

都市とは、その出発点においては、この人類の基本的な欲求に基づく、集まって住むことの具体的な現れであったと定義することができる。やがて太古の集落から、次第に発展してひとつの規模を持つようになり、全体がひとつの意図的な構成を持つに至ってはじめて、われわれはそれを〈都市〉として明確に意識するようになるのである。

すなわち、初期の都市は、たとえば神殿や王宮、城郭などを核として、集住のための特別な住居の形式と、それらをつなぐ街路の意図的な構成とを組み合わせた固有の形態の具現化であった。

都市にはもうひとつの特徴があったかも知れない。たとえば「都市の空気が自由を生む」などと表現されるアルプス以北のヨーロッパ中世末の諸都市は、城壁という眼に見えるはっきりした境界を築き、その内部に逃げ込めば外での封建領主による身分や生活の全的な拘束から解放されるという魅力で、人々を惹きつけたのである。そのことが、やがて近代市民社会の形成への道を開いたとするのはやや楽観に過ぎるとしても——。

近代以前の諸都市は、その後の人口流入が支え切れなくなれば、古い城壁をとりこわしてまた外側に新しい城壁による囲みを拡張し、そして都市内の空間を再整備することを繰り返す歴史を、ほとんど例外なく所有している。〈都市〉は、絶えずその領域を明確に示し続ける努力なしには存続し得なかったのである。

しかし、遂に十八・九世紀の産業革命に至って、一層急激な人口の都市集中が発生し、都市の領域拡大と内部の再整備の限界が極まり、都市を囲い込むという努力が半ば放棄される状態となり、ここに〈都心と郊外〉という現代都市が抱えている悲劇的な構図が出現したのであった。

注意しなければならないのは、早くからこのような構図の解消への提案がなされていたことである。たとえば〈田園都市〉のような理想都市の提案では、職場と住居を再び接近させ、かつ適正な規模と密度で自然と共存し得る集住のかたちが考えられていた。にもかかわらず、現実の都市の急速な肥大化と結果としてますます都心と郊外が引き裂かれていく大きなエントロピーの前で、これらの提案の多くはほとんど無力に近く、せいぜい郊外の衛星都市というような方策に一部が採り入れられた程度で、都心と郊外を再び統合する力を持ち得なかったことを忘れてはならない。

今日的な視点から見返すならば、田園都市の理想像は、その物理的空間的な条件の充足のみに眼をやって、現実の都市が長い時間をかけて蓄積してきた都心の歴史的な意味、私たちの住み続けてきた場所の記憶などへの評価が欠けていた、というべきかも知れない。都心居住の意味を問い直す手がかりのひとつがここにある。

❖

ここで確認しておきたいが、〈都心〉とは、過去の都市の中心部で、永い年月の間に政治や経済、文化活動などの結果が具体的な都市空間として蓄積された部分を言い、〈郊外〉とは、その都心部と生活上密接な関連を持つ人々によって新しく居住されていく周縁部を言うということだろう。

しかし、今日〈都心〉が論じられるときには上述のような歴史的蓄積の集中する旧都市の中心部のみでなく、その周辺を含んで今日でも都市的な諸活動の行われている部分、いわば〈市街地〉全体を漠然と指し示している場合が多いようである。

今日、われわれが都市の空洞化などと呼ぶ現象を論ずるときには、この広義の都心を意味しており、その定義においてはじめて都心と郊外の対比的構造が明らかとなる。

たとえば大阪という都市域において、厳密な定義での都心は大阪城から中之島一帯を含めた行政・経済・文化の中心的建築物の集中する部分であるが、都心居住を論ずる場合には、恐らくＪＲ環状線に囲まれた大阪市の行政範囲の過半を占める範囲を言うことになるだろう。

近年、このような広義の都心部でその居住者が減少し、したがって夜間人口が少なくなり、そのために生活環境としての条件が低下し、そのことがさらに居住者の流出を招いて、結果としての都心部の荒廃と衰退が憂慮されているのである。

このような現象の進行する原因の底流として、行政や計画者のみならず、居住者までを巻き込んで、都市の各部分が、場所別にそれぞれ異なる機能を分担するのが本来のあり方だという、地区別機能分担主義の考え方があまりにも行き渡り過ぎているのではなかろうか。

それも、巨大化してしまった都市のスケールに引きずられて、都心は商業・経済活動や政治文化の中心地、郊外は静かな居住のための場所という考え方が、現代人の間に根強く固定されてしまったようである。

したがって、最近のように日本の経済的な力が強くなり、たとえば東京が世界の金融センターの一翼を担うかも知れぬとなると、たちまち業務地区としての高度の土地利用の必要性が叫ばれたり、都心の古くからの居住者の、一見条件の良さそうに見える郊外への誘導策が真顔で論じられたりする。

しかし冒頭に述べたように、都市の本来的な機能は集まって住むことそれ自体にあり、その集まることから自然に人間と集団の相互の不確定な接触が発生し、それがさまざまな政治や経済や文化活動の展開を生むのであって、最初から住むための場所、人と出会うための場所と区別して仕組まれる構造を持たなかったところにこそ、都市の本質があったのではないか。

むしろ今日の郊外における問題点は、居住環境としての整備のみに偏り過ぎて、都市的な利便施設や文化活動を支える都市空間の不足にあり、そして反対に都心部の問題点は商業の機能のみを追求した結果が、無機的で人間味の少ない都市を生み、商業空間としても活性化が問題となるばかりか、小中学校やその他の生活関連公共施設の統廃合が都心部で問題になりつつあるとも聞かされるのである。

このような状況のなかで、都心における居住の意味を問い直すことは、たいへん有意義なことである。今なお都心に住んでいる人たちが、その場所にどのような愛着とこだわりを持ち続けているか、あるいは決断して都心を離れた人たちが、それに代わる何を都市の外に見出したかなどは、この特集のなかでいろいろな人たちから聞けることとして、私の考えや体験はもうとくには述べない。

ただ、それらに共通して考えて欲しいのは、今日、〈都心か郊外か〉とか、〈都市に住むか、自然の中にか〉などという命題での二者択一的な議論の不毛なことについてである。

私たちは、まず人間としての生存のための清浄な空気や水、静けさ、空間の拡がりなどを必要とし、同時に、集まって住むことによって力を合わせ、他者から刺激を受けて自己を向上させ、共に文明化への一歩一歩を前へ進めたいと、皆が等しく願っている。

問題となるべきは、この二つ、つまり個人や家族共々の安息の場としての住まいと、人間的な接触と活動の場としての都市空間が、いつの間にか反対の方向に大きく引き裂かれていることへの疑問を論ずべきことにある。都市居住の意味を問い直す意義は、それを再び近づけ、統合していくための対応の模索の出発点としてでなければならないのである。

（あずま　たかみつ　建築家・大阪大学教授）

エッセイ

都心に住む

都心の魅力、魔性

ネットワーキングを楽しむ

コンピュータ・グラフィックス　大村皓一

大阪市内の都市居住歴20年。今住んでいる長居は24時間都市である。真夜中でも、お好み焼、ラーメン、喫茶店の食事、飯屋と何でも食べれる。午前4時まで出前もしてもらえる。最も選択の幅が狭くなる朝の5時から7時の間でも、何か食べることはできる。8時頃になると真っ暗になり、行動の選択性がなくなるところは、どんなところでも田舎と同じ。遊びが一体となった公私融合型生活をする者にとって、いつでも食べるところがある、いつでも人に会う場所がある都市が、生活の最適の空間といえる。

生活のスタイルが、住む場所を決める。都心の賃貸マンションに住むことと、郊外の一戸建住宅に住むこととでは、生活の場に対する考え方が全く異なる。

家を買ってしまうと、自分のものとなった家の中を生活空間としてどんどん充足させようとする。食べるところ、寝るところ、音楽を聞くところ、人に会うところ、仕事をするところ、遊ぶところ、すべて家の中にためこみ、身動きできなくなってしまう。閉鎖型の住み方になる。

一方、街に住むことは、いつでもどこへでも移り住めるという気持ちがある。家の中に自分の生活をためこむのではなく、街全体を自分のものとして使う。マンションでは充足しない部分を街に求める。喫茶店、ホテル、劇場、映画館等々を自分なりにネットワークして使う。街を生活空間として使えれば、家の中に何もいらない。

街を自分の家として使うためには、いろいろな場所へのアクセスが速いことが第一条件である。いつでも、すぐにアクセスできること。大阪市内であれば、地下鉄かタクシーがある。街に住むことは、開放型の住み方になる。

都市に住むのは、24時間の飲食店と24時間の移動の自由とさまざまな人がいることだろう。都市での人とのつながり方には二つの面がある。一つは友だちになること、もう一つは新しい出会いがあること。

長居に長く住んでいると、新聞を売るスタンドのおばさん、隣の店のおじさん、街の人みんなと友だちになっている。東京ではホテルに住むことになるが、街と同じように長く使いこむことにより、クロークの人、フロントの人々と友だちになり、「住み心地」が良くなってくる。ホテルは24時間開いているし、使いこむほどに友だちができる、まさに街の中の〝街〟のようだ。

また、都市は新しい出会いの場である。一対一で話しているのはネットワーキングではない。その人のもっている背景、その人につながっている人々と、自分の持っている背景、自分につながっている人々が、その人と自分が出会うことで影響しあうのがネットワーキングである。このようなつながりが生まれるのは都市だけだろう。

街は人との出会いの空間、生活の空間であり、街の使い勝手が、その街に住む魅力につながる。

（おおむら　こういち　大阪学院大学教授）
——インタビュア・小浦久子——

エッセイ

自由自在に都市を使い楽しむために

都市計画　高田　昇

私は大阪市内の天下茶屋にある古い町家で育ち、25歳で帝塚山の6帖ひと間の木賃アパートで独立、その後ワンルームマンション、2DKのマンション、そして3DKマンションへと移り住んだ。仕事場は常に2km以内という関係だ。その体験から今感じていること、それは時間と空間の両面の自由さということにつきる。

1日24時間あっても、自分で自由に使える時間というのはせいぜい4時間ぐらいである。そのうち仮に2時間を通勤に費やしたとしたら、もはや半分の自由を奪われたことになってしまう。仕事とそれを支えるための睡眠、食事の時間だけが大切なものとの考え方からすれば、そのことに疑問を感じずにすむのかもしれないが、もうそんな時代ではないだろう。自由時間の拡大こそ人間らしいライフスタイルにつながるはずだ。

日本の大都市とくに大阪は、そんな思想を全くどこかに忘れたままつっ走ってきたのだ。ヨーロッパ、アメリカのどの都市でも、夕方以後の都市生活が熟年にも高齢者にも豊かに彩られているのは、何よりも都市に住み続けられるようになっているからに違いない。

私が今住み、働いている帝塚山界わいは、かろうじてそれに近い

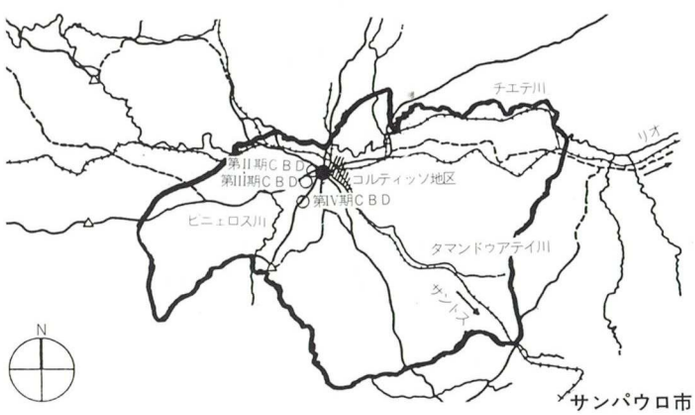
コルティッソに住むロザリーナの20年

都市計画　CATERINA NAGAMINE

ロザリーナは毎朝ビルの清掃にでかける。それは26階建てのガラス張りのビルであり、サンパウロの第Ⅲ期中心業務地区に位置する（ちなみにサンパウロでは現在、第Ⅳ期の中心業務地区が成立されつつある）彼女の住まいはサンパウロの歴史的都心と同期に、イタリア人労働者を対象に形成されたコルティッソの中にある。コルティッソはその歴史的都心に隣接しており、新聞やラジオ、あるいは登記簿等には載らないような業界に関する情報と人脈の拠点である。

このコルティッソは、イタリアン・ネオクラシックスタイルの細長い集合住宅であり、おおよそ2000人ぐらいが住んでいると推測されている。元来の一戸建住宅も、今はさらに分割され、一世帯が一部屋に住むようになっている。住民は今や、イタリア人移民に代わって、東北地方からの元小作人を中心に職を求めて流れ込む人々である。ロザリーナもその一人である。彼女の日常生活は、同棲中のマリアーノと五人の子供（三人は実の子で、残り二人はゴッドチゥドレンである）と一緒に、21m²の一間で展開される。

マリアーノは現在、近辺にあるビルの建てかえ工事が行われている現場で働いている。支払いは日当であり、正式に職員として登録されていないため、いつ職を失うか分からない。この工事現場に働いている労働者のほとんどがこのような状況におかれている。この人達の大半は東北地方から出てきて２～３年になるものが多く、大都会での暮らしに、まだ多くの希望を抱いている。



サンパウロ市



イタリアン・ネオクラシックスタイルの町並み

ロザリーナの場合は、このコルティッソに住むようになって20年になる。今では名の知れたリーダーの一人である。自分の持っている情報と人脈を頼って、マリアーノのような人が、職を捜しに彼女を尋ねてくる。若い女性には家政婦の世話をしたりする。そのためには、自分が勤務するビルの中のいくつもの会社の中に顔見知りをつくったり、あるいは、都心ならではのインフォーマルセクターに関する情報を常に把握している。彼女がそれまでもの経験で、インフォーマルセクターでの仕事は一切保証されていないということをよく知っているからである。

コルティッソの中での生活は楽ではない。住民の出入りが激しいため、住む環境に対する認識は薄い。やむを得ずシャワーや洗濯場は共同であるが、蛇口や電線は知らぬ間に盗まれており、毎日皆、水を浴びる。こぎれいに整理されているロザリーナの住まいから一歩外に出れば、そこはゴミ捨て場代わりに使われている、湿めきった廊下である。

家賃の価格からすれば、郊外で一軒家が借りられるが、あえてロザリーナはコルティッソを出ようとしない。いずれは、市の行政がスラムクリアンランスを実施することになるが、ロザリーナはまた、他の中心業務地区付近に、他の大勢の移住民同様に、新しく、コルティッソを形成するであろう。都心に住むむことは、彼らにとって、生存の必然的条件であるからである。―原文は日本語―

――このエッセイは、私がブラジル国サンパウロ州サンパウロ市におけるスラム問題に関して調査したものにもとづきます。日本では現在、都心に住むことは一つの社会的動向として見られますが、サンパウロでは、日本では現時点では考えられない生活様式があります。

（カテリナ・ナガミネ　地域計画・建築研究所海外技術者研修生、ブラジル）

エッセイ

生活ができる一画を形成しつつある。おいしい食事のできる店、良い音楽を聞かせるところ、気に入った商品が見つけやすい店、夜おそくなっても友人と溜れるサロン、特に用がなくてもぶらっと歩ける道、立ち止まれる街角、そんな道具立てがそろっていないと都市に住む意味がない。

もう一つの空間の自由さというのは、全方向性ということだ。阪急沿線に住んでしまうと、その沿線ぞいに移動するか、それともいったん梅田に出るか、という行動しかとれなくなる。だからたいていの人は近鉄沿線とか南海沿線とかはもうよその国になってしまう。

都市に生きる限り、その都市がもつものをフルに自分に生かせるような住み方をしたいものだ。しかし現実は、地価、環境、生活サービスなどあらゆるところで不自由さが大きくなっている。今切りかえのタイミングを失ったら、もうチャンスはいつ把えられるかわからない。

（たかだ　すすむ　ＣＯＭ計画研究所代表）



市場たる都心

留学生　安　在洛

この頃も、韓国の田舎に行くと、五日場（五日ごとに立つ市場）と出会うことができる。歳月とともにいちに集まる人びとも変わったけれど、まだ昔ながらの風景が残っている。賑しい物売りの声、サーカス仮天幕の前の客呼び声、屋台で久しぶりに会った人びとの楽しい声……。さまざまな声が飛び交う五日場は、農（漁、山）村民の生産・生活材を交換する場ばかりでなく、平凡な日常生活場を逃れ、好奇心を満足させる盛り場であった。人びとが生活のために、また好奇心や遊びを求めて遠くから寄り集まってきた、あの盛り場では、だれもが主人公なのである。

都心、そこは五日場のような盛り場である。都心居住は、スーパーマーケットや百貨店での買い物と違って、みずから主・客になりうる五日場での行為のようなことなのである。

給与生活、物質生活の向上、都市病理、地価昂騰は、都市民の居住地を郊外へ郊外へと追い出し、職都心住郊外の居住意識を固着させた。郊外居住の定着には、交通網をはじめ都市下部構造の整備の影響が大きいものの、もっと根源を探って見ると、情報手段の発達により人びとの好奇心の減、合理性、利便性に根置いたプランナーや研究者による住居空間の均質化、それに伴う都心、郊外、地方の区分を落とした居住地計画に原因があるのではないか。結果、市場はスーパーマーケットに、銭湯はユニット風呂に、近所間の留守番はオートロックに替わり、住宅地は自然発生的な町から開発業者の手による〝造られた町〟に、居住者は主体からはずれ、単に利用者、お客と転落してしまったのである。すなわち、人びとはみずから願った生活の場から自分が疎外される結果を生んだのである。

都心に戻ることは、居住の場にかかわるところから本来の居住へ意識が戻ってきたのではないか。日曜日の歩行者天国の実現、そこで自然発生的に起こるさまざまなパーフォーマンスやお祭りは、人間生活において緊張と興奮を迫る機会を求めている都心居住者の、小さな身悶えのように見える。さまざまな人間、多様な空間とイベントがあり、参与も観戦も傍観もできる、すなわち、だれの干渉も排除した精神的自由が満喫できるところに都心の魅力がある。

計画という大義名分により、自然発生的に繁栄してきた盛り場を取り締まることなく、利便性を求めて自発的コミュニティー場を落とすことのない、五日場のような居住空間は造られるのだろうか。

—原文は日本語—　（アン・ジェラク　京都大学大学院博士課程、韓国）



田舎の五日場の情景－金海－



都市の、ある車なし日の情景—ソウル東崇洞—

エッセイ

たくあんのはなし

都住創のスパイヤー居住・建築　芝　靜代

大阪の東区谷町界隈は大阪にはめずらしく坂道が多く、私の家の前の道も急な坂である。東京育ちの私にとって、坂道のある風景はなつかしい。このあたりは、大昔から人が沢山集まって暮らしていた所、つまり都心なわけで、古い習わしや建物が残っているのも私にとって居心地がよい。

目の前の釣鐘が、朝８時、昼正午、夕刻日の入り時にゴ〜ンゴ〜ンと打たれるのも、本当に風情があって気にいっている。

そして、ここではたくあんをつけることができる！というのは、昔の漬物蔵のようなものを台所の外に設計した。コンクリート壁で囲った物入れのついた北側の小さなベランダのことだが…。

さて、12月中旬、ほどよく干した大根を30本ほど仕入れ、木の一斗樽、ぬか、塩、調味料を用意した。問題は重石だった。大きな漬物石はどうしようか？いろいろ考えた末、毎日曜日に子供と散歩にゆく大坂城から、しばらく借りてくることにした。合計20kg以上はある石を２、３コ拾って、自転車のカゴにいれ、前後に子供を乗せて、ヨタヨタ坂をのぼりくだりして、やっと帰ってきた。

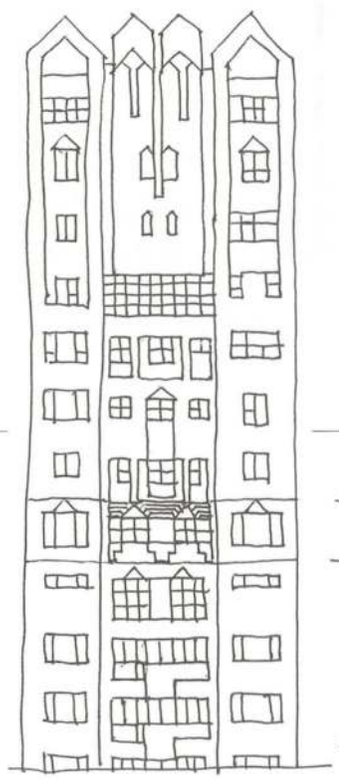
子供も寝静まった夜中に作業を始める。ぬかと大根を交互に樽に

〈都市一世〉は都市に自己実現の場を求めた

大阪市役所　岡　田　信　幸

ボクは20数年来の都市生活者ではあるが、都心居住者ではありません。が、「都心居住」と言えば、ボクの親友の一家が、難波から車で5分ぐらい（徒歩で20分ほど）のところに住んでいるので、よく最終電車に乗り遅れて泊めてもらう。——彼の家は、今ではめずらしくなりつつある木造中2階・間口1.5間の8軒長屋が6棟残っている一角の内の、2戸に夫婦と子供3人に母親の3世代で住んでいる。——よく泊めてもらうのはボクだけでなく、いろいろな友人たちが（全国から）集まってくる。それは、都心の便利のよいところに住んでいるということもあるが、彼の家族の、大阪の下町の人情まる出しの気さくさによると思われるが、とりわけ母親の存在が大きい。その「お母はん」は、70歳を超えているがまだ魚屋さんで働いており、休みの日にもとび廻っている行動派である。

彼女は、昭和初期に小学校を卒業してすぐ田舎から大阪に出て、女中奉公をして田舎へ仕送りなどをしていたが、今はもう亡い（魚屋で丁稚奉公をしていた）親父さんと見合いをして世帯を持ち、2人で魚屋で働いて、戦後すぐ今の家に借家で入ってのち払い下げてもらってずうっと住んでいる。この「父母たち」の大阪（都会）に出てくる過程、青春の大阪での都市生活のパターンが、明治以降の近代都市大阪を支えてきた都市一世たちの、都市への出自と都市生活のパターンの原形であったと思われる。また、戦前の大阪の市街地は日本一の高密度都市社会であり、116km（昭19）の延長をもつ市電の発達により、都市生活＝「都心居住」であった。



私の家　真ん中がベランダ

共同住宅北側スケッチ



大阪・梅田界隈にもこんな家並みが残っているが…（編集部撮影）

戦後、'60年代からの重厚長大型の工業化を主軸とする高度経済成長は、日本列島全体の、とくに三大都市圏を中心に急速な都市化をうながし、都市に産業と人口を集中させることとなった。当時、田舎から都会にあこがれて、また、しかたなく都市生活者になった青少年が「地方から都会へ誘い出されるとは、18世紀以来の『都市は人間を自由にする』という近代に対する幻想が、明治以後の日本の近代化においても普遍的に存在するということであり、また、明治以後の近代化が農村の余剰人口を都市の工業社会へと吸収したということである。」（松本健一）

「都心居住の魅力」というか「都市に住む」という意識の原点は、〈都市一世〉においては、都市に流入してきたときの心情なり状況が、「都心居住」の原点を目指していたのではないか？と思う。

都会へのあこがれには、近代文明（＝都市社会）へのあこがれと、別の新しい世界へ解放されたいという（＝自由への）あこがれがあるが、それは、都市を自己実現・自己表出の場として生きていこうとして流入してくるのである。10年ほど前に『祭の準備』という映画があったが、その「祭」は、都心の魅力そのものであり、都心は「祭」の常打ちの場である。その都心に居住したいという〝夢〟は、現実の都市生活において、少なからず裏切られてしまうのだが…。

明治から戦前までの近代都市形成期の〈都市一世〉の子供は、現在、都市生活の〈二世〉であり〈三世〉である。彼らは子供のときから幼児体験で、都市生活が身についている。一方、戦後の高度成長期に都市へ流入してきた都市生活〈新一世〉たちの都市への想いは、違う感覚であろうと思われるが…。

（おかだ　のぶゆき　大阪市都市整備局建設部設計課）

エッセイ

つめていって、最後に大根の葉を敷きつめ、木蓋をして重石をのせる。あとは水があがってから、重石を少しずつ軽くしていって、じっと待つこと1カ月。

1月半ばにたくあんが漬かった！隣近所に配りまわり「うまい！」と一人悦にいっている。今年の冬は、ガラスブロックとメタリックタイルの外装に大根を50本干してみたいなあ——と思っている。

用済みの大坂城の石は、全部きれいに洗って、2月末、キチンと元の場所に返した。

今、春の盛り。近くの公園のくちなしの植込みの下に生えているハルノノゲシの新芽をつんで、ゴマアエ、油いためをした。大阪城公園のつつじの植込みに生えているカラスのエンドウをとって、汁の身にしたり、ハルジョオンの若芽をとってお浸しにしたり、どれもみんな春の香りがして旨かった。

こうして、大阪のド真ん中で、私と子供にとっての都心の暮らしを心から楽しんでる。

（しば　しずよ　静水舎一級建築士事務所主宰）

変貌する過密都市・香港

新日鐵・香港駐在員　牛　尾　好　孝

香港を訪れた人が驚かされることは、帆柱のように林立する高層アパート群ではないでしょうか。これはまさに人口過密都市香港の象徴であり、また香港人の偉大なエネルギーをも感じさせてくれます。香港は香港島を含めた大小236の島と九龍半島からなり、面積は東京都の約半分、人口は約550万人、人口密度約5100人／㎢で、世界で最も高く、とりわけ九龍の深水埗は16万人／㎢以上とギネスブックに計上されています。

当然、このような過密都市ですから、庭つきの家というものは非常に少なく、お金持ちも含め、ほとんどの人は中高層のアパートに住んでいます。他の生活費と比較して、住宅費は異常に高く、東京並みで、一軒のアパートを複数の家族が使用していることも珍しくないと聞きます。住宅事情がこのような状況であるため、住居はただの寝る場所という感じがします。繁華街、レストラン、娯楽施設は平日でも夜遅くまで普段着姿の人であふれかえり、われわれは香港という都市のパワーに圧倒されてしまいます。

この過密都市が、1997年の中国への返還を控え、大きな変貌を遂げようとしています。質の良い超高層アパートの大量供給によるニュータウン、新界地区における新工業地帯、そして香港島のオフィスビル街の形成、それに伴う鉄道網、道路網の整備。これらすべて、人口過密を前提として、狭い土地をいかに有効利用するかという観点から計画され、実行に移されています。アパートは20～30階が一般的、工場は数階建て、道路には2階建てバスが走り、オフィス街の超高層ビル群はニューヨークのマンハッタンを連想させます。

このような都市づくりが着々と進む中、欧米の金融機関がアジアの統括本部を東京から香港へ移す現象がおき始めているそうです。これは香港が、東京と比較して経費が安くあがるというだけでなく、この都市づくりにより、都市の利便性（たとえば、空港が近い、職住接近、便利な交通機関etc.）を高めつつあることもその理由の一つと思われます。

新聞によれば、香港政庁は「われわれは年間1億香港ドル（16億円）を使ってコンサルタントを雇い、10年以上の視野に立って、都市づくりのデザインを描いている。アジアの中心としての魅力を維持するために……」と言っています。潜在力を秘める中国という大国をバックに、香港は今後ますます成長するでしょう。そして、アジアの経済の中心が東京になるのか、香港か、注目していきたいと思います。

（うしお　よしたか　新日本製鐵株式会社中国銀行香港支店ビル工事掛長）



香港島セントラル(中環)地区オフィス街(ビクトリアピークより)



香港島の高層アパート群（North Point〈北角〉）

エッセイ

A MATTER OF CHOICE

エッセイスト　ELIZABETH OLIVER

私は、能勢に住んでいます。周囲を山でかこまれた農村です。しかし、大阪、神戸、京都の都心に、車で約1時間で行けます。リビングルームからは、妙見山と、その裾野に点在する農家が見えます。鳥の声と、雨の後の川のせせらぎの音が大きく聞こえる静かな所です。仕事からの帰り道、峠を越えると空気の味が違います。夜空には、星が降るように輝いています。都心では、とても味わえないものです。

最近、十数年住んだ集落から1キロほど離れた所に一軒家を建てて移り住みました。水道も電気もなかった南向きの斜面です。完成するのには、まだ1年間ほどかかるでしょう。前の家は、土地が130坪ほどの古い農家を買ったものでした。しかし、犬が常時いるものだけで5匹、猫数匹、ポニー、山羊、鶏、家鴨と、動物が増えると手狭になりました。犬が走り廻るためのスペース、近所への迷惑などを考えて、ここに移り住んだのです。動物が幸せに生活するのを見るのが私の最大の楽しみの一つですが、これも都心で得るのは難しいでしょう。

山の中の一軒家で淋しいだろうという人がいます。とんでもあり

天津の住宅環境

神戸市役所・前天津駐在員　楠本利夫

今の中国で、「家」といえば、通常はアパートの部屋をさす。極端な住宅不足の中国では、「土地付き一戸建て住宅」は、望むべくもない。30歳前後の新婚者用アパートは、15㎡程度の１Ｋが中心。中国語で部屋のことを「房間（ファンジェン）」といい、この房間を手に入れることは、日本では想像できないほど、むずかしい。中国では、役所や会社など、勤務先のことを「単位（ダンウェイ）」と呼び、この単位が「ゆりかごから墓場まで」生活の面倒を見ることになっているが、結婚にも、単位の上司の許可が必要、房間ももちろん単位が建設し、供給することとなる。

天津のような大都市では、房間が絶対的に不足しているので、房間を入手するためには、「走後門」（ウラロ、コネ）が必要。房間配分の権限をもつ人は、通常、単位の秘書長（庶務部長）クラスの人だが、何事にも、ふだんのツケ届け、人間関係がモノを言う中国では、房間入手にあたっては、貴重な外国製品がモノを言う。最近の相場では贈答品は、日本製のラジカセではまだ十分ではなく、日本製カラーテレビだという。平均月収100元（3500円）程度の中国では、月収の10倍以上もするカラーテレビは大変な貴重品だが、住宅を入手するためには背に腹はかえられないので、コッソリ、上司の家に届けるという。

単位が建設するアパートでも、そのすべての房間を、その単位の従業員に分配できるわけではない。というのは、水道会社、ガス会社、電気会社、はては郵便局までが、当該単位に対し房間の割り当てを要求することが多いからである。この要求を拒否すれば、水道、ガス、電気の供給はいつになるかもわからないし、郵便が配達されるという保証もないので、単位の責任者は、どうしても妥協せざるをえない。なにしろ、中国では「仕事は権限」なのであり、これらの水道、電気などのサービス会社も、自己の権限を主張しているのである。もちろん、権限は権益につながるわけである。

天津の街を歩いていると、「換房大会」というタレ幕を見かけることがある。房間の流通市場ともいえよう。やっと住宅を手に入れることができても、その房間が勤め先から遠すぎる場合など、少しでも通勤に便利な場所にある房間と交換する相手をさがすわけである。新聞紙大の紙に、自分の房間と希望する房間を墨で書き、紙の四すみに石を置いて、一日中、道路に腰かけて、交換相手があらわれるのを、じっと待つわけである。100人以上の人が道路に紙をひろげて座りこみ、それを自転車を押しながらひやかす人波をみるのも、娯楽が少ない天津駐在員の数少ない楽しみのひとつ。

（くすもと　としお　神戸市港湾局経営開発部情報対策課長・前神戸・天津経済貿易連絡事務所長）

都市のスポット

人工的に造られた滝にも自然の緑がやさしい陰を落とします。
二人だけの甘いささやきに酔うカップルや
無邪気に遊ぶ子供達が印象的でした。
ポートランド（アメリカ）▶



街のいたるところでくりひろげられるリズムとアートのパフォーマンス。
辛党の僕が朝夕２回も行ったドーナツとカフェオーレのお店は、都心のスイートスポット。
緑多き川辺の古い街々にはジャズが似合います。
ニューオーリンズ(アメリカ)
写真、文 NAOTO.TANAKA



エッセイ

ません。都心やニュータウンに住む友達などが、週末はもちろん、しょっちゅう遊びに来ます。都心やニュータウンの生活では満たされないものを求めてくるのです。それは、美しい空気や、緑の中で動物といっしょに暮らす生活だけではありません。

日本のニュータウンには、イギリスのサバーブ（郊外の住宅地）のような歴史がありません。イギリスのサバーブには、そこに住む人たちが長い年月をかけて作り上げた個性があります。日本のニュータウンは、どこへ行っても同じようなコンクリートの街で、人びとは、数部屋の壁の中に閉じこめられています。設計には、学校やショッピング・センターなどには十分な配慮がされても、そこに住む人たちの文化的、社会的交わりへの配慮が足りないのではないでしょうか。

都心についても同じことがいえます。たしかに、そこには、すばらしい博物館や美術館、デパートや良いレストランがあります。しかし、古い町並みが取り壊されて新しい高層ビルが建つたびに、古い町がもっていた独特の生活の匂いも、拭い去られていくように思われます。そこに住む人たちが自分たちの町を作り上げていくイメージは浮かんできません。住民の町づくりはどのように考えられているのでしょうか。

—原文は日本語—

（エリザベス・オリバー　エッセイスト、イギリス）



下町長屋コーポ

ろじこおと居住・建築　谷　口　康　彦

昭和58年頃から戦前長屋の建て替え更新を進めるキャンペーンを住宅・都市整備公団が始めて４年、グループのよびかけが始められて３年、阿倍野から歩いて約10分、商住混合地で長屋の残る大阪の下町の一角（旧林野庁宿舎跡地）に、昨年10月、グループ分譲住宅〝ろじこおと〟が完成。15世帯、総勢55人が生活を始めています。

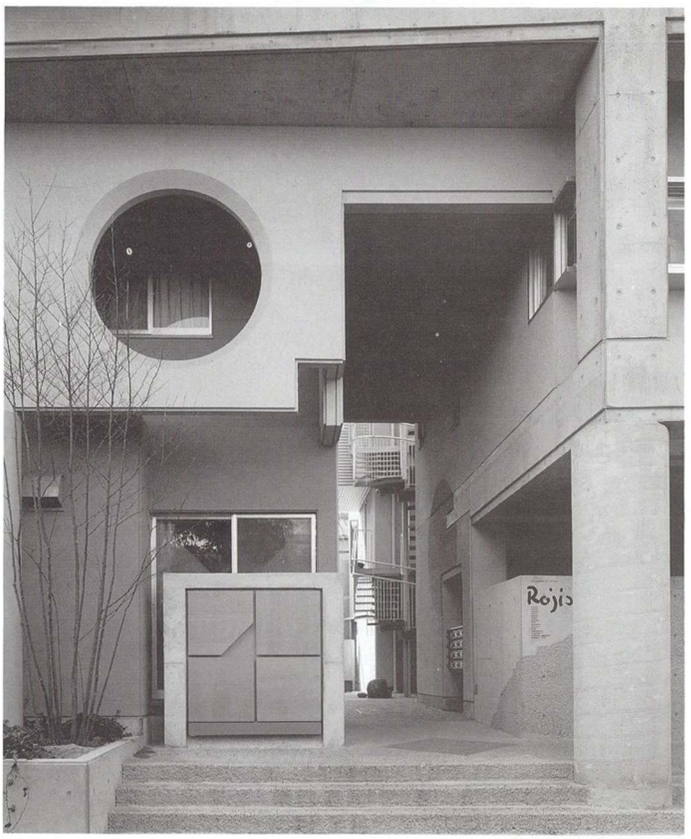
地区の周辺は、非戦災地区でもあり、戦前長屋に代表されるように、地域の建物は老朽化が進んでいると同時に、薬局の店頭には、赤ん坊の紙おむつより、大人の紙おむつのほうが目立つほど老人の多いところでもあります。しかし、市場の賑わい、店頭で手焼き煎餅を焼く爺さん、手入れの行き届いた路地等、街らしさを十分感じさせる要素はたくさんあります。



〝ろじこおと〟では、勤務の都合で市内と市外で二重の生活をしていた世帯の転入に代表される都心利便派とともに、２～30年前はもっと活気がみなぎっていたであろう当地域の長屋で育った団塊の世代の転入が数多くあります。結婚と同時に、さらに周辺部に移り住んだ都市居住第二世代が、第三世代を引き連れて、再び戻ってきた住まいでもあり、ここでは、年老いた長屋地区に現代長屋を埋め込み、年老いた人口に第三世代の参加により、少し賑わいを生みだしつつあるとも言えます。

しかし、ここ数年の地価の上昇は大きく、一般では手の届かないと思われるほどマンション価格が上昇しているなかで、街に住み続ける年寄りと、そこに生まれ育った都市居住第二世代の自らの手による〝街おこし〟により、第二、第三の〝ろじこおと〟が生まれ、街が若返っていくことを期待したいと思います。

（たにぐち　やすひこ　住宅・都市整備公団・株式会社関西都市整備センター出向）



撮影：名執一雄

エッセイ

日本的なものを一心に、まちに……

留学生　PRASHANT　PARDESHI

私は大阪外国語大学の１回生で、いま吹田の津雲台にある留学生会館に居住しています。４階の部屋に住んでいますが、全部で50人（うち女性は３人）の集団生活です。それ以前は東京の下町、木場で生活したことがあります。日本の都会は、交通の便はよいのですが、物価が高く、とくに私たち留学生には生活しにくい所のようです。

私はよく旅行をします。日本各地を旅行しましたが、人情として、東京の人は冷たい感じがします。むしろ田舎の人の方がやさしい気がします。インドでは、長い汽車旅行中、いっしょの席になった人とは、たいていうちとけて心から話をすることができます。

インドでは、法律によって、大都会から田舎へ、Ａ、Ｂ、Ｃのゾーン分けがなされており、この順に土地、賃金が安くなっています。企業の立地状況も最近では、ＡゾーンからＣゾーン方向へ動くことが多いようです。

大人口をかかえるインドにとって、宗教制度とあわせて、家族制度の問題も大きな課題です。日本の核家族（小家族）とは比較にならない大家族制の中での生活のあり方が特徴的です。また日常使用



Rojis-t

事業主体　住宅・都市整備公団（グループ分譲住宅制度）
構造規模　ＲＣ造５階建、15戸
住宅面積　60.16㎡／戸～114.88㎡／戸

敷地面積　647.05㎡
建築面積　452.63㎡（建蔽率69.95％）
延床面積　1,414.28㎡（容積率218.57％）

家族構成

夫婦	1
夫婦と子供（１）	5
（２）	4
（３）	2
親と夫婦と子供	2
親と子	1

世帯主年齢

２５～２９	2
３０～３４	3
３５～３９	5
４０～４４	4
４５～５０	1

年齢構成

０～３	8
４～５	6
６～１１	5
１２～１４	1
１５～１７	2
１８～２１	1
２５～２９	4
３０～３４	7
３５～３９	11
４０～４４	6
４５～５０	1
６０～８０	3

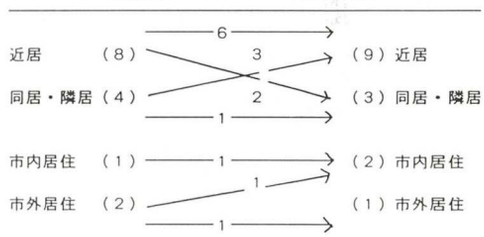
通勤時間

～１５分	6
～３０	6
～４５	4
～６０	2
６０～	3

前住宅　（　）は長屋経験者

長屋・借家	2
〃　・持家	3
公的借家	3 (2)
民間借家	5 (4)
マンション	2 (2)

親子の住宅関係



近居は自転車で往来できるまでの距離

入居者のプロフィール

エッセイ

している言葉も14ぐらいあります。まちの中に牛がゆうゆうと寝そべっていたり、日本人のように酒を飲む習慣がないことも、初めてインドを訪れた人にとっては、印象的なことかもしれません。

このようにいろいろな点で、日本の都市とは様相が違うインド国内の都市も、ボンベイはイギリスの、ゴアはポルトガルの影響を強く残し、歴史的背景を物語っています。私のふるさとは、ボンベイから離れたプーナという大変静かな町で、ちょうど日本でいえば京都のイメージに近いようです。仏教に興味がありますので、緑多く、お寺の多い京都が好きです。大阪はそういった点であまり好きではありません。

都心に住むという体験からすれば、私の場合、比較的都心より離れた静かな環境にいましたので、いわゆる都心の盛り場で遊ぶことにはあまり魅力を感じませんし、実際、今の生活の中では、大阪の都心である梅田などには出ていくことは少ないです。日本で生活してみて、日本では、交通の便のよいこと、行儀のよいこと、環境の美しいこと、よく働く人が多いことなどを痛感しましたが、どちらかと言えばアメリカの方を向きすぎた生活感覚に、マヒしている感じがします。もっとアジアの他の国々に対する理解に努めるとともに、もっと日本的なものを大切に、宗教や習慣、しつけを見直すべきだと思います。インドはかつてはイギリスに支配されていたけれど、今、自分たちのインドを大切にしています。住みやすく、魅力ある自分たちの生活環境の創造の中に、もっと〝日本的なもの〟を大切に、そして実現していくことが必要だと思います。

（プラシャント・パルデーシ　大阪外国語大学学生、インド）　―インタビュア・田中直人―

Heart Wareを都市居住計画に生かしたい

総領事・建築家　徐　礼信

シンガポールの発展の裏には、住宅政策の成功がたいへん大きな役割を果たしているということを見逃せません。シンガポールは、1959年に自治国となり、1963年にはマレーシアの一部として、1965年にはシンガポール共和国として完全独立を果たしました。その時代は失業率も高く、他の大都会にも見られるように汚く、居住環境も良いとは言えませんでした。1959年以来指導者であるリー首相は、国の発展のためにはまず生活の安定、そのためには経済の安定が不可欠だと考え、独立後、政府はまず家の供給に努めました。

その結果、シンガポールでは現在86%が政府のＨＤＢ（ハウジング・ディベロップメント・ボード）が建てた住宅に住んでいます。『衣食足りて礼節を知る』という諺がありますが、まず住むところが確保できなければ安定した生活が望めません。生活がある程度安定してくると、さらによりよい生活を求め、向上心・働く意欲が沸いてきます。また、まちの治安も良くなります。強い行政指導力のもとに実現した良好な住環境こそが、今日のシンガポール経済の基盤となっています。シンガポールは、国土が狭い(622.6sqkm：淡路島とほぼ同じ）のですが、土地徴収法などにより地価の高騰もありません。また、厚生年金の住宅への優先融資等住宅購入を奨励する制度もあります。

土地の高度利用は余儀ないことで、住宅は高層がほとんどですが、シンガポールは暑い国ですので、緑化を大変重視することによってコンクリートのかたいイメージのまちになることを防いでいます。また、住宅供給がその時代時代に応じた形でなされることについても適応してきています。造ることが急がれた60年代の住宅は現在ではそろそろ建て替えも始まっていますし、高齢化社会に向けての計画も忘れてはならない問題です。最近では、都市のアメニティといったことに力が注がれ、ビジネスエリアは夜も活気があるように工夫されています。住居エリアではコミュニティセンターで趣味を通じての住民間のコミュニケーションの場をつくったり、文化面の充実を図っています。

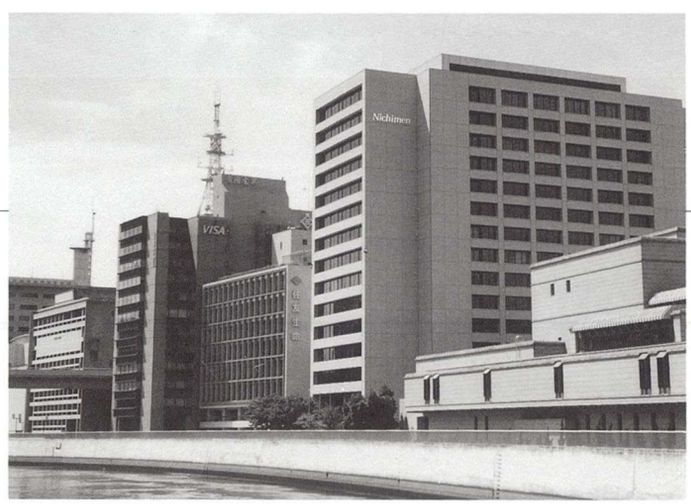
しかし、都市居住を考えるとき最も重要なことは、スペースが広いとか狭いとかいう問題にとどまらず、「生活の中の余裕」を生み出していけるライフスタイルのデザインをも考えた計画をすることです。知識の部分をSoft ware、技術またはそれを使って出来たものをHard wareと呼びます。しかしこの二つだけでは都市居住の計画は完璧だとは言えません。私は、さらに〝心のウエアー〟つまりHeart ware（ハートウエアー）ということが研究され、計画の中にいかされていくことが必要だと思います。人の心が充実するようでなければ、すばらしい居住環境とは言えません。

今の日本の技術の発展を考えると、ホームトロニック（徐氏の創作語で、住宅内のエレクトロニック・メカトロニック化）が世界で一番最初に実用化される国は日本だと思います。日本ではまた建築の職人達が技術面・精神面の両面において世界でも類を見ないほどに優れたものを持っています。この点から見て、今後、日本の住宅は日本の工業製品と同様、ますます機能性にすぐれ、かつ仕上げの美しいものになってゆくでしょう。住みやすいスペースや高品質の物から利便性、快適性が得られ、その余裕の中からハートウェアーを生み出し、そして実際のデザインにそのハートウェアーをどんどん反映させていくということが都市居住ということを考える上で非常に重要なことなのではないでしょうか。

（スイ・レイシン　シンガポール共和国大阪駐在総領事・シンガポール共和国）

―インタビュア・高田佳子―





エッセイ

都市と図書館と私

留学生　劉　京華

中国は、現代化が日本よりずっと立ち遅れているので、交通、通信などいろんな面から見ても、都市と地方の差が大きい。だから大学の卒業生が国家の配属に直面したとき、皆が「天南海北」といった大都市に配置されることを熱望する。ここに言う「天南海北」は、本来の「世界中」というような意味から離れて、「天津、南京、上海、北京」とのことを指している。こういう心情はひとつ情報のことを取り上げても、都市と地方の情報の時間的、量的な差を考えれば納得できないこともなかろう。

私たちが、もっともよく利用する情報源の一つは書物であろう。書店、図書館などは私たちのこういう要求をある程度満足させてく

やっぱり人間が好きだ

建築　井　口　勝　文

「住む」ということは、その町なり村なりのコミュニティの一員に加わるということであるからして、当然そこの自治会なり町内会の一員としてのお付き合いをしなければならない。これが「住む」ということの前提である。都心であろうが、郊外であろうが、このようなコミュニティの一員としての自覚と実践がなかったら「住んでいる」ということにはならない。異論が在ることは承知のうえで、今はまず、こう言い切ってしまう。

このようなコミュニティとのかかわりを抜きにしては、都心に住むことの魅力、魔力が在るとは私には考えられないからである。

職場に近いとか、美味しいもの、楽しいものが手近にあって便利であるというようなことも、確かに都心に住むことの魅力であるには違いないが、独り身の遊び人であればいざ知らず、妻も在り、物心ついた子供もいるような家庭人の日常生活にとっては、そんなことよりも隣近所の付き合いの方がよほど重要な関心事でもあり、また面白い。



天神祭りにはかなわないけども、郊外の町でも求める楽しさは一緒だ。

「おはようございます」、「こんにちは」に始まって、冠婚葬祭のお付き合い、防犯協議会や公民館、ＰＴＡに青年会、婦人会、老人会のお付き合い、お祭りの仕度、所によっては運動会、町内清掃、署名運動、選挙運動。そんなこんなのしがらみで出来上がった人間関係の面白さ、わずらわしさが織りなす人間模様があってこそ、「住んでいる」という実感が在る。

その実感にさて、都心と郊外でどのような差があるのか。

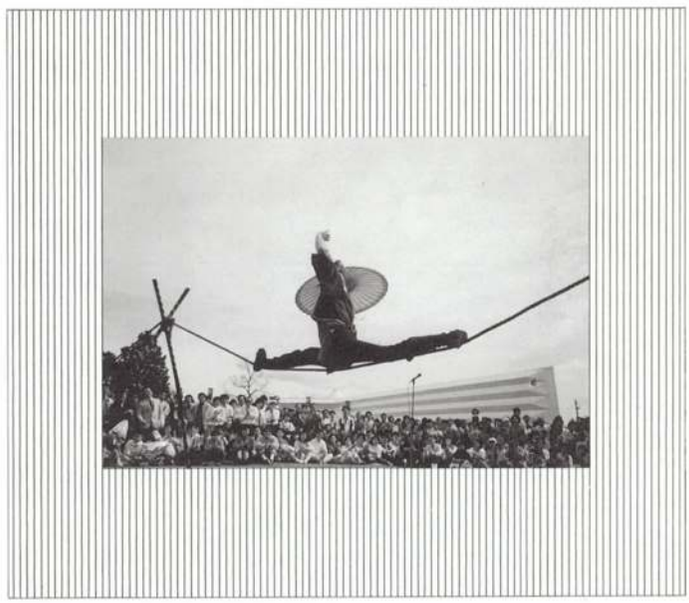
一般には、新しい町（すなわち郊外）であればあるだけ人間関係のしがらみは弱く、古い町（すなわち都心）であればあるだけしがらみは強いということになっている。事実その通り、古い町のいかにも強そうな人間関係のしがらみは、傍から見ても魅力的、魔力的と言うに十分だ。

生活が商売に、商売が生活に、いつの間にか何もかも一緒になってそこら中が運命共同体になってしまっている。一度でいいから、こんな関係で天神祭りの船渡御に乗って祭りの気分に酔いしれてみたいと思う。

人間関係のしがらみの強さは、人口密度に比例する。そしてまた、町の歴史の長さに比例する。

町の歴史と、濃密な人間関係を楽しむ心が在ってこそ始めて、都心の生活が生気を帯びてくる。都心居住はファッションではないのだ。「やっぱり人間が好きだ」という、今や数少ない生粋の町の人間にだけ、都心居住の魔性の楽しみはもたらされるのであろう。

（いのくち　よしふみ　株式会社竹中工務店開発計画本部次長）



エッセイ

れる。私個人にとっては、都市に住んでもっともありがたいものは、りっぱな図書館の存在である。私は北京で生まれ、上海で大学生活を送り、そして日本にくるまで、南京のある大学で教員をしてきた。職業柄の関係もあって、図書館は私にとって不可欠のものであり、生活の一部分でもある。もっとも、中学、高中の学生生活をあの文化大革命の真っ最中に送ってきたものだから、学校では勉強らしいものはなに一つしなかったが、図書館ばかりに通って、大学に入っていったようなもので、それ以来、図書館とは切り離せない関係になったわけである。図書館は日常生活とは隔離されたような存在であり、りっぱな建物、広い空間、無数の書物など、私には魅力が感じられ、すきなとき、いつでもその足で図書館へ行くことができるのは一番嬉しいことだと思う。北京図書館、上海図書館、南京図書館など、大きな図書館はみな大都市にあるので、私はこれからも都市とは縁を切らないだろう。

日本にきてから、大阪以外に京都に住んでいた。京都大学の図書館にはずいぶんお世話になっている。数多くの蔵書、すばらしい設備とユニークな建物には感心した。中之島あたりに大阪府(？)立図書館があるときいているが、住んでいるところからでは満員の通勤電車にはあまり乗る気がしないのと、私費留学生のため生活に忙しいのとがあって、まだ一度も行っていない。

大阪の梅田あたりは行ってみたことはあるが、生活場というより、会社のかたまりのような感じを受けている。せっせと歩くサラリーマン風の人々、ぎっしり建てられた高層ビルは印象的だった。

―原文は日本語―

（リュウ　キョウカ　大阪外国語大学大学院生、中国）

ニューヨークから

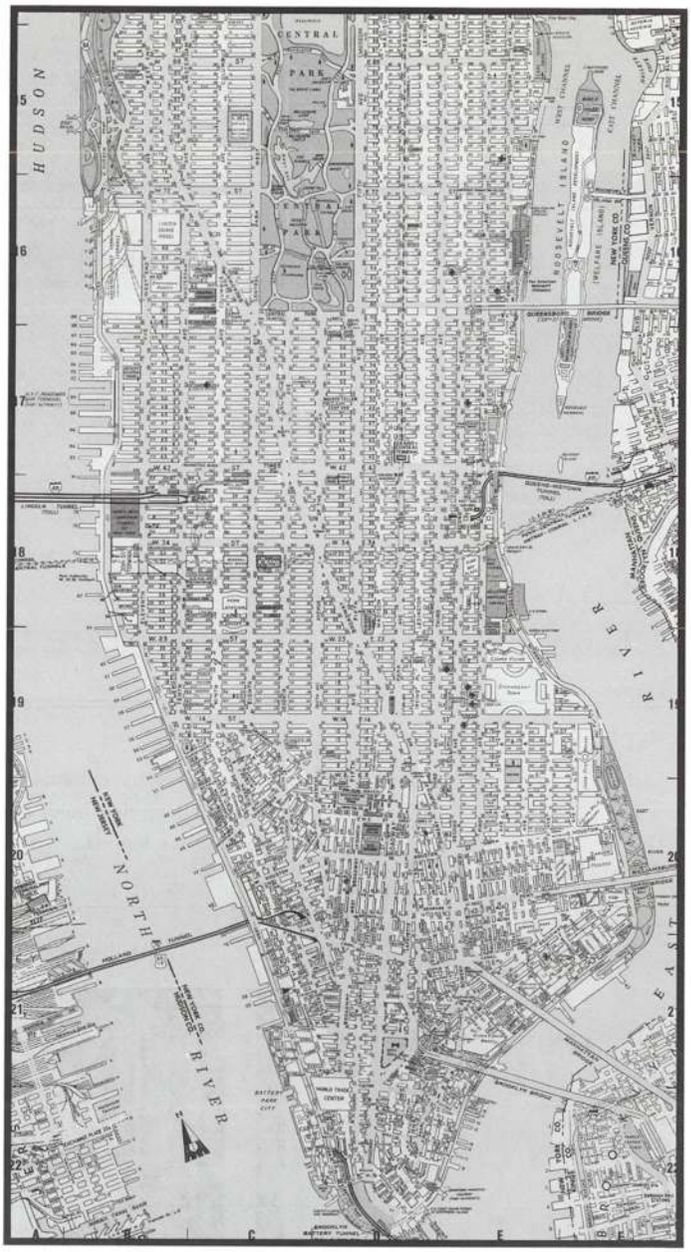
建築家・ニューヨーク駐在員　林　　和久

日本への出張から帰る折の飛行機の窓にマンハッタン島が現れたとき、東京の持つ〝得体の知れなさ〟とは対極のマンハッタンの〝分かりやすさ〟にホッとした安堵を感ずるようになったのは、最近のことである。マンハッタン島だけがニューヨークシティではないけれども、島という存在やセントラルパーク・ダウンタウン・ミッドタウン・ハーレム等の明確な領域によって構成されているこの都市は、全体が了解可能なある種の記号性を持っている。座標軸のように配置された街路によって構成されているマンハッタンのある一点に住むということは、一気に全体に住むことができるような錯覚を与えてくれる。個人にとっての都市の出来事をその座標軸に埋めていくうち、都市が自分の一部になってくる錯覚をこの街は与えてくれる。

都心に住むことの魅力・魔力を問われるとすれば、どの都市に限らず、自分の存在の中に都市を取り込み、自分と都市を錯覚することの陶酔感にこそあるのではないか？都市が持っている文化の一片を自分も持っているという感覚が都市居住者の誇りであり、また現実に都市文化を形成してきたものである。

以前勤務していた建築事務所の友人に、南米の政治動乱から逃げてきた建築家や東欧から亡命して来た建築家達がいた。彼らは生きる場所としてニューヨークを選び、ニューヨークに住むことを誇りとし、自分の存在の一部をニューヨークの存在と重ね合わせていた。ニューヨークでは資本と情報を求めてあらゆるものが自由と競争の無秩序の中で渦巻いている。ここに生きることの醍醐味は、その渦の波にサーフィンボードに乗るように浮上することにあるのだろう。しかし、波に乗れる人はごく少数であるにもかかわらず、誰もが願望の片隅に保ち続ける。

現在、私はニューヨーク郊外に住んでいるため都市居住者を自称する資格はない。また、大阪・東京・フィラデルフィア・パリ・ニューヨークほかいくつかの都市を転々と住居を替えてきたこともあって、一つの都市に自分の一部を同一視するにはやや醒めすぎているきらいもある。しかし〝都市はアジテーションである〟という大学紛争当時耳にした言葉は、姿を変えてニューヨークでは生きているような気はする。



問われるものは、その都市の持つ存在感である。その都市の持つ存在が強烈であればあるほど、その都市に住むモメントも大きくなる。ニューヨークはそんな街である。…ただし危険をも含めて…。

（はやし　かずひさ　株式会社日建設計ニューヨーク事務所）

エッセイ

都市のスポット



青く大きな空には、湖をわたる風がシンボルだ。
そびえる高層ビルの中にもアパートはある。
少し街へ出れば、そこは太陽と緑の美しい
都心のウォーターフロント

シカゴ（アメリカ）
写真・文　NAOTO TANAKA

記憶にない都市

フリーライター Diane Durston

War destroys more than buildings and bridges... with them go the memories and dreams of the people who built them. Nearly every major city in Japan was destroyed in the fire bombings of WWII, a fact of which the people of Osaka (at least those that are old enough to remember) are only too painfully aware. Visitors from abroad who remember cities like Tokyo, Osaka, Nagoya, and Hiroshima before the war marvel at the amazing speed with which the people of Japan have rebuilt their cities in just over four short decades. Said one former American soldier recently, returning to Tokyo for the first time in forty years, "It's not the city I remember... I don't recognize anything... it's a completely different place!"

If you dropped a modern Japanese teenager down into the middle of pre-war Tokyo, the response would probably be the same. What is left to help them remember the past, to help them understand who they are, how they got here, and where they are going? Whether as a result of war or urban redevelopment, the big cities of Japan — like modern cities all over the world — are suffering from loss of memory.

Naturally, not all memories are pleasant. Some we try our best to forget. But within the wealth of memories Japan's long past holds are many of great value. The safety and order of even the biggest cities in Japan are envied by cities all over the world. But this safety is a result of centuries of cooperation between neighbors living in close quarters in the old *machinami*, where mutual support and a sense of community responsibility developed as a means of survival in harsher times. This spirit is lost when people are forced to live in the type of impersonal, high-rise (*mansion*) apartment buildings that are being built every day in cities all over the country. American cities became dangerous places to live when the old sense of neighborhood unity in places like New York was lost to the so-called "modern" apartment-building lifestyle in which no one knows their next-door neighbor.

The beautiful traditional cityscapes that were not lost in World War II are now rapidly being destroyed by developers and land speculators, and Japan's major cities are all becoming characterless, modern metropolises built more for cars than for people. The Shitamachi district, one of the only "memories" Tokyo has left, is disappearing rapidly now with the short-sighted eye for overnight profit of the so-called "jiage-ya", or speculative land developers. Soon Tokyo Station Building, the last symbol of the city's old character and flavor, will be gone as well. In Osaka, immense improvements have been made in recent years through beautification projects involving the landscaping of the river banks and the general greening of the city streets. But what is being done to recycle the few remaining old neighborhoods and tile-roofed buildings that did miraculously survive the Second World War? Even precious ancient Nara, with its treasury of fabulous temples and arts, has let the promoters persuade them to destroy historic lands to build sprawling parking lots and temporary structures to house the coming Silk Road Exposition.

Kyoto, which was saved from the bombings of WWII, is another sad example. Everyday, tourists are heard to remark that the ancient capital city has lost its former character and style. New concrete buildings are being thrown up every day without any consideration to the relationship between the new structure and the existing traditional buildings that surround it.

The importance of recycling old buildings, both socially and economically, has been the subject of much study in the U.S. for the past 25 years. Old neighborhoods that were formerly rundown and economically depressed have been re-vitalized by restoring old buildings and either finding new uses for them, or renewing their original functions.

Seattle, Washington, was one of the first cities on the West Coast to restore an old section of town in the early 1960s and 70s. It was started by one businessman who decided to try to bring the life back to the downtown district by restoring an old building, and hopefully recapturing the pride that built the city in the first place. Now, people from the suburbs have moved back into the city, and businessmen who have opened offices in the restored Pioneer Square district are making a profit in an area that was once a slum. The crime rate has dropped, because people now take pride in the neighborhood again.

In Seattle, the preservation movement was started by private businessmen, architects, and local citizens — NOT by the city government (although the city government did much to help AFTER the benefits of historic preservation were brought to their attention by the private sector). Once the support of the people has been voiced, the government can supplement the preservationists efforts, without spending more city funds, by offering tax incentives to businesses and private individuals who are willing to restore old buildings.

One fine example of the possibilities of historic preservation on the private level in Japan can be found in Kyoto at the new HANBEI-FU restaurant inside the old *Kyo-machiya* of the Kyo-fu shop near the Shijo-Keihan train station south of Gojo-dori. Rather than tear down his traditional building, Mr. Tatsuji Tamaoki decided to turn part of the interior into a contemporary restaurant that introduces *fu* as the main ingredient in a classic *kaiseki bento* lunch. Guests walk through the *noren* curtain, down the restored *toriniwa*, and past the *kamado*, on their way to the modern restaurant inside. A visit to HANBEI-FU gives people a glimpse of what traditional Kyoto life was like, combining elements of modern convenience, such as modern lighting and heating, with traditional materials and design.

Architects play an important role by offering new ideas to the public for ways in which old buildings can be recycled. Certainly, architects must be sensitive to the needs of modern society when designing new structures or remodelling old ones. The traditional *machiya* are often dark and poorly insulated, but these are problems that can now be overcome by creative use of new materials and techniques.

Changing lifestyles, new building materials, and modern conveniences are all important considerations. But the lessons learned by trial and error over a thousand years of history in urban Japan are equally valuable tools for future builders. What were the traditional elements that have lasting value? The human scale, the simplicity of design, the irreplaceable beauty of natural materials, the high level of craftsmanship, the sensitivity to the seasons, the closeness of community, the safety of the city streets — all these elements are still to be found in what is left of the traditional *machinami* neighborhoods in cities all over Japan.

Today's architects have a responsibility to study the past, learn what elements are of lasting value, and combine them with new ideas so that in the future, young people can look at their cities, feel the thread of history, and understand the traditional values that made them safe. British architect Graeme Shankland said, "*A city without old buildings is like a man without a memory.*" And man without a memory is doomed to wander the streets, confused and alone, trying to remember how to get back home.

—原文は英語—

（ダイアン・ダストン フリーライター、アメリカ合衆国）

エッセイ

戦後40年の間に、日本の都市は近代都市となり、戦前の面影はほとんど消えてしまった。今もわずかに下町に残る隣近所のコミュニティ意識が安全な街をつくっていたが、そうした街並みが消えつつある。都市緑化や美化は進んだが、今では東京も大阪も個性のない近代都市になってしまっている。過去の記憶を失いつつある。

米国ではシアトルで、60年代から初めて古い街の保存再成運動が民間ベースで始まった。人々が住み、働き、使いこなすことで、古い街が街の誇りを取り戻した。

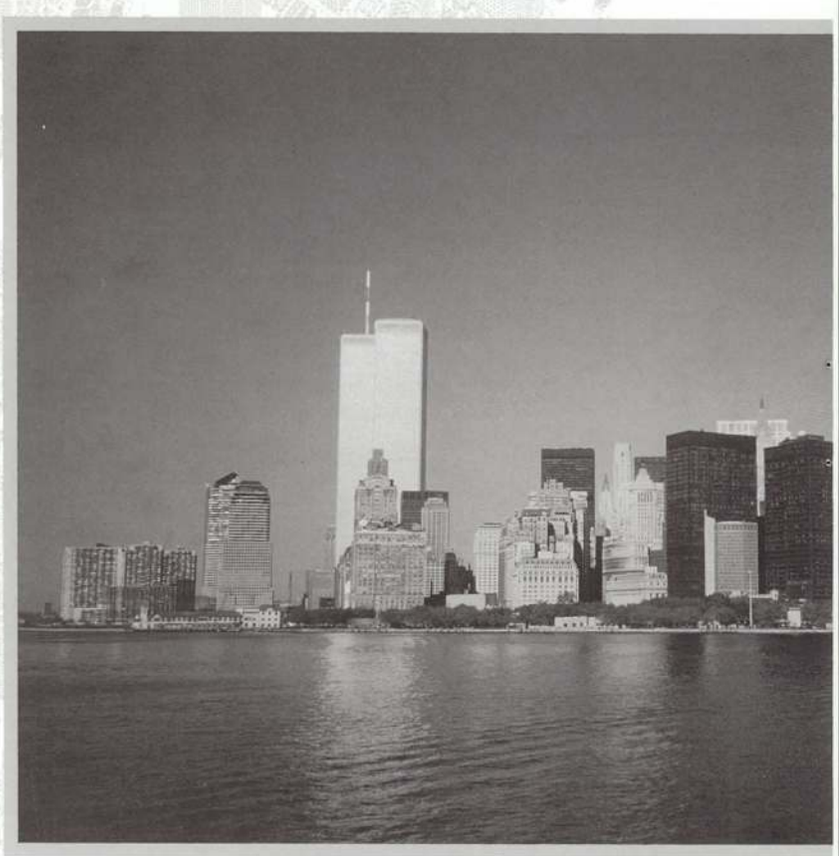
長い時間をかけて培われてきたものの良さはヒューマンスケール、自然のぬくもり、職人の技、コミュニティ等——。新しい素材・技術と古いものを調和させて現代のものを作っていく中で、歴史を街の中に組み込んでいくことが、建築家の責任ではないだろうか。

▲要約をごく簡単に記しました。……（計画分科会）

ランドマークとしての都市

街は生きもの。生き生きとした個性を持ち、人間の営みのステージとなる。顔のある街にいると、日常性と非日常性がつくる生活のシーンにときめきと安心がある。ランドマークとしての都市、パフォーマンスする都市は、親しみとときめきの生活空間である。

都市の建築・ひろば・ミセ・道路のつくりだしている見慣れたシーン。それでいて、明日の夢、恋の予感、見えない未来、生きるドラマ……に無限の広がりと可能性を与える。それが街の息づかい、ランドマークとしての都市。



ニューヨークは不思議なふろしき。異質なものも、新しいもの古いものもすべて訪れるものを包みこむ。街の寛容さとエネルギーがすべてをクロスオーバーして創りだす不思議なパワーに、人は夢を追う。そして、記憶に刻まれた都市の情景に出合った瞬間、自分の在ることに興奮を覚える。



街の玄関―ゴールデン・ゲート―



―戎橋―

"1粒300メートル"グリコの看板にとまどう



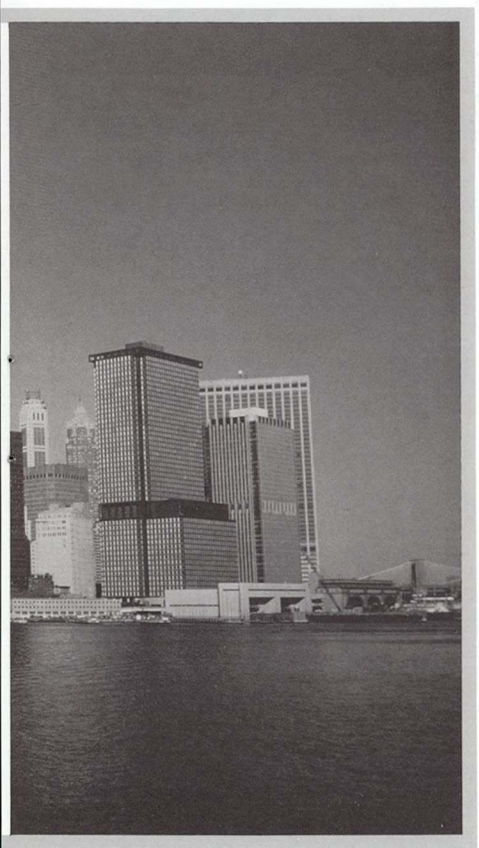
世界の人が行き交う通り―シャンゼリゼ通―

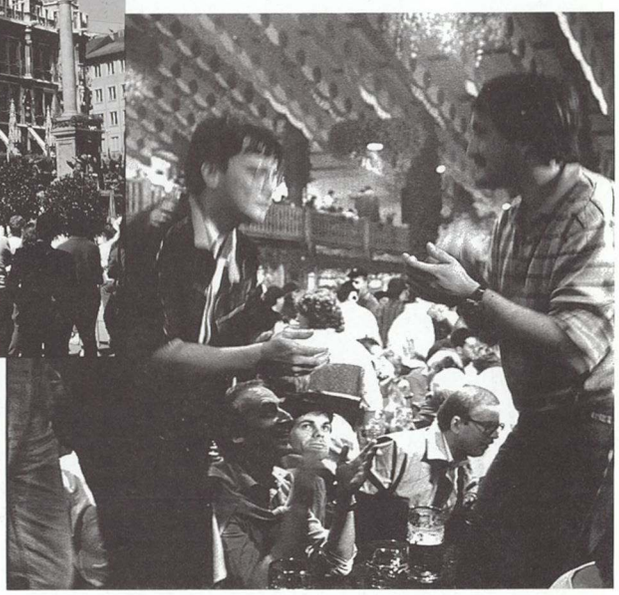
写真と文とまとめ
小浦久子＋高田佳子＋田中直人





何でもない市役所のオルゴール時計が11時を告げるとき、世界中から人が集い来る。ほんのわずかなパフォーマンスが終わると、いっせいにビールのジョッキを空け始めるこのまちは、ビール祭りもどのまちよりも有名だ。このまちのビール祭りは、世界のビール祭りをイメージさせる。







街から家への渡り廊下ーアークヒルズー



今、何してる！
ー御堂筋プロムナードー

都市のシーン

生活のひとこまが、街の中に顔をのぞかせる。さりげないかたちが生活の舞台としての都市に彩りを添える。舞台としての都市に息を吹きこむ。



車が当たるの？ーケルン大聖堂前宝クジ売場ー



ガシャン？！
ーパリのワインボトル捨てー



ちょっと失礼
ー街角のトイレー

パフォーマンスする都市

街は生きもの。生き生きとした個性を持ち、人間の営みのステージとなる。顔のある街にいると、日常性と非日常性がつくる生活のシーンにときめきと安心がある。ランドマークとしての都市、パフォーマンスする都市は、親しみとときめきの生活空間である。

街は人々の営み〔パフォーマンス〕の舞台。時の流れの中で生まれる出来事が空間の表情を変え、街が自己主張し始める。人間が生きることで築かれてきた都市空間。その中での営み〔パフォーマンス〕は、あまりにも身近で新鮮なシーンをつくる。



パリジャンとカフェテラス

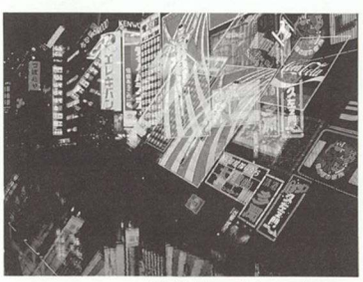


空間の持つサイン性、アメニティが人を引きつける。数限りない出合い、すれちがいがつくりだす摩擦熱。無数の可能性が都市のパワーだ。

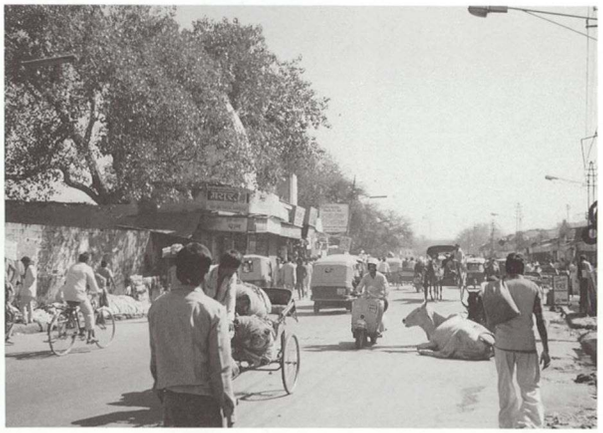
笑い声があがる—神戸大丸前—



ポンピドーの噴水前



道頓堀にゆれるネオン



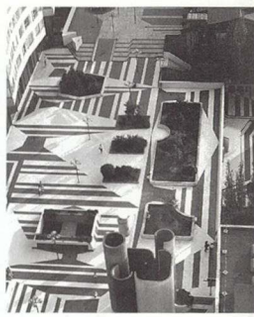
牛、オートバイ、人力車—ニューデリー—


夜のタクシー・ラッシュ


オットット……車を縫う出前



Police man とバスーローマー


床のパターン


街角の時計
ーニューヨークー


都市のシーン

スペイン階段の思い出

初めてのローマ、街全体がファッションであり、天井のない美術館であり、歴史の教科書のようなこの街で、地図を見るのも忘れてバスの中からその町並みに見入っていた。冬の日差しに包まれた古い建築の中から、それはまるでクレバスのように光輝く空間として忽然と現れた。私はバスを飛び降り、無遊病者のようにそこに引き寄せられた。噴水のある広場の方向からは、この階段は舞台のようだった。たくさんの人が階段に腰をおろし、人を見ている。そして同時に見せている。ここに座っていると、この階段と広場、そこへ続くファッショナブルな通りのつくりだす雰囲気が、自分自身をも中に包み込んでくれたことを発見し、たまらなく嬉しく、そして安心するのだ。歌が聞こえてくる。フラワーショップや似顔絵屋もすべてが風景として溶け込む。しばらく、時間の中でさまざまな出来事に遭遇し、ここはドラマティックな生活の舞台だと気づいた。

トレビの泉にコインを投げ込んだ私が、ここがローマの休日という映画にもでてきた有名なスペイン階段であるということに気づいたのは、２度目にローマを訪れる直前だった。

生活市（いちば）のパワー

ローマの市場



物・金・人・情報その他ありとあらゆるものが交錯する市は、都市のドラマの縮図であり、都市の象徴のような気がする。駆け引き、馴れ合い、触れ合いの緊張と興奮の裏には、生活が見えてくる。



黒門市場

モノグラフ

施設分布からみた都市居住論

柏　原　士　郎

A 都市居住の魅力

どうも郊外のニュータウンは味気ない。それに比べて都心のマンションは、通勤時間は短いし、買い物は便利、それ以上に嬉しいのは、ひょいとエレベータで下へ降りると、赤チョウチンはあるし、パチンコ屋はあるし、なんでニュータウンみたいなところに住むんやろ、という都市居住礼讃派は、意外に多い。これまで主としてニュータウン計画を研究テーマにしてきた筆者にとっては、少々耳の痛い話である。

しかし、これは何もニュータウンが悪いのではなく、ニュータウンを計画する方法が間違っていたのではないかということに遅まきながら気がついた。そこで、ここ数年来、「都市の魅力はその多様性と混在性にある」という仮説のもとに、都市の魅力をニュータウンに、いかにして持ち込むかをねらって都市のさまざまな機能の空間分布を研究してきた。

研究といえば何か難しく聞こえるが、要は、性格のことなる地域で、さまざまな施設や業種の数を調べたり、地図にプロットし比較分析するといった内容のものである（図1）。

その一端をご紹介したいが、その前に、施設分布にまつわるいくつかのお話をしておきたい。

1．地上げ屋のテクニック

地上げ屋旋風がひところ大いに話題になったときにその中心ともなった東京都港区では、銭湯や八百屋が次つぎと姿を消していった。なぜそのようなことがおこったのか。通常は、都心の夜間人口の減少から経営不振になり閉業に追い込まれたと考えるだろうが、この場合は逆で、地上げ屋が底地買いの戦略として、住民の生活そのものを壊しにかかり、その手段として日常生活に欠かせない銭湯や八百屋を買収していったのである。港区の人口は約18万人でその10%が銭湯を利用していたという。ところが、銭湯がなくなり、いまま

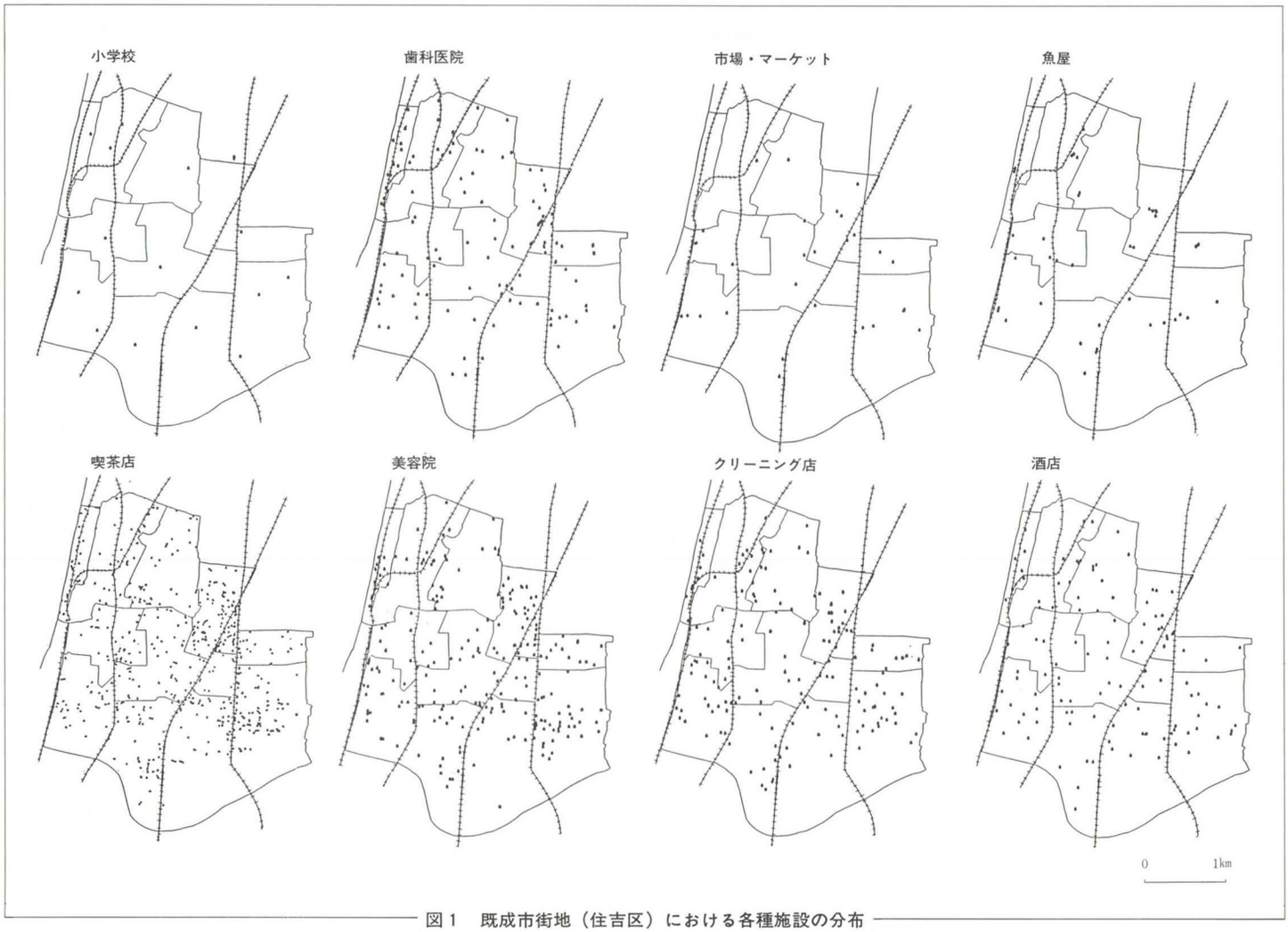


図1　既成市街地（住吉区）における各種施設の分布

で、5分で行けたのが20分以上かかるようになり、結局生活ができなくなって引っ越していかざるをえなくなってしまったのである。港区は古くから下町的性格が強く、高齢者が多いことからも、大変厳しい状況に追い込まれてしまったのである。地上げ屋にとっては一軒ずつ説得して買収する手間がはぶけて効率的な方法であったのだろう。

下町の魅力というのは、たとえ住宅の規模が小さくても、周りにさまざまな生活施設が充実し、それを気が向くままに利用して生活をエンジョイできる仕組みができていることだろう。この仕組みが壊されてしまったのである。

2．補完の原理——多様性と選択性

都市居住の魅力をわれわれに教えてくれるサンプルの典型は、パリだろう。そのアパルトマン購入のための情報誌に、「アパルトマンの所在地域の状態」なるページがあって、教会いくつ（カトリック、プロテスタント、オーソドックス等）、ユダヤ教や回教の礼拝堂の有無（ない場合は一ばん近い町の名）、病院、クリニック、消防、銀行、郵便局、警察、学校（小、中、高）等々々、ずらりと（アパルトマンからの徒歩距離も）記されているという（犬養道子：セーヌ左岸で：中央公論社）。

「住」とは、つまりそういうものであって、「人間が屋根の下に入ること」だけではないのだ、と犬養さんは指摘する。

風呂がなくても銭湯にゆけば入浴という行為は充足できる。立派なシステムキッチンを自宅につくったが、それはステイタスシンボルとしての機能を果たすだけで、食事はもっぱら外食にたよる家族の話を聞いたことがある。「シェイクスピア全集」をすべて喫茶店の席で翻訳した東大の小田島雄志教授にとっては、喫茶店は、立派な書斎であったにちがいない。これらは、生活とは、住居のなかで完結するものでないことを示す例である。

逆に、こんな話もある。アラブの金持ちの豪邸には、プール、ディスコ、ゲーム・ルームなどあらゆる余暇を楽しむ施設が準備され、そのかわり、都市にはそのような機能を持った施設は一切ないというのである。

要するに、人間のさまざまな欲求をどこで充足させるかは不確定で、時代によってもまた、地域性や社会階層によっても異なるのである。

3．日の丸弁当型と五目飯型——集中か分散か

ガウディは、ここ数年、最も興味を持たれている建築家の一人である。彼の代表作であるサグラダ・ファミリアはその特異な形態で有名な未完の大聖堂だが、その建設計画の段階で一つの問題が持ち上がったということを、何かで読んだ記憶がある。巨額の費用をかけて巨大な大聖堂を建設するよりも、小さな教会を各地に数多くつくれ、という反対運動である。結果的には大聖堂派が勝ち、世界的に有名な建築がつくられることになったが、このような、一点集中型か、分散型か、という問題はさまざまなケースで問われる本質的な概念である。どちらが正しいか、容易に回答できるような問題ではないが、都市計画や建築計画では、計画理念につながる重要な概念であることにはちがいない。

千里ニュータウンに代表される計画的な街の商業施設などの立地が計画的な地区センターや近隣センター内に限られ、自然発生的な既成市街地にみられるさまざまな施設の混在や施設選択の多様性に欠ける、といういわゆる「センター主義」批判もこの集中か分散かという問題につながる。淡泊な味の日の丸弁当か、複雑な味の五目飯かは、人それぞれの好みだが、都市の魅力は、その多様性と混在性にあることは間違いない。

4．混在と複合の魅力

「文化とはCOMPLEXである」ということを数年前に高蔵寺ニュータウンを訪れたときの疑問から、痛切に感じた。

ご存じのように、高蔵寺ニュータウンはワンセンター型のわが国を代表するニュータウンとして有名だが、そのタウンセンター地区に立派な多目的ホールを持った市民センターが完成し、ようやくニュータウンとしての体裁が整ってきたのではないか、と興味を持って見学にでかけたのである。

センター地区の敷地のスケールは東西100m、南北500mで、形状は南北に細長く、その北端に市民センターが、南端にショッピングセンターが、その中間に診療所、郵便局、電話局が配されるというレイアウトとなっている。この配置計画における最大の疑問は、夜、ホールでのコンサートなどの催し物が終了した後、観客は暗い闇夜にほうり出され、いったいどこで家族や友人との楽しい語らいを持つことができるのだろうか、ということである。

都市の魅力の一つは、観劇→レストランでの食事→パブでの語らいといった行為にたいして連続的に応えてくれる空間が準備されていることだろう。しかも多様な選択性を持って。さまざまな機能が混然一体となったところに文化が生まれる土壌があるのである。

都市の集積の魅力を創出しようとしてあえてワンセンター型を採用したこのニュータウンに幻滅を感じたのである。

では、本物の都市はどのような構造になっているのか。その施設分布をニュータウンと比較することにより明らかにしてみよう。

B 施設分布比較論

1．どこで、なにを、どのように調べたか

調査対象として、9つの性格の異なる地域を選んだ。大阪市の北区と南区は都心の盛り場を含む典型的な地域、住吉区は古い自然発生的な街で大阪の原宿と呼ばれる高級住宅地を含む地域、江坂と緑地公園は土地区画整理事業により開発され、地下鉄駅の開設後急速に発展してきた地域、狭山ニュータウンは、民間開発によるニュータウン、千里、泉北ニュータウンはいずれも、新住宅市街地開発事業による公的開発のニュータウンである。

これらの地域で各種の施設や業種の空間的な分布を調べるのであるが、その調査方法が案外難しい。現時点のものだけであれば、所在地が記載された各種の資料で調べればよいが、その施設がいつできたのか、また、過去に存在していたが、今は姿を消したものまで調べるのにはいったいどのようにすればよいか。いろいろと苦労して考えた末、過去の職業別電話帳が近畿電気通信局（現ＮＴＴ）に保管されていることを知り、それを利用することを思いついた。ゼミの学生諸君の大変なご協力により過去にさかのぼった、各種の施設や業種の所在地を調査することができた。職業別電話帳による方法には、登録もれや職業分類基準のあいまいさなど、全面的に信頼できるものではないが、各種の施設や業種を総合的にとらえるには現状では最も適当な方法だろう。

2．施設や業種の数は地域によってどのように変わるか

ここでは、施設や業種の数に焦点をあてて分析することにしよう。ところが、それらの数は、当然、地域の人口や面積の大きさによっ

て変わるから、それぞれの地域を比較するためには、指標化する必要がある。そこで、施設数などを地域の人口で除した値を施設原単位と呼び、この値をもちいて比較することにした。

各地域の施設原単位（人口１万人当たりの数）をまとめたものが**表１**である。この表より、つぎのことが明らかになった。

ⓐ 幼稚園、小学校など一部の公共的施設では既成市街地とニュータウンではほぼ同一の水準にあるが、それ以外は、あらゆる施設において北区、南区、住吉区などの既成市街地の値が高い。とくに、都心の北区、南区が高い。この理由として都心における夜間人口の減少によることも考えられるが、昼間人口に対してもやはり高い水準にある。

ⓑ ニュータウンでも《狭山》が《千里》や《泉北》に比較して高いレベルにあるのは、前者が民間開発のニュータウンでいろいろな店舗やクリニックが自然発生する余地が残されているのに対して、後者は、新住法により開発されたニュータウンであるため、計画的につくられたセンター以外のところで発生する余地がまったくないためである。

ⓒ とくに都心において数の多いものは、喫茶店、食堂・レストラン、バー・酒場、雀荘などの遊興・娯楽施設である。人口１万人当たりでみると、喫茶店は、《北》348店、《南》320店、食堂・レストランは、《北》705店、《南》1032店、バー・酒場は、《北》568店、《南》574店、雀荘は《北》58店、《南》49店などとなっている。

ⓓ 生活密着型の施設と考えられるクリニックが意外に都心に多いことである。とくに歯科医院は多く、人口１万人当たり《北》39医院、《南》36医院で、《住吉》の６倍程度の値である。これは、歯科の患者が、サラリーマンや学生で、通勤・通学途上によく利用するためだろう。

では、これらの施設や業種は、人口の定着状況とどのような関係にあるのだろうか。その発生過程をみてみよう。

３．さまざまな施設や業種の発生過程

各地域において過去にさかのぼって、５年ごとに新たに発生した施設数、消滅した施設数、ストックとしての存在数、人口１万人当たりの施設数（施設原単位）をグラフ化した結果、人口定着と施設発生の関係は、施設や業種の種類によっていくつかのタイプに分かれることが分かった。

タイプ分けした結果をまとめたものが、**表２**、**表３**である。夜間人口と昼間人口の差が大きい北区と南区と、それ以外の地域に分けてみると、つぎのことが分かる。

北区・南区

ストック数の経年的な変動は、表３に示すように、夜間人口並行型（ストック数が夜間人口と並行に増減するもの）、昼間人口並行型（ストック数が昼間人口と並行に増減するもの）、人口無相関型（ストック数が人口と無相関なもの）の３タイプに分類できる。

ⓐ 小児科医院が夜間人口並行型であるのに対して、内科医院、歯科医院は昼間人口並行型である。これは、小児科医院は地域居住者に密着しているが、内科や歯科医院は、サラリーマンや学生の患者にねらいをつけていることを示しているといえよう。

ⓑ 幼稚園、小学校などの教育施設は人口無相関となっている。経営効率的には、夜間人口並行型になるのが、望ましいが、通学距離などの問題により廃校するのが困難な状況だろう。

ⓒ 生活施設であるため、夜間人口並行型になるのではないかと考えられる肉屋、酒屋、青果物店、クリーニング店などが、昼間人口並行型、あるいは人口無相関型となっているのは、興味深い。おそらく、サラリーマンの会社帰りの利用やサービス業の利用に依存しているためと考えられる。

以上のように、都心では、喫茶店、バー・酒場、雀荘など、昼間人口に依存すると考えられる遊興的施設の集積が大きいのは当然であるが、生活密着型の施設のストックも多く、これが都市居住の大きな魅力の一因ともなっているといえよう。

住吉・江坂・緑地公園・狭山N.T、千里N.T、泉北N.T

表２のように、人口の定着のスピードより先行して施設が発生するもの（先行型）、人口の定着にほぼ対応して発生するもの（並行型）、人口定着より遅いスピードで発生するもの（後追い型）の３つのタイプに分かれる。

ⓐ 古くからの自然発生的な街である《住吉》では、調査施設のすべてが並行型か後追い型に分類され、先行型がみられないのが特徴的である。経済的な経営効率からは、後追い型が有利であるためだろう。

ⓑ 都市計画などによって比較的計画性のある《江坂》、《緑地公園》、また、計画性の強い《狭山ＮＴ》、《千里ＮＴ》、《泉北ＮＴ》では幼稚園、小学校などの教育施設が先行型となるが、多くの商業施設や

表１　各地域の施設原単位（人口１万人当たりの施設数）

地域 / 施設	北区		南区		緑地公園	江坂	住吉区	狭山N.T.	千里N.T.	泉北N.T.	参考値	
	夜間人口	昼間人口	夜間人口	昼間人口							東京都	大阪府
保育所	1.8	0.2	3.4	0.7	0.9	2.5	0.8	0.5	0.8	0.9	1.1	1.2
幼稚園	1.4	0.2	1.4	0.3			0.9	1.0	1.1	1.1	1.2	1.1
小学校	2.0	0.3	2.6	0.6	1.3	2.0	0.8	1.0	1.2	1.3	1.3	1.3
内科・小児科	3.4	0.4	5.4	1.2	2.7	4.1	4.7	3.0	2.5	2.8	9.7	7.7
歯科	39.0	5.1	36.3	7.9	4.9	8.1	6.1	2.0	1.8	1.3	6.5	4.3
市場	4.3	0.6	6.0	1.3	0.9	4.6	1.5	1.0	1.4	1.1	0.8	0.6
青果物店	34.7	4.5	24.3	5.3	3.1	5.6	4.5	2.5	2.0	1.6	7.0	4.6
食料品店	62.9	8.2	43.2	9.3			7.6	2.5	2.4	1.6	3.2	3.3
酒店	21.9	2.9	24.0	5.2	3.6	3.6	6.8	4.0	2.0	1.9	6.4	7.1
喫茶店	348.8	45.7	320.5	69.3	9.3	41.2	33.7	5.7	5.0	2.0	15.8	12.3
食堂	705.4	92.4	1032.7	223.2	8.0	46.3	33.8	5.0	---	---	159.0	134.5
理容院	30.6	4.0	28.6	6.2	9.3	15.8	9.7	2.0	1.5	1.3	9.8	10.0
美容院	45.7	6.0	65.5	14.2			14.2	4.0	2.0	1.4	13.0	12.1
クリーニング	16.2	2.1	15.7	3.4	3.1	3.1	9.1	1.5	1.1	0.6	11.3	10.1
キャバレー	11.0	1.4	15.2	3.3	---	---	---	---	---	---	4.0	2.7
バー・酒場	568.2	74.4	574.0	124.1	---	---	---	---	---	---		
麻雀店	58.1	7.6	49.2	10.6	---	---	---	---	---	---	7.0	4.8

注１）住吉区、狭山N.T.、千里N.T.、泉北N.T.は昭和55年、大阪市北区、南区は昭和60年の値。
２）参考値は昭和57年の値で、民力'83、'84より算出した。

表2　施設原単位（施設数／1万人）の経年的変動パターン

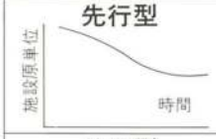
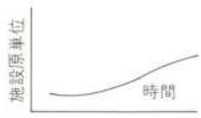
変動パターン	緑地公園	江　坂	住吉区	狭山N.T.	千里N.T.	泉北N.T.
先行型 	幼稚園 小学校 内科・小児科	幼稚園 小学校 食料品店		幼稚園 小学校 内科・小児科 青果物店 美容院	幼稚園 小学校 マーケット	小学校 マーケット
並行型 	マーケット	内科・小児科 クリーニング	幼稚園 小学校 内科・小児科 マーケット 酒店 食料品店	歯科 食料品店	内科・小児科 歯科 酒店 クリーニング	幼稚園 食料品店 酒店 美容院
後追い型 	歯科 食料品店 理容・美容院 クリーニング 喫茶店 酒店	歯科 マーケット 理容・美容院 喫茶店 酒店	歯科 青果物店 喫茶店 理容・美容院 クリーニング	マーケット 酒店 喫茶店 理容院	青果物店 食料品店 理容・美容院	内科・小児科 歯科 青果物店 理容院 クリーニング

表3　北区と南区における各種施設のストック数の経年的変動パターン

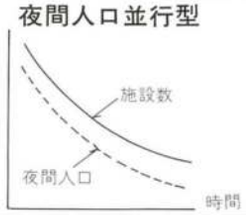
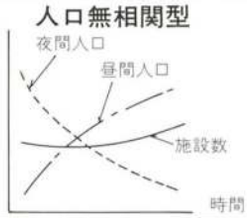
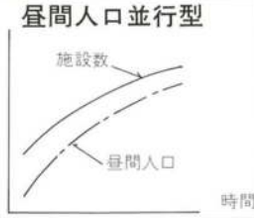
	北　区	南　区
夜間人口並行型 	小児科内科医院	小児科内科医院
人口無相関型 	保育所、幼稚園、小学校 市場・マーケット 酒店、薬局 キャバレー 麻雀店	保育所、小学校 歯科医院 市場・マーケット 魚屋、喫茶店 食堂・飲食店 美容院 バー・酒場 麻雀店
昼間人口並行型 	内科・その他医院、歯科医院 郵便局 青果物店、魚屋、肉屋、食料品店、喫茶店、食堂・飲食店、洋服店 理容店、美容院 クリーニング店 バー・酒場	幼稚園 内科・その他医院 郵便局 青果物店、肉屋、酒店、食料品店 洋服店 薬局、理容店 クリーニング店 キャバレー

表4　各地域の住宅付き店舗率（%）

業　種	萱島	緑地公園	帝塚山	狭山NT
全店舗	85.5	67.1	84.3	74.6
飲食店	93.8	75.6	86.5	78.0
食料品店	65.9	67.6	66.3	61.1
衣料品店	89.5	70.0	85.2	77.3
日用品、文具店	80.8		81.8	100.0
電器、家具、布団店	90.7	80.0	92.3	88.9
美容院、理容店	94.3	78.3	89.7	70.6
クリーニング店	100.0	100.0	88.2	71.4
建設、不動産	88.3	76.0	88.2	77.8
診療所	100.0	54.5	100.0	94.4
薬、化粧品店	84.6		88.2	44.4
塾、教室	96.3	52.6	84.0	85.7
時計、眼鏡、宝石店、カメラ店	81.0	57.1	93.3	
荒物、金物店	90.0		100.0	
事務所		35.0	84.6	

医療施設は後追い型、あるいは並行型である。

以上のように、先行型となるものは、一部の公的施設のみで、大部分の民間による施設は、後追い型となる傾向がみられ、資本主義社会における経済の論理が明瞭に現れていることが分かる。

4．混在のメカニズム——店舗付き住宅の分布

これまでにみてきたように、都市の既成市街地では、生活密着型施設や遊興・娯楽施設などのストックの量が計画的につくられたニュータウンに比べて格段に大きく、これが都市居住の魅力の大きな理由のひとつであるといえるだろう。

では、なぜ、このような差異が生じるのか、そのメカニズムについて考えてみよう。

ニュータウンの近隣センターの商業施設などは、店舗間の競争がなく、物価高やサービス低下、早い閉店時間など、顧客からの不満がたえないが、この最大の理由は、商業施設などの立地をセンター内に制限し、しかも1業種1店舗あるいは2店舗といった規制が影響しているものと考えられる。センター内に専用店舗を計画的に設ける場合には、経営者の保護の意味からもこのようにならざるをえないためである。一方、都市の自然発生的な既成市街地では、さまざまな施設や業種の立地の自由度が高く、しかもいわゆる「パパ・ママ・ストア」としての経営形態が多くみられることであり、その物的形態としては、その多くが住宅付き店舗だということである。

図2は萱島（京阪萱島駅付近）、緑地公園、帝塚山（住吉区、阿倍野区）および狭山ニュータウンで調査した専用店舗（○）と住宅付き店舗（●）の分布図である。

萱島は虫食い的に乱開発された住宅地で、文化住宅が多く、一方、帝塚山はブティック、ギャラリーなども散在する高級住宅地で、ハイセンスな都市空間を形成しつつある地域である。

自然発生的な既成市街地において、いかに多くの住宅付き店舗が居住地の中に混在して分布しているかがよく理解していただけるだろう。比較的計画性の強い狭山ニュータウンでも、民間による開発で規制がゆるいために、住宅付き店舗の自然発生がみられ、千里や泉北などの公的開発ニュータウンと大きな差異を示している。

表4は、業種ごとの住宅付き店舗率をまとめたものである。クリーニング店のように高い値を示すものから、建設・不動産業のように比較的低い値を示すものまで、業種によってその値は異なるが、

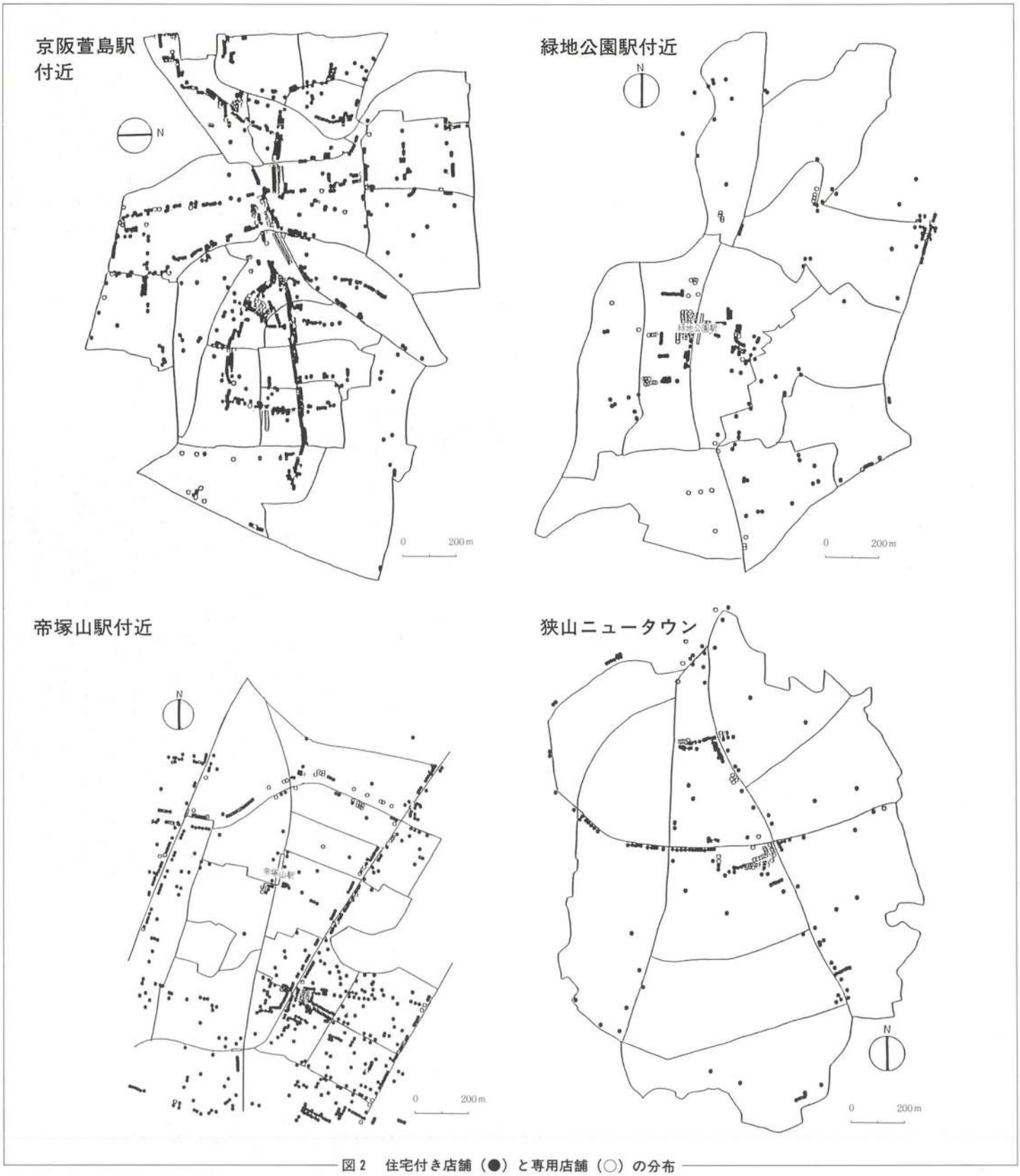


図2　住宅付き店舗（●）と専用店舗（○）の分布

全般的には、60%以上を示すものが多いことが理解できるだろう。

C 多様性の原点——都市

都市の持つ最も素晴らしい特質は、無限の多様性である、として近代都市計画の手法であるゾーニングを痛烈に批判したのは、ピーター・ブレイクだが、その典型が既成のニュータウンということになるだろう。

「ニュータウンを舞台にして『細雪』が将来書かれると思うか」というのは面白い問いだが、それを可能にするのがこれからのわれわれの仕事であり、その原点は都市の多様性と混在性にあるといえるだろう。

*

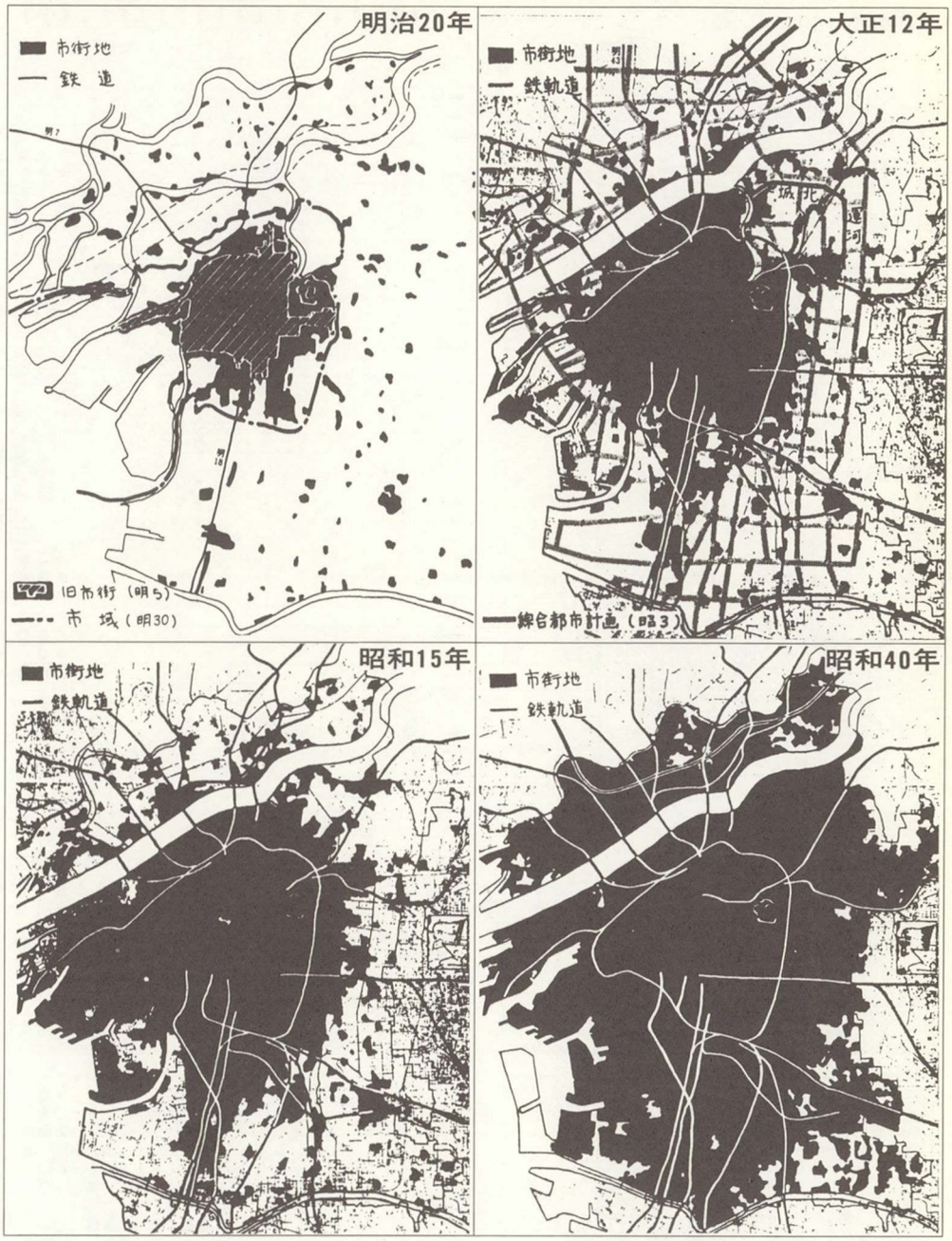
最後に、資料閲覧にご協力いただいたＮＴＴ関西総支社の方々、調査を行った野口みゆき、泉克也、菊川みゆき、寺西弘育、五宝久充、石川ヒロ子の諸氏に感謝の意を捧げたい。

（かしはら　しろう　大阪大学助教授・工学博士）

都心居住●スポット

大阪の街と人

市街地の変遷



●大阪三郷を中心に明治22年、大阪市がスタート。
●市街地の拡大が続き、大正12年には環状線の外へと広がりはじめる。
●昭和19年、市電の路線延長は116㎞、1日140万人の人々を運んだ。
「水の都」は「煙の都」となった。生産と生活が一体となり、まさに24時間街が活動していた。
●都市の成長は、都市に住み働く人々の増加と一体であり、人口密度が最大となる。

市電路線図（戦前）



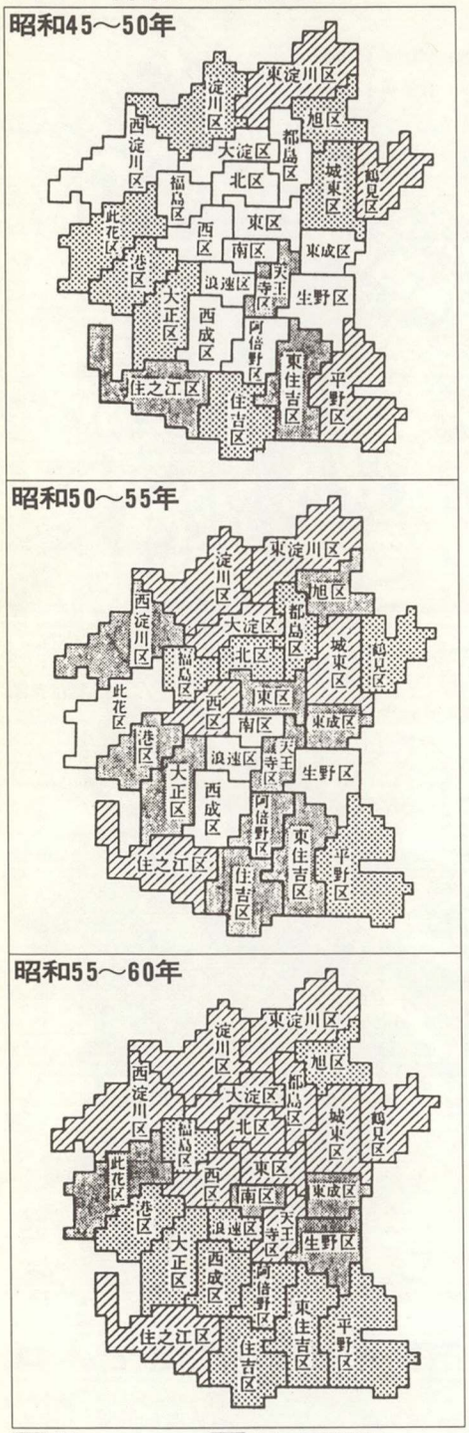
市街地面積の動きと人口

年次		市街地面積(ha)	市域人口(人)	市街地人口密度(人/ha)
	1699		364154	206
	1764		422359	238
明治1	1868		281306	160
20	1887	2660	472247	309
33	1990		881344	260
40	1907	4040	1239373	300
大正4	1915		1460218	330
12	1923	6550	1301500	
14	1925		2114804	260
昭和5	1930		2453573	255
15	1940	9030	3252340	280
20	1945		1070300	
25	1950	13470	1956136	140
30	1955		2547316	175
40	1965	15960	3156222	190
50	1975		2778975	155
60	1985		2636260	

＊　大正14年以後、淀川・大和川など水面相当2000haを減。

資料作成とまとめ
岡田信幸
（大阪市都市整備局）
小浦久子
（総合調査設計）

人口増加の状況

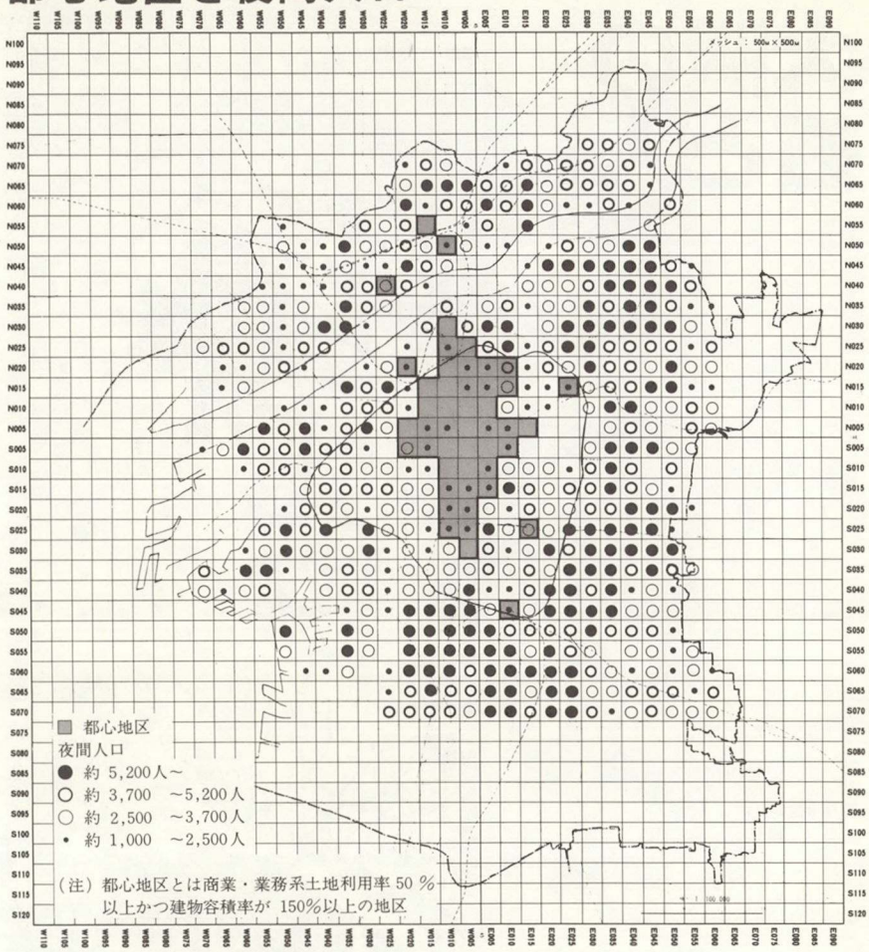


●「都会」が人を引き寄せた時代。「都会」＝「働く場」＝「住む場」としてさまざまな人々を呼びこんだ。

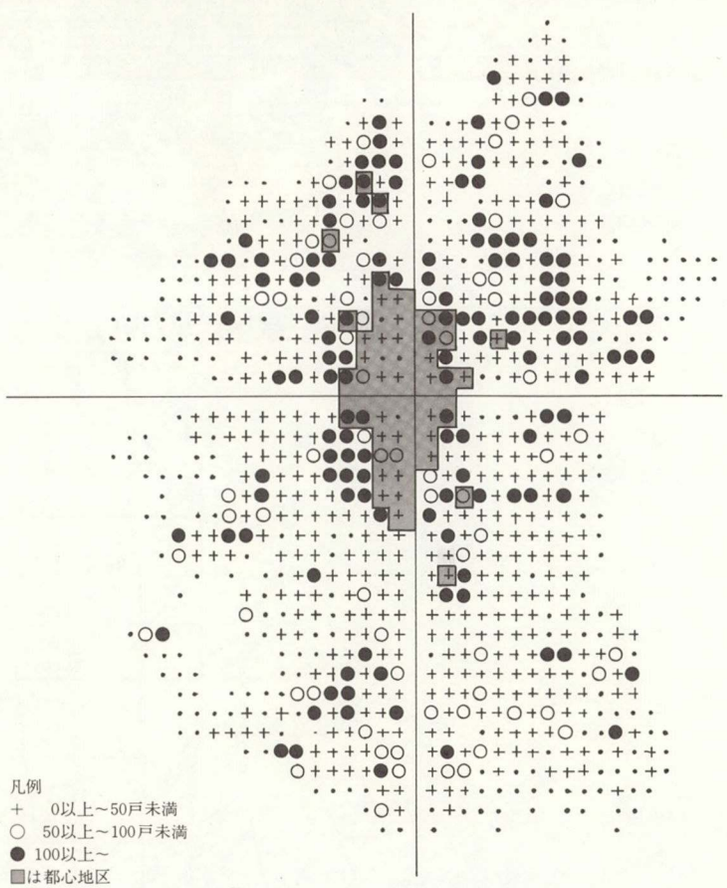
●「都心」の成立と機能特化が進む。業務地化することで、人が住まない街ができた。郊外へ郊外へと、住宅地が広がる。

●再び、街に人が住み始める。「都心」を街として使いこなす人々が、都心居住の魅力をみつけ始めている。住み方の多様化が、都心に人口を呼び戻している。

都心地区と夜間人口



持家・中高層共同住宅(55国調)

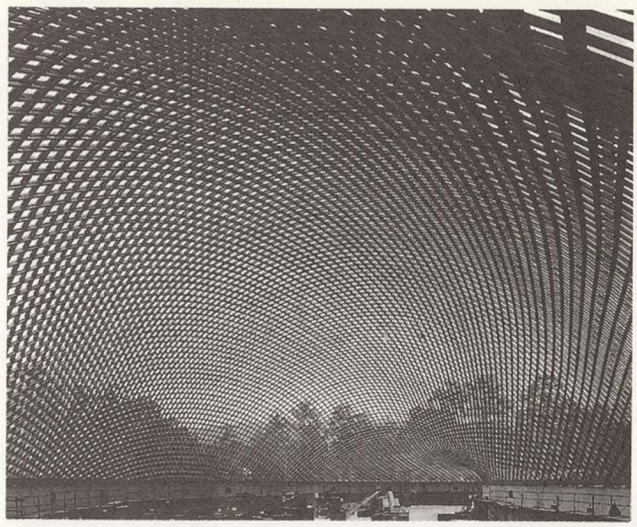


構造の頁

158

木構造シェル—なら・シルクロード博から—

久徳　敏治



テーマ館の概要

1．建築概要

敷地面積　10,700㎡
建築面積　2,124㎡
延床面積　2,107㎡
階　　数　地上1階
軒 高 さ　2.7m
最高高さ　16.0m

2．構造概要

小 屋 組　すぎ材による格子シェル構造
屋　　根　PVCポリエステル繊維布
支持構造　鉄筋コンクリート壁構造
基　　礎　連続基礎

写真1　木造格子シェルの内観

はじめに

今年4月から10月にかけて開催される“なら・シルクロード博”のための展示館の一部として、**図1**、**写真1**に示す規模、形状の3館の木単材の組み合わせで構成される木造格子型シェルがお見みえした。(計画設計：菊竹清訓建築設計事務所)

もともと木造格子型シェル構造は西ドイツの構造家フライ・オットー教授らによって開発された構造形式で、**図2**の概念図より説明されるように、等間隔に組まれた小断面の木造格子材を強制的に曲げて曲面を形成するもので、最も軽量なシェル構造として、自由な形状による大空間を実現することが可能である。しかし、本構造物の設計、施工においては、シェル曲面形状設定、木造格子材の初期曲げ、面内外剛性の確保、接合部詳細、木材の品質管理および施工法など難しい問題が含まれており、建築物としては海外でも数少なく、わが国においては今回が初めての試みである。

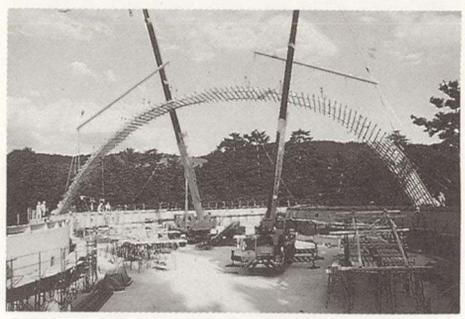


写真2　木造アーチの建方施工

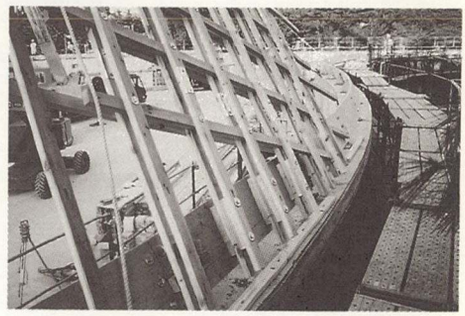


写真3　アーチとエッジプレート接合部

構造概要、材料特性並びに建方施工

図1に示す木造格子型シェル3館、すなわち上段のなら館は蚕のまゆ玉を模擬した形態で、長さ62.0m、幅32.0m、高さは立ち上がり壁（2.7m）を含む13.7mの双丘形、中段のテーマ館は天山北路、天山南路によって囲まれた空間を模擬した長さ104.5m、幅38.8m、高さ15.2m、下段の総合案内所は勾玉の形を表した長さ39.5m、幅15.0m、高さ6.7mの空間を構成するものである。使用した素材は主に40㎜×70㎜の奈良県吉野産スギ材で、図2に示すように4段に交互に組み合わせ、50cm間隔の格子組みで強度、剛性を確保している。素材の材料特性は、1000本余の材料試験結果、**表1**に示す基本統計量を示し、たとえば曲げヤング係数は平均90.2t/㎠と、一般のスギ材の70.0t/㎠に比べてきわめて高い値を示し、良質な力学特性を保有している。

表1　ならシルクロード博 材料試験結果

40㎜×70㎜ $N=1060$

項　　目	平均値	標準偏差	最小値	最大値
幅　(㎜)	71.1	0.4	68.5	72.3
成　(㎜)	40.9	0.2	39.9	41.8
平均年輪幅 (㎜)	2.9	1.1	0.9	6.9
試験時含水率 (%)	7.4	2.8	3.0	27.4
比　　重	0.36	0.03	0.27	0.47
最大節径比 (%)	26.4	8.6	0.0	69.2
曲げヤング係数 (t/㎠)	90.2	13.8	34.9	149.7

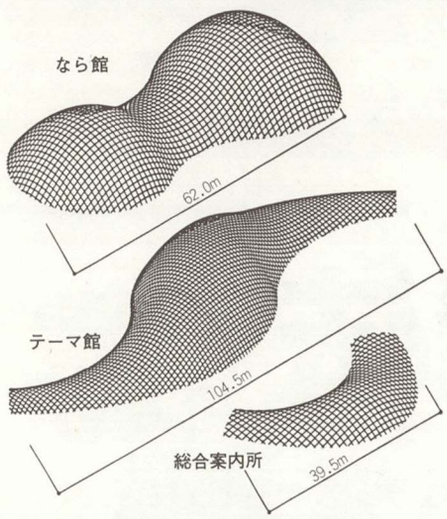


図1　木造格子シェル展示館

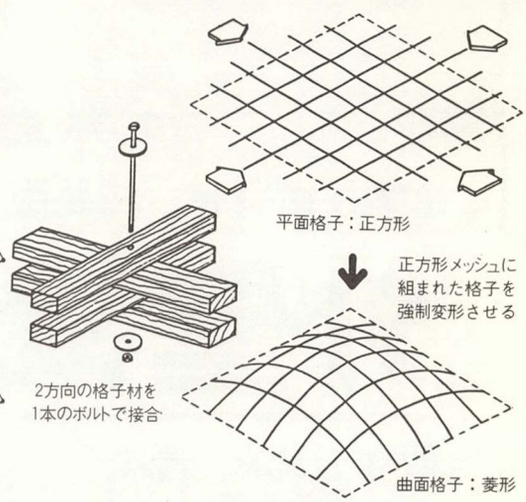


図2　木造格子シェル構造概念図

建方は地表面にて長さ4mの素材を交互に仮組みし、4m平方の格子をアーチ方向の所定の長さに接合し、クレーンにて吊り上げ、曲率を保ちながら両端の立ち上がり壁上に橋渡しする(**写真2**)。その後、単体アーチを接合し、設計図書に明記された曲面空間を構成していく構法によっている。また比較的正確な角度が要求されるエッジ部分はアーチの形状補正を行った後、正確に角度を保つエッジプレートと調節機能をもつ接合ボルトによって緊結し空間を構成(**写真3**)、その上面を透光性の塩化ビニールコーティング・ポリエステル繊維布で覆う。

曲面設計

規則的な網目格子を用いた格子シェル構造は連続体シェル構造に比べて、一般に面内せん断剛性がきわめて小さいため、曲面構造物であってもその力学特性はシェル構造よりむしろ一次元的な棒状アーチ構造の特性に近いものとなる。格子シェル構造にとって軽量・大スパン構造物の実現のために少なくとも常時の荷重状態に対して二方向アーチとしての最適な幾何学形状の選択が重要な課題の一つであり、基本アーチ形状について軸・曲げ歪エネルギー比に基づく最適な軸・曲げ剛性比に関する検討も行われている。アーチ断面の経済性と合力学性から、曲げモーメントが小さく圧縮軸力卓越の状態を最適とした場合、一様分布荷重に対するアーチの最適な構造曲線は、懸垂鎖模型

実験などにより容易に想像し得るように、反転懸垂曲線となる。以上の結果より、曲面の基本設計は懸垂線アーチに基づいている。

初期曲げ応力

木造格子シェルの形状設計では、その施工法に関連して、格子材に発生する変形および応力度の検討が重要となる。シェル曲面面外の曲げのほかに、シェル曲面と格子曲面の不適合度に応じて、格子材にはシェル面内の曲げおよび捩れが強制されることとなる。二方向格子交点ボルトの接合状況の極端な例を**図3**に示すが、二方向独立に格子法線を取り得る場合（自由交点）と格子法線がシェル曲面に一致するように拘束される場合（拘束交点）の二つが考えられる。前者の場合には、格子材にシェル面内曲げがほとんど生じない。後者ではシェル曲面の連続性は満足されるが、格子材に曲げおよび捩れ変形が強制される。現実的には交点ボルトの接合状況に応じて両者の中間状態となり、**図4**に示すような三つの法線ベクトルの差異の大きい部分には、格子に面内曲げあるいは捩れが強制されることとなる。

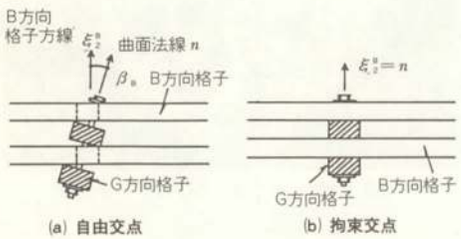


図3　格子交点状況

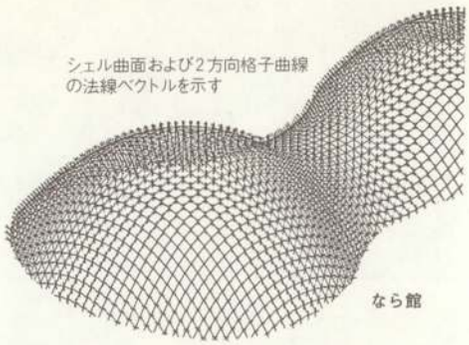


図4　曲面および曲線法線ベクトル

構造実験

わが国最初の木造格子シェル構造の本施工に先立って、施工法および構造特性把握を目的として小規模なモデル棟を試作し、各種の実験確認を行っている。モデル棟は**写真4**に示すように、辺長12mの正方形平面で、シェル部分の高さ2.5m、実構造物と同様の懸垂形を基本として曲面設計されている。格子素材は幅6cm、成3cmのスギ材を両方向とも2段組みとし、設計曲面の曲率半径をスギ材の曲げ強度を睨み7.5m以上としている。組み上げ時の施工誤差は、設計曲面に対して水平および鉛直それぞれ最大45mmが観測されている。また、動的な構造実験として、常時微動および変位強制による自由振動実験を実施し、その結果、一次振動数5.9Hzと予想以上の剛性が確保されていること、減衰定数は5%程度を持っていることが確認された。

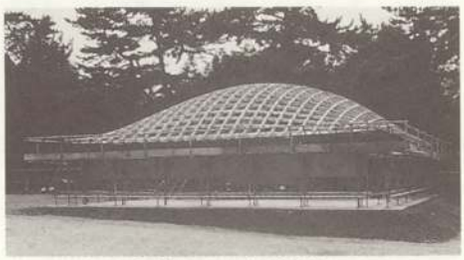


写真4　モデル棟外観

おわりに

「燃える」「狂う」「腐る」という木材の欠点を克服すべき技術的改良がようやく実りつつあり、きわめて魅力ある木構造の時代を迎えている。それにしても最近の生活空間環境の尖鋭化は人間のストレスに大きな影を落とし、不安を訴える人口が増える傾向にある。このような環境悪化に対処するためにも、機能面と感性の両面から木造が見直されており、適度の温度調整機能、木肌のもつ個性的なパターンと適度のゆらぎ、反射率や残響が小さいという視聴覚的効果、無機的な材料にはない温かく、やさしい接触感覚などが、生活空間の豊かさを醸し出す決め手として期待されている。

（ひさとく　としはる　株式会社竹中工務店大阪本店設計部専門役）

企画：日本建築協会
建築技術選書〈特装版〉
外壁構法
飯塚五郎蔵 著
B5判・192頁・定価3300円
あらゆる建物のデザインを決定づける外壁仕上げ．その成否によって，外観が良くも悪くもなり，耐久性も左右される．外壁仕上げの実情を整理し確かな情報と知識が得られるように，いろいろな材料や部品の専門書やカタログにある知りたい部分だけを収集した．最も適切な材料決定のための指針を示した，すぐに役立つ材料・構法の実用書．
最適な材料選択の決め手！
◆内容紹介
1．外壁の系譜　柱の家と壁の家／外壁の造りかた／真壁と大壁／外壁仕上の昭和史
2．積む壁　煉瓦の壁／石造の壁／各種ブロック壁／校倉の壁
3．塗る壁　日本壁／西洋左官術／モルタル塗／外壁仕上げ塗工
4．張る壁　木造板張／窯業系防火サイディング／金属板外壁
5．貼る壁　タイル貼／煉瓦タイルと煉瓦貼／ガラスのタイル／石貼
6．カーテンウォールとパネル　金属カーテンウォール／ガラスのカーテンウォール／PCおよびALC張壁／プラスチックのカーテンウォール／サンドイッチパネル
7．迷いと決断——賢者の選択　塗り壁か乾式壁か／外壁仕上げの満足度とクレーム／外壁の耐用年限
チェックリスト
〈目録進呈〉
学芸出版社
〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343)0811

設備の頁

160 新しいガス給湯機

西川　辰也

安全性、経済性、設置性、操作性、快適性などのニーズに応えるため、最近のガス給湯機の技術開発には目覚ましいものがある。

1．超コンパクト型給湯機

現在、家庭用の給湯機では給湯能力の大型化が進んでいるが、一方、最近の住宅事情から、設置の省スペース化が要求されており、よりコンパクトな給湯機をという要望が高まっている。このようなニーズに応えて、従来タイプと比較して体積比1/4までコンパクトにし、設置バリエーションの多様な展開、物流管理コストの低減、現場施工性の向上を狙った給湯機が開発された。

表1は、同能力（16号）の超コンパクト型給湯機と従来タイプの給湯機との重量および外形寸法を比較したものである。

表1．給湯機の仕様比較

	超コンパクト型A（横型）	超コンパクト型B（縦型）	従来型
重量	14kg	15kg	24kg
外形寸法	高さ345mm ×幅450mm ×奥行100mm	高さ510mm ×幅350mm ×奥行100mm	高さ585mm ×幅480mm ×奥行190mm

現在商品化されている超コンパクト型給湯機のバーナーの燃焼方式は、全一次空気燃焼方式とブンゼン燃焼方式に大別されるが、高負荷燃焼を行うために、前者は二段階の熱交換器を採用し、後者は低一次予混合気の流れと強制拡散二次空気の流れを工夫した新しいバーナーを採用して高負荷燃焼を行い、バーナー、燃焼室のコンパクト化をはかっている。

また制御部品、ファン、ガス・水・空気の通路等の構成要素についてもコンパクト化しており、たとえば、ファンモーターのＤＣ化、電子制御部品の小型化等、各要素の大幅な小型軽量化を図っている。

表2は、超コンパクト型給湯機の一例として、大阪ガスの商品の概略仕様を記す。

表2　超コンパクト型給湯機の一例

項目＼型式		33-550型(大阪ガス製)
本体寸法(mm)		高さ510×幅350×奥行100
重量(kg)		15.0
標準能力(号数)		16号～2号
標準インプット(Kcal/h)		30,000
出湯能力(ℓ/min)		夏・12ℓ、冬・9ℓ(最大) ～2.5ℓ(最小)
最低作動水圧(kg/cm²)		0.10
接続	ガス	(13A・LP)15A(PT½B), (6C・6A)20A(PT¾B)
	給水	15A(PT½B)
	給湯	15A(PT½B)
	電気	AC100V
	リモコン	リモコンで点・消火、能力調節

写真1～4は実際の設置例であり、左が従来タイプ、右が超コンパクトタイプにおきかえたものである。ベランダの残り壁、狭い通路、凹凸のある外壁、隣との狭い空間において超コンパクト型給湯機がすっきりとコンパクトに設置されている。

超コンパクト型給湯機の要素技術は、給湯機のみならず、風呂との兼用機や給湯暖房機にも応用可能であり、すでに風呂との兼用機は商品化が行われている。さらに今後ますます広い範囲での応用が期待できる技術である。

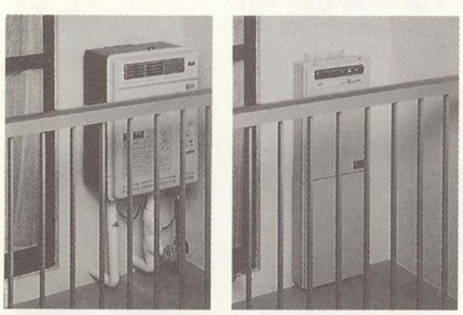


写真1　ベランダの残り壁(左…旧タイプ、右…新タイプ)

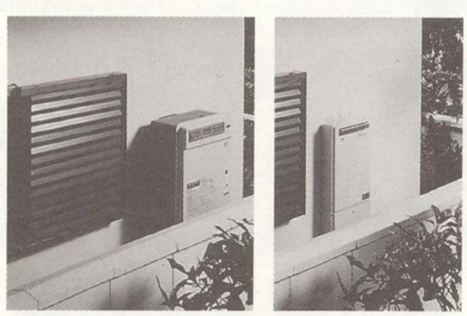


写真2　狭い通路

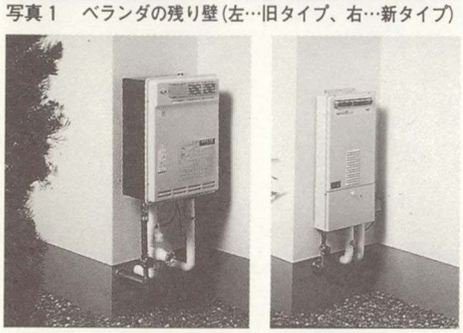


写真3　凹凸のある外壁

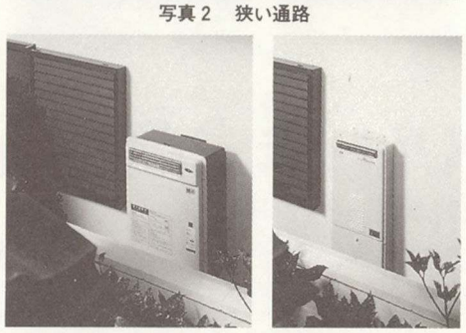


写真4　隣との狭い空間

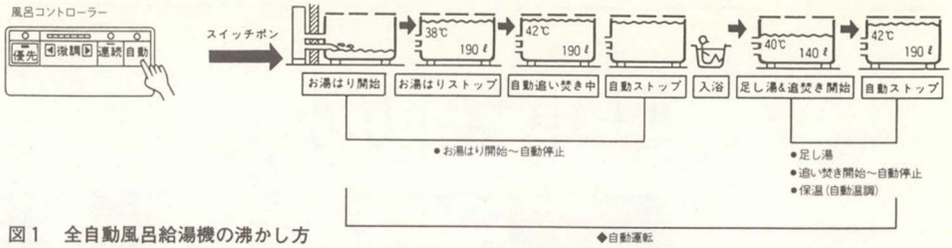


図1　全自動風呂給湯機の沸かし方

2．全自動風呂給湯機

最近の温泉ブームに見られるように、若い人達を中心にバスライフがファッション化しつつあり、共働き家庭は帰宅後の家事の合理化のため、また中高年齢層には健康のためにと、バスライフにたいして、より高機能化、利便性の向上が求められている。とくに主婦は、家事労働の中でお風呂を沸かすことについて常に不満を持っている。お風呂の水の入れすぎや沸かしすぎは誰でも経験し、ひやりとしたり常に気にかけておかねばならない面倒なことである。

そこで、これらの不満を解決するため、ここ数年風呂の自動化が急激に進み、その普及も目をみはるものがある。

全自動風呂給湯機としては、『適温、適量で浴槽にお湯がはれ、沸き上がり湯温は上下均一になり、湯温は常に一定に維持され、お湯が減ったら自動的に湯が足される』という機能が望ましい。**図1**に、全自動タイプの風呂の沸かし方を示す。

全自動風呂給湯機は、沸き上げ方式によって2タイプに分類できる。

① **自然循環タイプ**　浴室に隣接設置するタイプで、従来の風呂釜と同じ構造をしており、施工方法が在来工法と同じということで、施工者に受け入れられやすい。（**図2**参照）

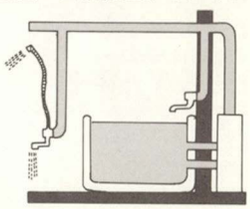


図2　自然循環タイプ

② **強制循環タイプ**　集合住宅では、浴室と風呂釜の位置が離れるケースが多く、また、戸建住宅でも建物の美観上あるいは2階に浴室を設けるなど、同様のケースが増えている。そのため、浴槽の湯をポンプで強制的に循環し、風呂釜で沸き上げる方式である。（**図3**参照）

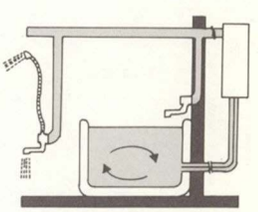


図3　強制循環タイプ

今後の開発動向として、

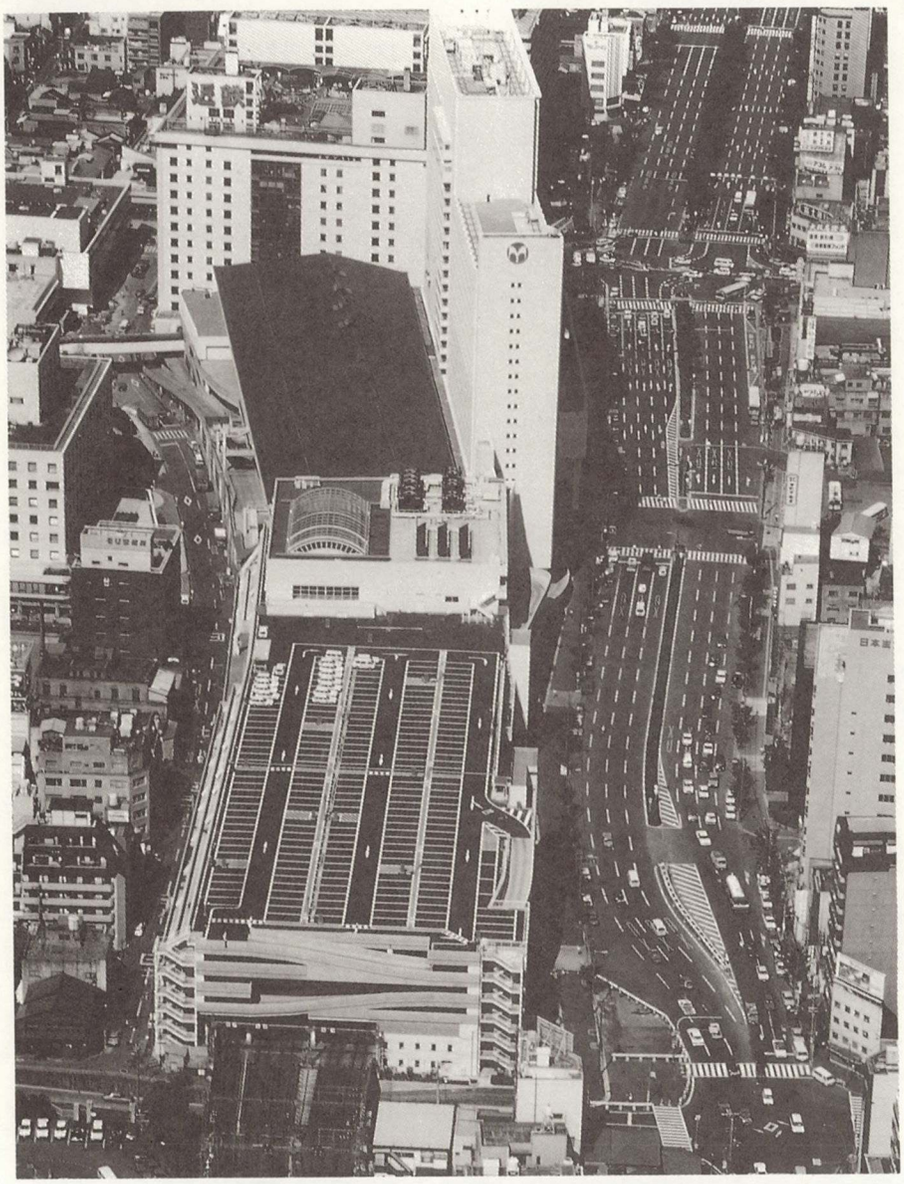
① 浴槽の自動排水、自動洗浄まで行う真の全自動タイプ

② 風呂の浄化、殺菌により年中浴槽にお湯をはったままの家庭用温泉風呂

等が考えられるが、単に機器単体で考えるのではなく、美容、健康、レジャー感覚まで満たせる快適なバスライフを実現するための新しいシステムの提案が必要と思われる。

（にしかわ　たつや　大阪ガス株式会社商品開発部厨房温水チーム副課長）

駐車場防水に



SA-5HF工法
近鉄上本町駐車場
大阪市天王寺区
6,000㎡ / S.60.3

三ッ星ベルトの
SA工法

三ッ星ベルト株式会社 建材事業部

本社/神戸市長田区浜添通4丁目1番21号　☎(078)671-5071(大代表)

東京(03)865-2217/大阪(06)555-2550/名古屋(052)242-1127/福岡(092)441-4451

札幌(011)841-9131/仙台(022)239-6551/広島(082)286-0608/四国(0879)42-3189

施工材料の頁

159
屋上駐車場用防水工法

池田　定

最近、建物の有効利用の面から、屋上駐車場や立体駐車場が増加しているが、屋上駐車場防水では、従来の屋上防水での要求性能以外に、振動等に起因する下地亀裂に対する追従性や押さえコンクリート打設に対する耐衝撃性、耐フクレ性が要求される。

SA工法

今回紹介する屋上駐車場用ＳＡ工法は、ゴムアスファルトシート（ネオ・ルーフィングGA-C）を用いたシート防水と熱アスファルト防水の上にアスファルトコンクリート押さえを施した複合防水工法であり、シート防水の持つ優れた下地追従性能と、熱アスファルト防水の持つ耐外傷性能、水密性能を兼ね備えた新しい工法である。

当工法の駐車場用仕様としては、コンクリート打設用の一般仕様とアスコン打設用の脱気仕様があるが、最近ではアスコン打設仕様が増加しており、近鉄上本町駐車場や大阪市交通局中津営業所の大型バス駐車場等で採用され、注目を集めている工法である。

表１．アスコン打設用脱気仕様

工程	SA-5HF工法
①	ネオープライマーGAR
②	ネオ・ルーフィングGA-CH
③	アスファルト
④	アスファルトルーフィング
⑤	アスファルト
⑥	アスファルトフェルト
⑦	アスコン打設

備考：GA-CHはGA-Cの裏面に脱気層を積層したものである。また、アスコンの厚さは50mm以上が必要である。

SA工法の特長

本工法の特長を具体的に述べると、ゴムアスファルトシート（ネオ・ルーフィングGA-C）の持つすぐれた伸び特性に基づく下地追従性の良さにある。さらに、このGA-Cの裏面に特殊脱気層を設けたGA-CHを用いることにより、アスコン舗装を防水層の上に直接打設できる点にある。加えて、施工のスピードアップ、工期の短縮が可能となり、トータルコストが低減できる。

下地追従性能：ＳＡ工法は、下地クラックによる防水層の破断事故が生じやすい低温下でも、優れた下地追従性能を発揮する。

表２．下地亀裂への追従性　（mm）

工法／温度	熱アス防水		シート防水	SA工法
	A-1	A-2	粘着層付きシート	SA-5F
20℃	10	8	30以上	30
0℃	8	7	28	21
−10℃	2	2	26	18

耐衝撃性：くさび形の重量物の落下衝撃試験において、一般の熱アスファルト防水工法と同様の耐衝撃性能を有する。

表３．耐衝撃強さ（0.5R×8.3kgの落下テスト）　（cm）

熱アス防水		シート防水	SA工法	
A-1	A-2	粘着層付きシート	SA-5F	SA-5HF
33	20	10	26	26

接着性能：ネオ・ルーフィングGA-Cの粘着層が、熱アスファルトの熱で融着し、安定した接着力を発揮する。

表４．接着試験結果　（Kgf/25mm）

部　位	熱アス工法	SA工法
ジョイント部	2.8	4.8
下　地　部	3.2	5.0
立ち上がり部	3.2	4.3

施工性能：ＳＡ工法は熱アスファルト防水に比べ積層数が少なく、防水重量の軽減と工期短縮が計れる。

表５．施工性能比較

	重量	1,000㎡での施工性
熱アス（A-2）	約10kg/㎡	5人×5日＝25人・日
SA工法（SA-5HF）	約６kg/㎡	5人×4日＝20人・日

経済性：従来仕様（熱アス防水＋コンクリート押さえ）に比べ、本仕様（ＳＡ工法＋アスコン押さえ）は、押さえ層の厚さが低減でき、目地材も不要となり、トータルコストの低減が計れる。

表６．コスト概略

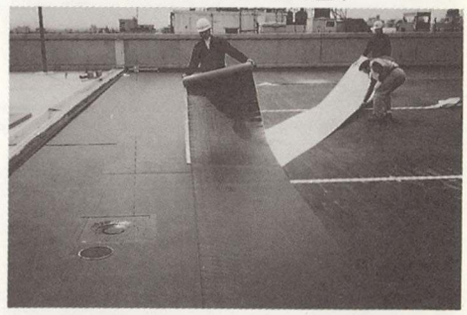
		従来仕様	SA工法仕様
仕様	防水層	A-2	SA-5HF
	押さえ層	コンクリート舗装（厚さ100mm）	アスコン舗装（厚さ60mm）
コスト材工（円/㎡）	防水層	3,450	4,100
	押さえ層	コンクリート 2,500 目地材 500	アスコン 2,000
	合　計	6,450	6,100

近鉄上本町駐車場での実施例

ＳＡ工法の工程を**写真**に示す。

①下地清掃後、ネオ・プライマーGAR塗布
②ネオ・ルーフィングGA-CH敷設
③アスファルトルーフィングおよびアスファルトフェルト施工
④防水完了後、アスファルトコンクリート舗装
⑤完成


ネオ・プライマーGAR塗布


ネオ・ルーフィングGH-CH敷設


アスファルトルーフィング、アスファルトフェルト施工


アスファルトコンクリート舗装


完成

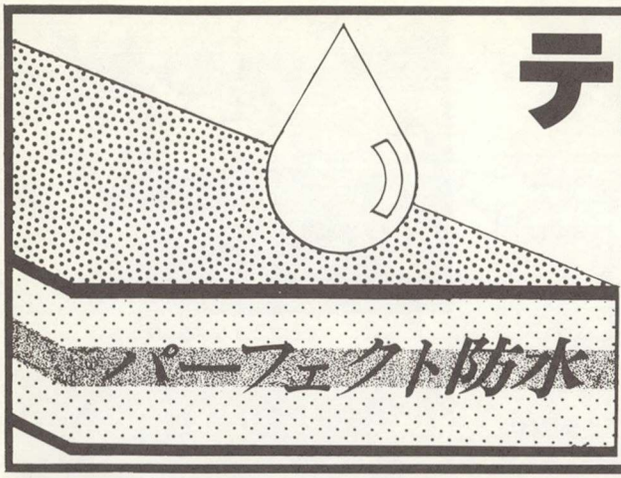
あとがき

木工法は、昭和56年の発売開始以来、種々の現場で採用、施工されてきており、最近では大型駐車場での採用が増加している。アスコン舗装の駐車場では、脱気材の設置等で設計、施工段階での計画的検討が必要である。

今後は、性能の向上、コストの低減等に注力していきたい。

（いけだ　さだむ　三ツ星ベルト株式会社建材事業部技術課）

テトカッパー防水層



防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

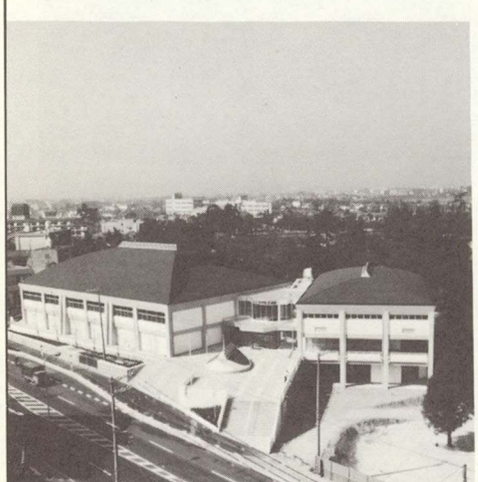
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム


体育館屋根フネンシングル

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1,2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768－1651代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京（03）262－3241代表

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6－2－8 電話 神戸341局5892

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851（大代）　大阪本社 ☎06－448－3603（代）
大阪支社 ☎06－448－5851（代）　名古屋支店 ☎052－211－1535（代）　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147（代）　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒104 東京都中央区銀座2丁目2番17号　電話(03)535-5251
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和
給排水衛生
搬送機設備
設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511（代表）

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
取締役大阪支店長　堀　亀久治

大阪支店　大阪市東区北浜2－22　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(352) 1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(667) 3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和・衛生設備　設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222－61－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・宇都宮・千葉・川崎・富山・福井・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪（458）3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL 06-313-1101
支店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電話 (361) 3671 (代)
支店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電話 (671) 1478 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社 大阪支社

常務取締役支社長 横田幸一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

――誠実と技術でお応えする――

住友電設

取締役社長 相馬一男

住友電設株式会社
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事：発変電設備工事／架空送配電線工事／地中送配電線工事
●設備工事：ビル電気設備工事／工場電気設備工事／防爆電気設備工事／計装工事／空調工事／給排水衛生工事／特殊配管工事／消防施設設備工事
●プラント工事
●情報システム工事：光伝送システム工事／CATVシステム工事／各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設計施工

三宝電機株式会社

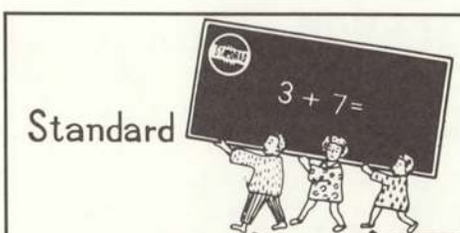
取締役社長 嘉納伝三

本社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

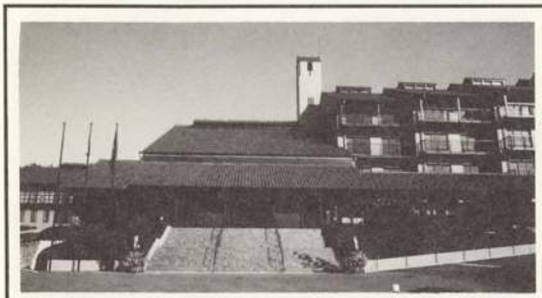
本社 〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市新町50



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)



〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
五六一～七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役 神田都義

本社 〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30 ☎06(606)1111(代)
日本写植センター 〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル ☎0992 (26) 4371
津山写植センター 〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館 ☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター 〒900 南風原村兼城 沖縄印刷団地 ☎0988 (55) 6100

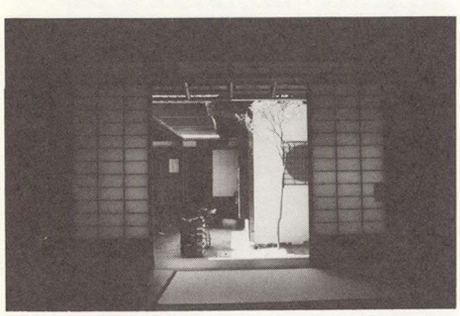
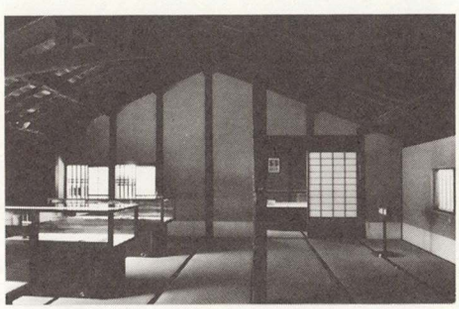
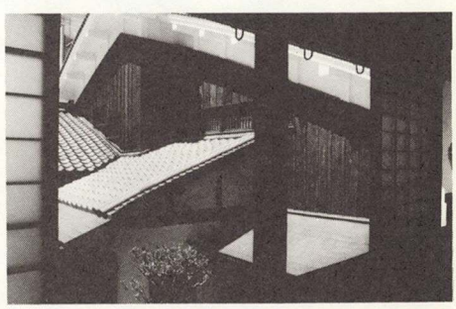
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社/東京都港区六本木3－16－26 ☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜３－７ ☎06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201Ｓ
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000
株式会社トーゴー/本社
TEL 滋賀・守山(0775)83－2381

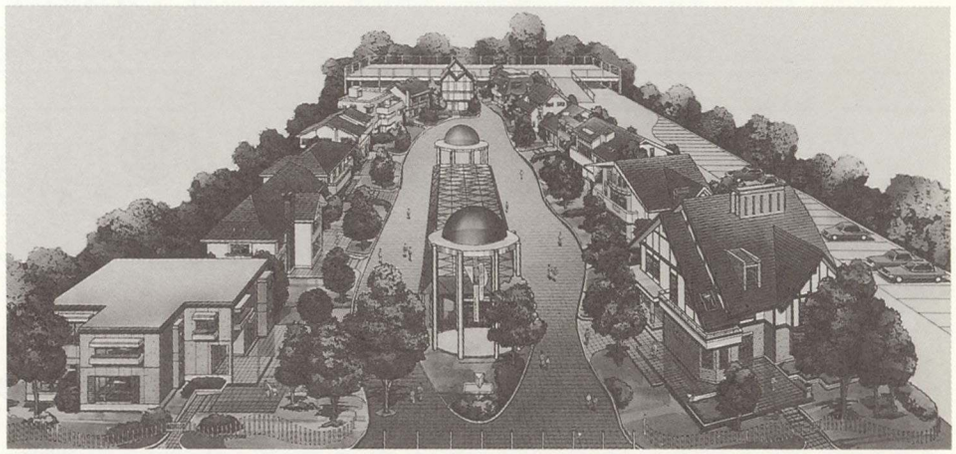




大阪市の中心部、中之島に“先進型住宅のショーケース”誕生
中之島ロイヤルガーデン

財団法人大阪住宅センターでは、これまで、「新大阪」・「泉北とが」の２ヶ所で住宅展示場を開設・運営を行ってきましたが、このたび、３番目の住宅展示場としてロイヤルホテルの東隣に新しく「中之島ロイヤルハウジングガーデン」を昭和63年４月28日から開設しました。

この「中之島ロイヤルハウジングガーデン」は先取の気風に富む大阪のビジネスの最先端エリア中之島に位置しておりますので、開設に関しては“近未来型・高機能住宅の展示場”というトータルコンセプトをたて、この視点からメーカーの協力を得て、結果として従来の住宅に、ゆとり・豊かさとプラス・アルファの機能を加えた「高品質・高機能の先進的な住宅」を数多く住宅需要者にご覧いただける「ショーケース」として登場させることとなりました。

従いまして、この展示場は、“日本の土地事情の中で、先進諸国の住まいレベルに近づけるには？”“住まいに暮らしをあわせるのではなく、暮らしにあった住まいを創るには？”などと、住まいにより高い関心を持つ住宅需要者、住まい方にこだわる住宅需要者の方に具体的なイメージを持っていただくことのできる住宅展示場ということになります。



■概要

1．名　　称　中之島ロイヤルハウジングガーデン
2．主　　催　財団法人　大阪住宅センター
　　ＴＥＬ　06―253―0071
　　〒542 大阪市南区南船場4-4-3
　　御堂筋アーバンライフビル４Ｆ
3．後　　援　建設省　大阪府　大阪市
4．会　　場　大阪市北区中之島５丁目
　　（ロイヤルホテル東隣）
5．交　　通　・地下鉄四ツ橋線「肥後橋」駅徒歩12分
　　・阪神高速道路大阪神戸線中之島出入り口すぐ
　　・大阪市バス「玉江橋」下車すぐ
6．面　　積　約7,315㎡
7．内　　容　・モデルハウス13社13棟
　　・センターハウス
　　――ロビー、案内カウンター、多目的ホール
　　――パーラー“パティオ”(34席)
　　・デモストレーション広場(屋外)
　　・パーキングスペース(100台―無料)
8．開設期間　昭和63年４月28日～昭和66年５月６日
9．開設時間　AM10:00～PM6:00
10．出展メーカー　13社

（出展会社名）
●旭化成ホームズ㈱　●ナショナル住宅産業㈱
●岩谷住宅産業㈱　●東日本ハウス㈱
●クボタハウス㈱　●㈱ミサワセラミックホーム大阪
●小堀住研㈱　●㈱ミサワホーム近畿
●積水化学工業㈱　●三井ホーム㈱
●積水ハウス㈱　●三井木材工業㈱
●大和ハウス工業㈱　（50音順）

■特色

従来の一般的機能充足型の住宅から一歩すすんだ高品質・高機能住宅を数多く展示

○当展示場には生活テーマに対応する機能をプラス１、プラス２と加え、「先進の住機能の充実」「先進の住まい方の充足、実現」を考えた住宅が数多く展示されております。住宅の“質”にうるさい住宅需要者、新しいライフスタイルを求める住宅需要者にも充分満足していただける住宅展示場です。

○展示されている住宅の「プラスαのテーマ」を以下にいくつかご紹介します。

●高齢者に優しい配慮――エレベーター付き住宅。（４棟）
●ダブルインカム夫婦の手助けをするテレホンコントロール、ホームオートメーション機能充実のハイテク住宅。
●核家族の弊害と、土地取得難を同時に解消する２世帯住宅
　――展示13棟中４棟が２世帯住宅
●生活とビジネスをドッキングできる収入型住宅
●多彩な暮らしのソフトが実現できる住宅
　――主人が、文化アニマルに変身することのできるスペースのある住宅
　――ヘルスケアが、自宅でできるスペースをもった住宅　etc.
●地価高騰に対応、土地利用効率、空地率（緑化率）を高める都市型３階建住宅
　――展示13棟中10棟が３階建て。
　（３階建て10棟のうち、木質系が５棟）

中之島の景観にマッチするよう配慮した、花と緑の溢れる住宅展示場

○展示場のある中之島西部地区は水辺の景観が美しく、また再開発計画の構想がある地区で、現在も緑道の整備が進行しています。当展示場はこの美しい中之島の景観を損なわないように充分な配慮を行っています。

○展示場全体は一貫したポリシーに従った造園計画によって花と緑の溢れる空間とし、サイン・看板類にも周辺の景観にマッチするようなデザインの配慮を行っています。またセンターハウスには中之島の象徴であるドームをあしらい、立地にふさわしい住宅展示場を演出しました。

○中之島立地でオフィス街に近いということもあり、通勤の途上に、昼休みに、また、夕方、家族と待ち合わせてというようにウィークディでも気楽に立ち寄って頂けます。

○センターハウス内にはロイヤルホテル直営のパーラー“パティオ(中庭)”を設置、中之島周辺へお勤めの方が来て頂きやすい配慮をしています。

○なお、このパーラー“パティオ”の厨房施設は関西電力の協力により関西初のオール電化の施設となっています。

○先進型住宅、新しいライフスタイルを求める住宅需要者層の集客を目指して、ヨット、毛皮などのメーカー、流通業者に対して展示会などの場所を提供するなど、展示する住宅に対応する各種のイベントを企画、開催する計画です。

建築士事務所登録申請のお知らせ

４月１日から大阪建築士事務所協会（塚本猛次会長）では大阪府の委託を受け、建築士事務所の登録（新規・更新）申請、変更、廃業届の受付事務が行なわれております。各申請要項、用紙やお問合せは下記の同会まで。

(社)大阪建築士事務所協会　〒540 大阪市東区常盤町1-39(大阪フコク生命ビル) TEL 06-946-7065

建築家内井昭蔵講演会

テーマ　「こころの建築」(会費無料)
と　き　1988年5月30日(月)
　　PM4：00～PM5：40
ところ　大阪市東区備後町3－8
　　綿業会館7階ホール
申込み　電話かFAXで
　　(社)新日本建築家協会近畿支部事務局までお申し込み下さい。
　　TEL　06—229—3371
　　FAX　06—229—3374

「50年、100年、生きつづける生命力の強い街をつくるには、まず、その土地の声を聞くこそです。地形、植生、空、歴史、そこに生きてきた人々など、総てをひっくるめた〝自然〟に心を合わせれば、その土地が欲している形がみえてきます。」

ふわふわと浮き上がるイメージをフォルムにしてみせること、自然の声を〝通訳〟して街づくりの方向性を決めることこそ「私たち建築家の仕事だ」と内井昭蔵氏は語っている。

新住宅普及会創立40周年記念シリーズシンポジウム

■第2シンポジウム「都市化社会のなかの住居」
と　き　1988年7月9日(土)
　　AM9：30～PM5：30
パネリスト　奥田道大(立教大学教授)
　　山田浩之(京都大学教授)
　　三村浩史(京都大学教授)(予定)
司　会　巽　和夫(京都大学教授)
ところ　建築会館ホール

■第3シンポジウム「明日のすまいを求めて」
(仮題)
と　き　1988年10月22日(土)
　　PM1：00～PM4：30
ところ　建築会館ホール
参加費　2,000円（当日受付）
申込み　往復ハガキに、氏名、ふりがな、性別、年齢、現住所、電話番号、勤務先名（学校学部学科名）を明記の上、下記へ郵送。
　　(財)新住宅普及会
　　〒156 東京都世田谷区船橋4—29—8
　　TEL　03—484—5381
締　切　先着順定員300名まで、申込受付者には参加票を郵送。

天童木工展1988

家具メーカーの天童木工は、石山修武、北川原温、高松　伸、葉　祥栄、ピーター・ウィルソン(英国)ら5人の建築家による「積層の世界Part Ⅱ」コーナーを設け、「天童木工展1988」を開催する。
と　き　1988年6月7日(火)～6月8日(水)
ところ　大阪コクサイホテル2F展示場
　　(大阪市東区内本町橋詰町58)
問合せ　天童木工東京支店
　　TEL　03—432—0409

大阪府の催し

■まちづくり功労者表彰式
まちづくりに広く大阪府民の理解と協力を得ることを目的として、豊かでうるおいのあるまちづくりを推進するものです。
と　き　1988年6月8日(水)
ところ　大阪府富田林市立公会堂
内　容　表彰式及び記念講演
定　員　500名
申込み　詳細は大阪府建築部へ。
　　TEL　06—941—0351代

■大阪の民家写真展
と　き　1988年6月23日(木)～7月5日(火)
ところ　大阪府豊能府民ロビー（阪急電車池田駅2F）
内　容　豊能地域を中心とした大阪の民家の写真の展示。詳細については、大阪府豊能府民センターへ。
　　TEL　0727—52—4111

「ニュータウン世界フォーラム報告書」発刊のお知らせ

このたび、ニュータウン世界フォーラムの全記録をまとめた報告書が完成いたしました。

本フォーラムは、昨年千里ニュータウンの25周年にあたり、かつ国際居住年というまたとない記念すべき年を選んで、10ヶ国からの参加を得て開催されたもので、時代の大きな転換期に遭遇しているニュータウンの今後のあるべき方向について各国共通の関心と認識をもつことができ、新たなる施策の展開に関して、そのフレームを確保することができたと思います。

産業社会において経験したニュータウンづくりについての理論と実践は、現在大きくゆらぎつつあります。脱工業社会にふさわしい新たなるまちづくりのパラダイムの構築が待ち望まれている現在、本フォーラムで得た成果はこのことに関し、寄与するところがあると信じており、関係各位におかれましては、本報告書を十分ご活用されることをお願い申しあげます。

なお、発行部数は500部の限定出版としていますので下記によりお早めにお申込み下さい。
大きさ　A4判(カラーグラビア入)総頁195頁
定　価　1部5,000円（送料300円）
申込方法　ニュータウン世界フォーラム組織委員会事務局へハガキで(「ニュータウン世界フォーラム報告書申込」)お申込み下さい。または、直接ご来所のうえお求め下さい。
申込み・問合せ先
　ニュータウン世界フォーラム組織委員会事務局
　〒565 豊中市新千里東1丁目2番1号
　　千里中央センタービル3階
　　財団法人大阪府千里センター
　　TEL　06—871—3378



「ニュータウン世界フォーラム報告書」表紙


会場風景

日本建築協会

会員の声

―会員アンケートの意見より――― Ⅱ

■昨年３月に実施した創立70周年記念アンケートより「協会の活動」に対する記述意見を、前月号で掲載いたしました。今月号では、引き続き本会誌「建築と社会」に対する記述意見を紹介いたします。内容別分類をせずにアトランダムに列記しましたので、ご覧になりにくいかと思いますが、ご了承願います。

■なお、ご覧いただいて、さらにご意見等を寄せていただき、紙上討論として発展すれば幸いと願っております。(事務局)

▣「建築と社会」について

・アトリエ派建築家の日頃の活動状況や作品、思想等の積極的な紹介。協会誌であり対外的活動は不必要。外向きのことはマスコミに任す。

・作品の量を各月一定量に。作品はカラーのみで。作品のデーターベースを毎月１頁、建築記録の頁としてリスト化する。数年に１度作品集をまとめて店頭売りする。紙の質の再考(作品頁を除く。日経アーキ風に)。会誌に割り切る。

・よくやっている。続けることに意義あり。本文特集は学生にとっても良い参考資料であるが入手方法がない。

・中堅で手堅い仕事をしている人を含め業績を紹介。発行の遅れは内容にとってダメージ。委員会方式の限界か。若手で良い感覚の編集工房に任せたら？

・出版社ではない。店頭売りの意見があるのは残念。財政的に大変なら季刊誌の方法もある。

・小さくてよいから積算の頁を。支障ない限り総工事費、各工事費の内訳を。本誌自体は良い。学校等を通じて多くの人に知ってもらう。

・作品数を多く。設計者などの関係者のコメントを。会員誌に徹し、身近かな話題を多く。遅滞ない発行を。

・設計者以外の現場担当者の苦労話や伝えたいことも掲載。会員のみの本とし、情報交換の紙面など良い読後感を。美しすぎる。

・論文希望。学、技、芸からする各界の現況、考え方を。

・ローカルすぎる頁がある。商業誌でないのでそれと比肩させるなら本誌は不要。商業誌に出ない会員作品を掘り起こす。

・会員誌として紙質が良すぎる。専門編集員構成とし、会員を執筆陣とする。会員誌の枠を外すし、会員には割安販売を。

・本文特集以外の記事が多い。作品は図面、データ、コストを。写真はもっと掘り下げたものを。建築以外の記事（デザイン、美術、写真、芸術全般、インテリア、グラフィック、風俗、流行、都市計画等）を掲せる。委員会方式でよいが、委員が興味をもち楽しく参加できるように。

・商業誌にない業界情報、協会情報を。会費を増やしても発行を続ける。

・危険だが店頭売りと併用して、一般の反応をみながら発行すれば外界との風通しもよくなり活気が出るのでは？

・主張をもった編集方針を（例、建物種類別、設計者別、施工者別、地域別等)。建築界のニュース欄を。会員誌には立派すぎ、一般販売には中途半端。ユニークな編集方針で市販にも。特に東京へ。

・学会誌、商業誌が取り上げにくいテーマにねらいを定め、八方美人的でなく各号特定テーマで突っ込む。目次が平板で読みづらくアピールしない。もっとメリハリを。突っ込み不足、もっと金をかけ専門編集者を。充実した資料的価値の高い論文を。建築界で関心の高いテーマの特集を組み、各地で開く講習会、シンポジウムのテキストとすれば、会員増、活性化にもつながる。

・努力が伺え不必要な頁はないが、方針、指示を適確に。マンネリ化しているのでは？体裁を捨て実質的に見直す要あり。士会などと年何回かは協力編集をやり年間で1/3～1/4カットする方法は？

・将来に亘る保存のため再編できる方法を。設計の方からは作品と材料が必要。以前の材料データーブックのような充実したものを。

・中途半端。広く浅くなりすぎ。重点的な中心がほしい。作品も頁一面を使わず小さいものを多く。

・歴史を背負っている。会員誌は会の顔。会風をよく表わしている。

・作品には平面図を。構造、施工の機微を。封筒の開封を下部に（空封筒の利用上)。

・建築クラブのスピーカーを誌上紹介しては？話題も多く内容も楽しい。

・話題作の新建築は日刊紙に負けぬよう網羅する。書評などは情報過多の中で好書の紹介を多く。会誌に徹すべきに賛成。

・作品に主要平面、矩計など残して資料になるものを掲載。ただし紙を薄く軽量化する。

・紙が良すぎる。紙を安く記事を充実。委員会方式には限界あり、専門職員を中心に、委員はアドバイザー程度で参加。

・商業誌に走ると他誌と同作品の紹介に終る。現在のとおりで、きめ細かな会員誌に。会費の増額もある程度はよいが、増額しない努力を。

・新建材は白黒のためよく判断できない。カラーにするか記事に工夫を。海外の話題作の紹介など現代ニーズに沿う企画を。商業施設の記事が少ない。もっと流行を追え。

・東海以西を中心とした今の方針に徹する。東京偏向の全国誌は多い。似たものを何回も読まされる程無駄はない。会員誌に留まる要はない。店頭売りして社会的位置づけの拡大を。

・過去の建物の特集。商業誌でないからおとなしい装丁でいい。

・遠くて行事に参加できない会員には、会誌で他都市の建物、催しの内容を知るのがメリットである。会員誌に徹し、多くの情報を。(会費アップもやむをえない)。

・設計事務所の実務の記事を。

・建築的専門分野以外に社会とのつながりを重視した編集を。特に将来の展望を指向。社会学、経済学、建物オーナーなどの立場からの視点を。

・市販誌にない設計競技の審査員の審査中の会話などを。会員誌に徹し、建築以外の文化、芸術、社会の出来事の紹介や批判を。

・関西の近代建築史、建築家史的なものを。会員の意見投稿欄を増やしてコミュニケーションを図る。

・広告に魅力を。表紙のデザインがポイント。レベルの高い会員誌に。

・取材に頼らないのだから、もっとコンパクトな会員誌に徹すべき。何か知ろうとすると他誌と併読しないと情報が入らない中途半端になっている。

・本会の構成から今の内容はやむをえない。大学生協や有名書店に常設販売をしては？関西以外への営業努力を。

・東京中心の全国誌にない関西の建築家、デザイナーの意見や作品をとりあげる。表紙は楽しみだ。作品、作品探訪をもっと掘り下げよ。

・小さくてもレベルの高い作品を。全体に地味で総花的。スマートであかぬけした本に。会員への最小限のサービスが会報、いいものに。月毎にテーマ（設備の月、設計の月、施工の月など順次スポット）を。

・建築界に偏している。建築家の休日的、一般人的な見方も面白い。関西重視には限界も。海外にも眼を向け、海外出張の人の記事を。

・焦点がぼけ中途半端だ。会の構成上やむをえないし、他誌にない特色か？本文特集と作品写真ページの充実を。

・大手の作品紹介に偏している。小事務所作品も。

・表紙を現代的に。美しくなったが更には専門家の参加を。若い人の参加でより楽しいものに。

・設計事務所、請負、官庁各分野の今後のあり方とその中での建築技術者の持つべき能力育成方法、今後のあり方像の特集を。文章の頁は薄く軽量化を。建設省所管の公的団体の機関誌たるメリットを活かした企画を。

・特集記事が多く面白い。情報過多で多くの本を読めないので写真、絵を多くしカタログ的に情報提供を。関西復権のため店頭売りを目指せ。新住宅にやれるのだから。

・中旬以後の入手では行事参加も予定が組めない。

・打合せ、着工から完成、受渡しまでの工程特集を。紙が良すぎる。

・行政ニュース(指導ニュース)、法令ニュース、タウンニュース(作品よりも新業態、三次産業向けの建築、リゾート計画など)、不動産ニュース(公示価格、路線価、賃料など)。建築家の職能が企画型（ソフト実現）に移行している。広い範囲での情報提供が会員を増やす。

・新建材は紹介と共に使用後口談を。バラせる装丁を。会員誌でよい。現編集方式でよい。特集、連載を１～２年分まとめて合本し、店頭売りしては？

・1986年８月号（開発―その創造的仕掛けの鍵）はすばらしかった。「建築と社会」にピッタリのテーマの掲載を。

・日常事務に直結する記事を。「建築データーシート」は大変重宝した。改訂版を。

・設備に関する学術的で実務に関する論文を解り易く解説を。内容的に会員のメリットが少ない。一般建築誌と違った何かを。

・専門技術資料はまとめて別冊にすれば資料として役立つし、臨時収入にもつながる。

・古い名建築シリーズを時代順、国割りなどで毎号１件づつ掲載。新旧対比でき、気分転換にも。後で外せるよう綴じ方に工夫を。

・他誌にない“らしさ”“個性”ある本として続ける。建築ファッション誌でなく、もっと社会性を。

・特集記事は内容が秀れている。海外に紹介しては？外国の協会や学会との提携にもつながる。

・見学会や講演会と連動した記事が必要。近畿地方の情報は大変有効。もっと読み易い工夫を（タイトル、挿絵など)。

・座談会よりも簡潔に情報を伝達できるものを。情緒的な趣向が少なくなっている。

・構造、設備、施工材料の頁はもう少し多く。本文特集はもう少し技術資料的な方向を。中味、装丁とも魅力的になってきている。

・時々の生の情報、自力で得られない情報を。切実なテーマを取り上げ第一線の人達の生の声を紹介。

・会員誌に徹する。内容を少し考えて。

・大先輩の作品シリーズを。

・将来のために悪い建物やデザイン、マッチしない環境を取り上げるのもよい。県庁や市役所巡り、古建築、社寺巡り、駅巡り、面白い建物は多い。支部会員の協力で楽しい紙面ができる。

・記事か広告か判然としない。コマーシャルタウン誌の感がする。身近かな内容を盛り沢山にし、会員誌に徹する。

・関西に多くあるビッグプロジェクトを取材対応。

・会員所属企業の作品は掲載料に配慮を。店頭販売すれば社会に訴えれるし、会員も増える。

・学会、技術関連業界の大きな動向、思潮、すう勢を。不動産、建築販売業界にもベースを拡げる。

・平易で身近かなことを速報する。竣工建物の発表を多く。写真をみて楽しい雑誌に。工事速報（着工、完成)、工事記録、種類別面積、その他建築の動勢を示すデーター、建築統計など。

・建築界以外で建築のわかる人の書いたもの、話などを。表紙は愛情に欠け、国際的視野に欠ける。

日本建築協会

月間の動き

昭和63年３月分

定時評議員会

23日　５時～５時40分　於　本会会議室
出席者　高橋議長ほか40名（委任状共）
議事　(1)評議員会議長、副議長互選の件
(2)会長、副会長２名、理事23名選任の件
(3)役員重任承認の件
(4)昭和63年度事業計画承認の件
(5)昭和63年度収支予算承認の件

理事会

常任理事会
23日　４時～４時50分　於　本会会議室
出席者　佐野会長ほか13名
議事　(1)建設大臣表彰候補者推せんの件
(2)昭和62年度収支見込報告の件
(3)昭和63年度事業計画並びに収支予算承認の件
(4)「建物の結露とカビ、その被害と防止対策」セミナー後援の件
(5)入退会者承認の件
(6)報告事項

編集委員会

第11回作品作風小委員会
２日　５時～７時半　於　本会会議室
出席者　高瀬副委員長ほか４名
議事　(1)最近の作品掲載状況・予定の報告
(2)新建築調査表の依頼について
(3)「Gallery」内容報告と今後の検討
(4)次年度の委員編成について

being幹事会
４日　６時～８時　於　本会会議室
出席者　北村委員ほか３名
議事　「being」次回登場者、取材担当者並びに今後の企画について

「21世紀への照明」特集編集幹事会
８日　６時～８時半　於　本会会議室
出席者　森崎実・村上幸三郎特別幹事・田中幹事ほか４名
議事　63年７月号「21世紀への照明」特集の企画

第４回建築計画分科会
９日　６時半～８時　於　本会会議室
出席者　加藤幹事ほか10名
議事　(1)特集企画検討
(2)委員増員の件

第12回編集委員会
10日　４時～６時　於　本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか２名
議事　(1)３月号「設備におけるLCCとリフレッシュ」特集経過報告
(2)４月号「建物の外装リフレッシュ」特集経過報告
(3)５月号の「都心居住」特集企画
(4)６月号「中国支部」特集経過報告
(5)７月号「21世紀への照明」特集の企画ー設備分科会報告ー
(6)新年度編集委員会委員の件
(7)収支状況報告、そのほか

投稿欄小委員会
10日　６時～８時半　於　本会会議室
出席者　増渕副委員長ほか７名
議事　(1)「アンケート」の掲載内容の確認
(2)“シリーズ”もの企画について
(3)次年度の委員編成、その他

63年６月号「中国地方」特集第６回編集委員会
11日　１時半～４時　於　中国支部
出席者　平本委員長ほか６名
議事　(1)座談会の記事について
(2)作品の編集について
(3)ビッグプロジェクトの選定
(4)アンケートについて
(5)優秀建築賞受賞作品紹介
(6)広島建築ガイドマップ作品選定

第５回構造分科会
15日　４時～６時　於　本会会議室
出席者　向井幹事ほか３名
議事　(1)「構造の頁」の企画
(2)新年度構造分科会の委員構成
(3)構造特集の企画

第４回法令分科会
16日　２時～３時　於　本会会議室
出席者　中島幹事ほか２名
議事　(1)「法令コーナー」
(2)「用語解説コーナー」の復活
(3)新年度の法令分科会の委員構成
(4)法令特集の企画

第11回計画分科会
16日　４時～６時　於　本会会議室
出席者　長谷部委員長、田中直人幹事ほか３名
議事　(1)新年度に向けて
(2)計画特集「都心居住」の実現
(3)新年度以降の企画に向けて

作品作風小委員会「Gallery」企画打合会
19日　10時～11時半　於　パルティ芦屋
出席者　橋本修英氏、中山委員
議事　６月号の「Gallery」の企画内容

第11回広告企画小委員会
22日　４時～６時　於　本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか
議事　(1)３月号「設備におけるＬＣＣとリフレッシュ」特集
「東畑建築事務所作品集」広告収入報告
(2)４月号「建物の外装リフレッシュ」特集広告収入報告
(3)63年度通常号収支計画
(4)63年度独自特集・作品経歴企画
(5)収支状況報告
(6)編集委員会総会開催その他

第11回施工材料分科会
23日　４時～６時　於　本会会議室
出席者　山田幹事ほか３名
議事　(1)４月号「建物の外装リフレッシュ」特集経過報告
(2)次年度施工材料分科会の委員構成
(3)「施工材料の頁」の企画
(4)10月号「共同住宅のリフレッシュ」(仮称)特集企画に向けて

「21世紀への照明」特集　第２回編集幹事会
28日　３時～５時　於　本会会議室
出席者　森崎実・村上幸三郎特別幹事、遠藤委員ほか４名
議事　63年７月号「21世紀への照明」特集の企画

事業委員会

若い会員の集い小委員会
１日　６時半～９時　於　本会会議室
出席者　石川副委員長ほか６名
議事　(1)前回の事業委員会の報告
(2)創立70周年記念事業関係の企画
(3)本年度の小委員会活動の反省並びに次年度の活動
(4)次年度の小委員会構成について

第６回広報小委員会
２日　６時～７時半　於　本会会議室
出席者　原見副委員長ほか５名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)研修分科会からの報告と今後の企画
(3)教室分科会からの報告と今後の企画

第７回見学会小委員会
３日　６時～７時半　於　本会会議室
出席者　伊東副委員長ほか８名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)２月の見学会の実施報告
(3)３月以降の見学の予定
(4)来年度の企画と委員の編成

第７回事業委員会
10日　０時半～２時　於　本会会議室
出席者　鶴田副委員長ほか６名
議事　(1)各小委員会の報告及び新年度の企画について
(2)事業委員会の新年度事業計画及び委員編成について

教育委員会

31日　６時～７時半　於　本会会議室
出席者　片倉委員長ほか９人
議事　(1)講習会・工高生教育両小委員会の本年度事業策告並びに次年度の事業計画について
(2)次年度の委員編成について

建築工事実務講習会

18日　９時～５時　於　建設交流会館
受講者数　69名
科目・講師
- 施工計画（9：00→12：00）
金田　宏氏（大林組建築工務担当部長）
- 仮設見積（13：00→15：00）
安立俊夫氏（大林組建築工務部工務課長）
- 積算業務（15：00→17：00）
黒川征一郎氏（竹中工務店神戸支店見積課長）

デザインコンクール

工高生デザインコンクール募集規定作成会
24日　６時～９時　於　本会会議室
出席者　東孝光審査委員長ほか12名
片倉教育委員長ほか５名
議事　(1)募集規定（案）の検討
(2)今後の作業予定について

建材委員会

9日　3時半～5時半　於　本会会議室
出席者　金井委員長ほか16名
材料説明：パワーシリコン／担当・末木委員
議事　(1)今後の検討建材
　　(2)次年度の委員編成ほか

出版委員会

設備トラブル研究会
15日　6時～8時　於　本会会議室
出席者　牧野委員ほか6名
議事　「続・建築設備トラブル」出版企画検討

70周年記念事業

第5回住宅展委員会
2日　1時～6時　於　本会会議室
出席者　石川・山形両主査ほか4名
議事　(1)資料集の原稿について
　　(2)資料集の販売について
住まいの絵本編集委員会
7日　4時～5時半　於　本会会議室
出席者　北浦委員長ほか8名
議事　(1)絵本の原画
　　(2)印刷の発注
　　(3)収支予算

建築クラブ

朝食会
8日　8時半～10時　於　大阪グランドホテル
演題　ヨーロッパの国境、国柄、雑感
講師　澤田　清氏（神戸工業高等学校建築科長・修成建設専門学校講師）
出席者　70名
新旧役員会
29日　0時半～2時　於　本会会議室
出席者　塚本代表ほか8名
議事　(1)役員半数交代と正副委員長互選の件
　　(2)昭和62年度収支決算承認の件
　　(3)昭和63年度収支予算承認の件
　　(4)今後の講師、司会者決定の件

見学会

奈良県新公会堂及びなら・シルクロード博の見学
8日　2時～4時半
見学先　奈良県新公会堂（奈良市春日野101）
　　なら・シルクロード博　春日野会場・飛火野会場・登大路会場
参加者　58名

研修会

シンポジウム“建築CAD”
23日　1時～5時半　於　建設交流館
参加者　139名
総合司会　松岡進士郎（大林組電子計算センター所長）
■主旨説明　同上
■基調講演　山口　重之（京都工芸繊維大学教授）
■パネルディスカッション
各社報告　飯塚英雄（日建設計大阪技術センター技師長）
　　立松宏一（竹中工務店設計部）
　　中元三郎（安井建築設計事務所情報システム部主任）
　　能丸弘毅（大林組建築設計第3部設計課長）
　　宮城恭政（近畿電気工事新技術技能開発室副室長）
休　憩　(10分)
ディスカッション
■総　括　松岡進士郎

大阪府営貝塚半田住宅再生計画策定委員会

第3回幹事会
28日　2時～5時　於　本会会議室
出席者　実藤幹事長ほか12名
議事　(1)半田地区の再生計画について

3月の入会者（敬称略）

〔団体会員3社〕
エイ・アール・シー・ヤマギワ㈱
日本ジョンソンコントロールズ㈱大阪支店
㈱ユニアック建築事務所

〔個人会員70名〕

磯野義人（太陽工業）	今井和夫（今井建築設計(事)）	今井邦夫（長谷川工務店）
大嶋善樹（清水建設）	小西龍機（小西建築設計(事)）	竹村民郎（大阪産業大学）
武内　務（武内建築設計(事)）	泥川美憲（ユニアック建築(事)）	西森勝弘（匠建築設計(事)）
三好秀明（匠建築設計(事)）	井上和春（フジタ工業）	岩本　弘（フジタ工業）
久野道夫（フジタ工業）	斉藤俊夫（フジタ工業）	桜井政悟（フジタ工業）
四方正武（フジタ工業）	杉元正規（フジタ工業）	土屋袈裟一（フジタ工業）
原田敬三（フジタ工業）	松本七郎（フジタ工業）	松本末雄（フジタ工業）
三宅　孝（フジタ工業）	吉野俊一（フジタ工業）	伊藤郁郎（日建設計）
桑田信篤（日建設計）	末木俊昭（日建設計）	藤井詔一（日建設計）
市嶋久嗣（大林組）	小川芳弘（大林組）	加藤恵造（大林組）
志水史典（大林組）	田澤道生（大林組）	田渕博昭（大林組）
永田完治（大林組）	藤宗範保（大林組）	藤原　博（大林組）
安田寿夫（大林組）	今西博千（安井建築設計(事)）	角野二郎（安井建築設計(事)）
高井　修（安井建築設計(事)）	松岡　繁（安井建築設計(事)）	三渡　進（安井建築設計(事)）
山本秀雄（安井建築設計(事)）	吉田　誠（安井建築設計(事)）	戎家敏行（松村組）
桑田和明（松村組）	後藤和則（松村組）	藤友敏之（松村組）
松本　修（松村組）	井筒敏昭（東畑建築(事)）	今西　克（東畑建築(事)）
岩橋一豊（東畑建築(事)）	馬杉隆博（東畑建築(事)）	尾山　治（東畑建築(事)）
越智幸則（東畑建築(事)）	岡　次郎（東畑建築(事)）	北島章因（東畑建築(事)）
佐藤　稔（東畑建築(事)）	坂田　進（東畑建築(事)）	笹村欽也（東畑建築(事)）
城下善雄（東畑建築(事)）	鈴木隆雄（東畑建築(事)）	辰己幸司（東畑建築(事)）
谷　浩輔（東畑建築(事)）	玉川　晃（東畑建築(事)）	西山賢次（東畑建築(事)）
野村輝雄（東畑建築(事)）	古田重治（東畑建築(事)）	本持一博（東畑建築(事)）
弓崎幸治（東畑建築(事)）		

「プロのノウハウ」「建築技術選書」経過報告
——出版委員会活動レポート——

〈編集進行中のもの〉
※仕上工事監理のチェックポイント（日建設計監理部著）〈プロのノウハウ〉
再校整理中。発行は本年6月の予定。予価2000円。（若林嘉津雄監修、日建設計大阪監理部「監理業務研究会」著）
※ゼロ災への道（表一郎著）〈プロのノウハウ特装版〉
3月14日一式脱稿済。組版中。6月発行予定。予価1600円。
〈その他進行中〉
11月10日付進行問合せ（15件16名）〈返信あり7件＋2件〉
- 室内空気汚染と換気（楢崎正也著）
50ポイント内容案入手一下調べ中。(11月10日付)→未回答
- 建設工事発注者は何を為すべきか（山本達哉）※
- インテリアコーディネートの100ポイント（町田アカデミー著）
目処つきしだいご連絡いただける。(11月10日付)→未回答
- 建築写真の撮り方（平井　聖＋河東義之＋後藤久太郎＋藤岡洋保著）
内容・執筆方法等検討中。(11月10日付)→未回答
- 日常災害（水野弘之著）※
時間をかて、お考えいただく（まとめ方が難しい）。
※コンクリート工事の現場学（加賀秀治著）
(11月10日付)→10%進行中。63年2月中旬脱稿予定。今月末訪問予定。2月24日訪問。5月末最終脱稿。
- 鉄筋工事の現場学（高橋久雄＋佐藤一男著）
(11月10日付)→本年末から着手に変更（山田委員）。
- 建物軀体の健康診断（須賀好富著）
(11月10日付)→63年6月末脱稿予定。
- 杭基礎の設計（八尾真太郎著）
3月期委員会に目次案ご提出済み。(11月10日付)→未回答
※木造在来工法の現場学（浅野平八著）
(11月10日付)→63年2月末脱稿予定。本文草稿受取済。今月末訪問予定。2月23日訪問。図版等草稿受取打合せ。
- 構造図面の描き方とチェックリスト（川村佳則著）
川村佳則委員で、見本原稿作成いただく。(11月10日付)→未回答
※雨仕舞のトラブル50（細谷栄一著）
(11月10日付)→今月末訪問。一部原稿受取予定。2月26日訪問。見本原稿受取。6月末脱稿確認。
- 建築照明の設計と実際（東宮　傳著）
(11月10日付)→63年末脱稿に予定変更（山田委員）。
- 場所打ち杭の設計と施工（阪口　理著）
(11月10日付)→学会指針に合わせるため、63年3月脱稿予定。
- 建築と緑（瀧　光夫著）
予定どおり進行中。63年1月脱稿予定。(11月10日付)→63年2月末脱稿予定。
- 和風建築を美しくつくる方法（二村和幸著）
(11月10日付)→目次案受取。3月末脱稿で努力中。図面多く判型再検討。
- クリーンルーム（清水建設／安永著）
- コンピュータのトラブル〈パソコン入門書〉（脇山広三著）
極めて難しいテーマだが、加えて検討いただける。
- 住宅のリフォーム（谷山紀子著）
資料受取済。検討中。近々訪問打合せ予定。
※続・建築設備のトラブル（同研究会著）
企画凍結



空　間　無　限

太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

東洋シヤッター



シャッターを街の新名所に変えませんか。

シャッタービジョンは、街に表情を与える新しいコミュニケーションスペースです。

思い通りの写真や文字で、シャッターに表情を与えるシャッタービジョン。デッドスペースだった閉店後のシャッターを、新しいコミュニケーションスペースに変えました。簡単な改装工事で、既設のシャッターにも取り付けOK。図柄の取替えも手軽にできますから、イベントの演出などにも効果的にご利用いただけます。



取り付けがさらに簡単になった、シャッタービジョン「カンバスタイプ」が誕生。建物の改装工事なしに、いますぐお店の顔ができます。

新しいコミュニケーションスペース
シャッタービジョン

東洋シヤッター株式会社
〒540 大阪市東区両替町1－12 日本生命谷町ビル TEL. 06 (943) 6571
〒106 東京都港区六本木6－3 第一地所麻布ビル TEL. 03 (479) 2911

建築と社会 第69輯第5号
昭和63年5月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の3の2100 電話大阪06(345)0635
振替口座大阪一三九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円（送料共）